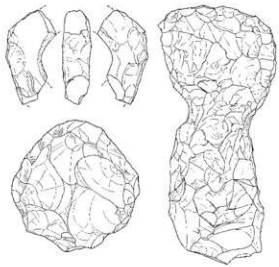
金沢市文化財紀要288

石川県 金沢市

畝田・寺中遺跡Ⅷ

－木曳野遺跡群Ⅵ－



平成25年3月
（2013年）

金　　沢　　市
（金沢市埋蔵文化財センター）

石川県 金沢市

畝田・寺中遺跡Ⅷ

－木曳野遺跡群Ⅵ－

平成25年3月
（2013年）

金　　沢　　市
（金沢市埋蔵文化財センター）

例　言

1．本書「畝田・寺中遺跡Ⅷ」は、石川県金沢市寺中町、畝田西４丁目、桂町地内に所在する事業名：木曳野遺跡群（寺中Ｂ遺跡、桂町南遺跡、畝田・寺中遺跡）の発掘調査報告のうち、平成15年度に実施した畝田・寺中遺跡の調査の一部について報告するものである。

2．本調査は金沢市木曳野土地区画整理組合による土地区画整理事業に伴い、平成15年度に金沢市埋蔵文化財センターが発掘調査を実施したものである。

3．本報告にかかる現地調査は金沢市埋蔵文化財調査委員会（会長　橋本澄夫氏、谷内尾晋司氏、垣田修児氏、横山方子氏）の指導の下で、谷口宗治（文化財保護課主査）が担当した。

4．本書は景山和也（文化財保護課主査）と向井裕知（同　主任主事）が執筆し、編集は向井が担当した。写真撮影は遺物を景山が行い、遺構を谷口が行った。

5．本書の各図及び写真図版の指示は以下のとおりである。
（1）方位は全て座標北である。座標は世界測地系（第Ⅶ系）に基づき設定している。
（2）各図の縮尺は、遺物は1/2・1/3・1/6、遺構は1/60が主であるが、各図に指示しているとおりである。
（3）遺物実測図の番号は通し番号とし、それぞれの本文中、観察表、写真図版のそれと一致する。
（4）遺構名の略号は、SB＝掘立柱建物、SE＝井戸跡、SK＝土坑跡、SD＝溝・川跡、SX＝落ち込み・土器だまり跡などであるが、略号を用いず大河跡とした遺構がある。
（5）土器については「壺」・「甕」・「高坏」・「器台」などと表記するが、用途を示すのではなく、形態による分類で、「壺形土器」などの略称である。
（6）土器実測図の断面が黒色のものは須恵器を、その他のものは白抜きで示している。また、実測図内外面の目の粗いドットは黒色処理を、細かいものは赤彩処理を、細かな砂目状のものは灯明痕を示している。

6．本調査での出土遺物、記録資料は金沢市埋蔵文化財センターで保管している。

畝田・寺中遺跡Ⅷ　目次

第１章　調査箇所と報告の内容……1
　第１節　調査箇所と既往の報告内容
　第２節　本書の報告について

第２章　遺跡の位置と環境……5
　第１節　地理的環境
　第２節　歴史的環境

第３章　検出遺構……7
　第１節　概要
　第２節　掘立柱建物・ピット
　第３節　井戸・土坑
　第４節　溝・川

第４章　土器・陶磁器……（以上、向井）11
　第１節　概要
　第２節　掘立柱建物・ピット
　第３節　井戸・土坑
　第４節　溝・川
　第５節　遺構外

第５章　石製品……（景山）48
　第１節　概要
　第２節　石製品

第６章　総　括……（向井・景山）55
　第１節　遺跡の様相
　第２節　畝田・寺中遺跡の玉つくりについて

　写真図版

第１章　調査箇所と報告の内容

第１節　調査箇所と既往の報告内容

今回報告する畝田・寺中遺跡の発掘調査は、金沢市木曳野土地区画整理事業に伴うものである。

遺跡の発見から発掘調査へ至るまでの経緯は既刊の報告書を参照願いたい（金沢市2006）。

本事業による調査箇所は第１図のとおりである。調査時には、補助事業主体の名称として県費分Ａ～Ｃ区、道路名称によって主幹線１～５区、支線部などと呼称して調査を実施しており、既刊報告書の報告内容との対応については第１表および第２図のとおりである。

木曳野遺跡群Ⅰ（以下Ⅰ、Ⅱ等とする）では、調査に至る経緯や縮尺１/300、１/100遺構平面図版と共に植生や環境復元、木材・石材利用把握のための自然科学分析結果を掲載している。

Ⅱでは、寺中Ｂ遺跡と畝田・寺中遺跡内の桂・寺中遺跡として調査を実施した箇所の調査成果を掲載している。

Ⅲでは、桂町南遺跡と畝田・寺中遺跡の県費分Ａ～Ｃ区の調査成果を掲載している。また、畝田・寺中遺跡の桂・寺中遺跡部分を除いた、縮尺１/500の畝田・寺中遺跡図版が別紙で用意されている。

Ⅳでは、畝田・寺中遺跡の主幹線１区と２区のSD222、SD303（大河跡）の調査成果を掲載している。

Ⅴでは、畝田・寺中遺跡の主幹線３区の調査成果と１区SD222、包含層、２区P20、SD222、SD240、SD244、SD303、４区大河跡出土の墨書土器を掲載している。

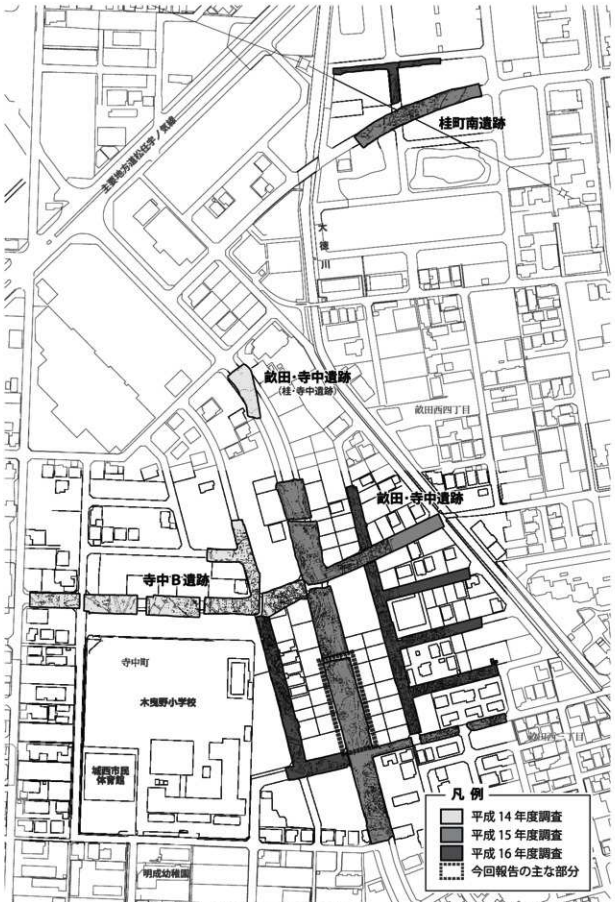
第１表　報告書の内容

紀要No.	書名		内容	発行年
231	木曳野遺跡群　Ⅰ	寺中Ｂ遺跡Ⅵ　桂町南遺跡Ⅰ 畝田・寺中遺跡Ⅲ	調査に至る経緯・経過、航空測量図版、自然科学分析	2006
239	木曳野遺跡群　Ⅱ	寺中Ｂ遺跡Ⅶ　畝田・寺中遺跡Ⅳ	寺中Ｂ遺跡〔報告完〕 桂・寺中（畝田・寺中）遺跡	2007
249	木曳野遺跡群　Ⅲ	桂町南遺跡Ⅱ　畝田・寺中遺跡Ⅴ	桂町南遺跡〔報告完〕 畝田・寺中遺跡（県費分 A・B・C 区）	2008
259	木曳野遺跡群　Ⅳ	畝田・寺中遺跡Ⅵ	畝田・寺中遺跡（主幹線1区・2区 SD222、SD303）	2010
279	木曳野遺跡群　Ⅴ	畝田・寺中遺跡Ⅶ	畝田・寺中遺跡（主幹線3区・2区墨書土器〔1区・4区含〕）	2012
288	木曳野遺跡群　Ⅵ	畝田・寺中遺跡Ⅷ	畝田・寺中遺跡（主幹線2区土器・陶磁器・石製品）	2013

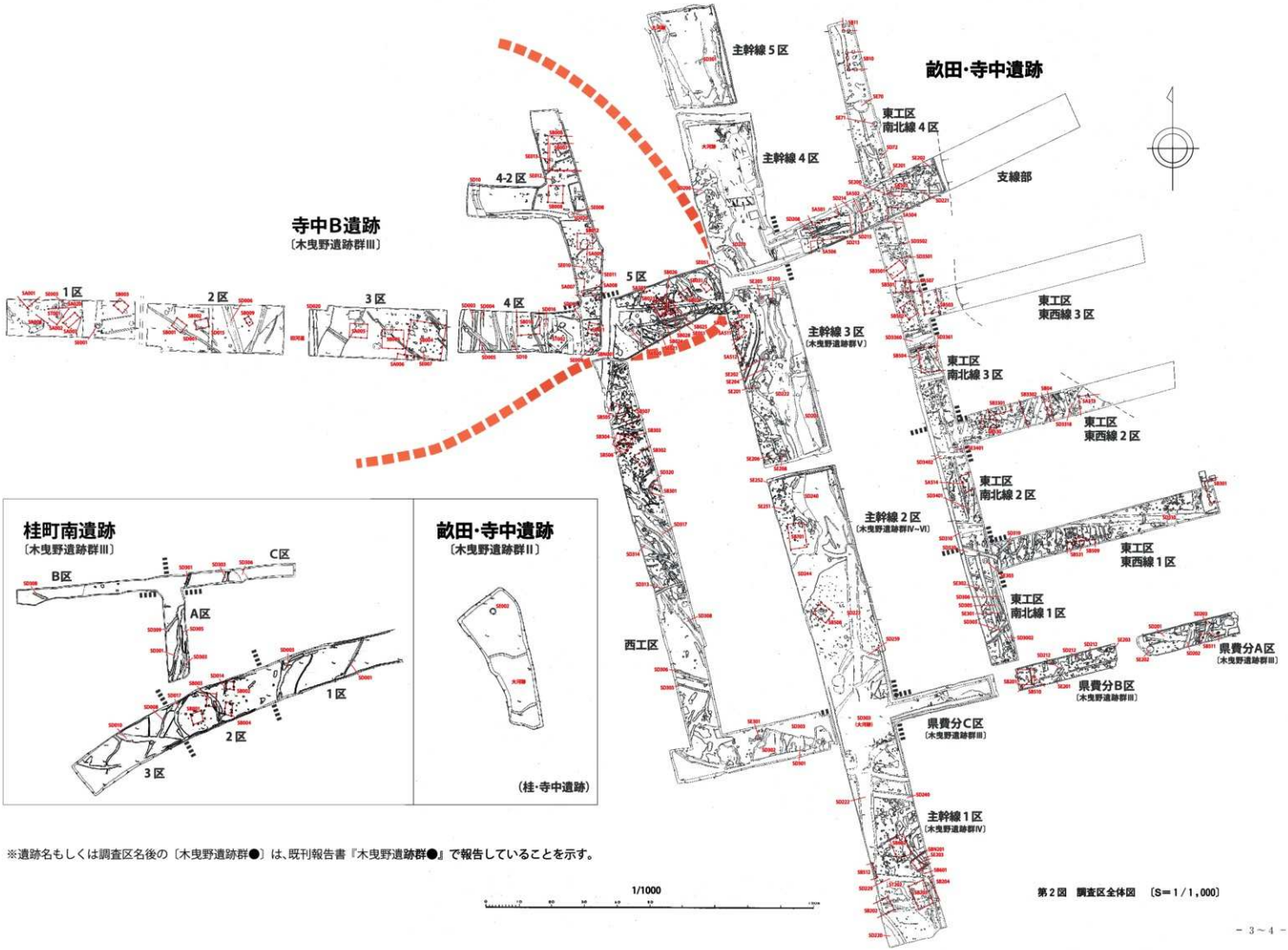
第２節　本書の報告について

第１表および第２図のとおり、寺中Ｂ遺跡と桂町南遺跡の報告は終了しているが、調査面積が広く、遺物も大量に出土している畝田・寺中遺跡については、多くが未報告となっている。これまでに、県費分Ａ～Ｃ区、主幹線１区、同３区、同２区の一部が報告済みであり、本書は主幹線２区の遺構および土器・陶磁器について報告するものである。紙幅の都合で本報告から漏れる木製品と金属製品については、次回以降となるがご了承願いたい。

なお、本書刊行後の未報告範囲は主幹線２区木製品・金属製品、同４区、同５区、支線部、西工区、東工区、鉱滓の自然科学分析、樹種同定分析となり、順次刊行していく予定である。



第1図　調査区位置図　〔S＝1/3,000〕



※遺跡名もしくは調査区名後の〔木曳野遺跡群●〕は、既刊報告書『木曳野遺跡群●』で報告していることを示す。

第2図　調査区全体図　(S=1/1,000)

第２章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境

畝田・寺中遺跡は石川県金沢市畝田町、寺中町地内に所在する。

石川県は本州日本海側のほぼ中央に位置している。北方は日本海に面し、南方は福井県、岐阜県、富山県と接する南北に細長い県であり、日本海に突き出た能登地方とその南の加賀地方に分けられる。金沢市は加賀地方の北部に位置しているが、その西部は日本海に接し、南東部には海抜1,500mを越える山地をかかえる。この山地からは市域を西流する浅野川と犀川が流れ、浅野川は河北潟へ、犀川は日本海へ注ぐ。市域西部の平野部では両河川に挟まれた地域に市街地が形成されている。また、犀川を境として、北部平野と南部平野に分かれ、前者は犀川・浅野川やその北部を流れる金腐川・森下川によって形成された沖積平野であり、後者は手取川が形成する扇状地の北辺である。

本遺跡は市内の北西部、現在の海岸線からは約２km内陸側に位置しており、周辺は海岸線に沿って南北に延びる内灘砂丘の後背湿地を形成している。また、南側を西流する犀川からの分流が本地域を北流し、北側を西流する大野川へと流れ込むことから、ますます湿潤な環境を形成している。

第２節　歴史的環境

畝田・寺中遺跡の周辺に分布する遺跡を時代毎に概観すると、まず縄文時代には後期中葉と晩期後葉の松村Ａ遺跡(59)や晩期の土器・石器が出土する本遺跡(１)があり、近岡遺跡(46)では昭和45年の調査で花粉分析から縄文晩期の農耕について話題になった。

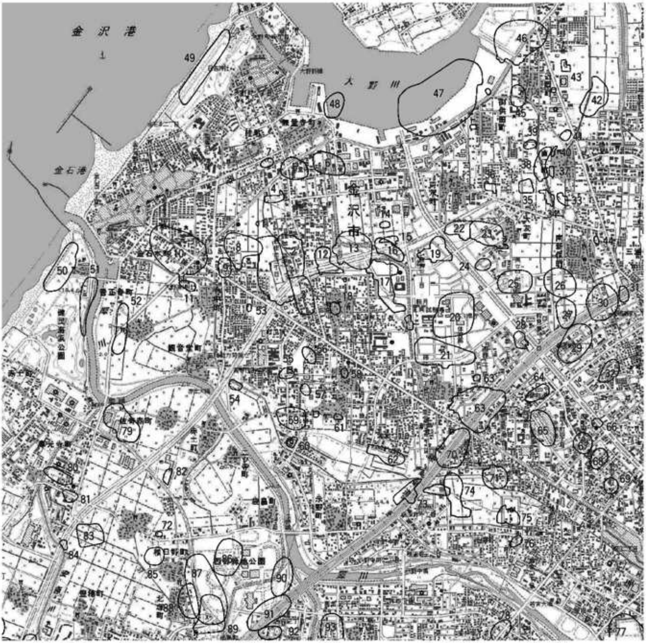
弥生時代は畝田Ｃ遺跡(13)などで遠賀川式土器が出土しており、前期の遺跡も増えてきたが、中期以降増加する傾向にあり、西念・南新保遺跡(29)のような後期へ繋がる拠点的集落も出現する。戸水Ｂ遺跡(20)、戸水Ｃ遺跡(47)、藤江Ｃ遺跡(21)などで前期からの遺物が確認されており、本遺跡においては中期から遺物が確認されている。後期・終末期になると遺跡数は更に増加するが、大方は中期後半から継続して営まれている遺跡である。

古墳時代は弥生終末期の遺跡が継続されることが多いが、中・後期になると激減し、本遺跡の他、周辺では藤江Ｂ遺跡(63)で確認できる。当該期の須恵器を多く確認している本遺跡や藤江Ｃ遺跡などが中・後期の拠点的集落になる可能性があり、本遺跡に関しては弥生時代終末から７世紀代まで継続して確認できる稀有な事例である。

奈良・平安時代は再び遺跡が広く分布し、犀川や大野川河口周辺に津湊関連遺跡や官衙・荘園関連遺跡が出現する。本遺跡においても、８世紀前半から中頃の大規模集落が確認され、遺構の規模や「津司」墨書土器から金石本町遺跡(10)と一連の港湾関連遺跡と考えられている。また、石川県調査区から遺渤海使が帰国した「天平二年(730年)」の記年銘墨書土器が出土しており、その際の饗応に使用された可能性が指摘されている。また、近隣の畝田ナベタ遺跡(17)からは大陸産とされる青銅金箔張の帯金具(巡方)が出土しており、具体的な大陸との交流を物語る遺跡群といえる。

鎌倉・室町時代は、本遺跡も含めて当該期の遺跡が広く分布している。本遺跡では、堀で囲繞された方二町×一町半程度の空間が検出されている。南新保北遺跡(44)では銭の出納に関わる付札木簡が出土している。戸水Ｃ遺跡は古代以来の津湊関連遺跡と評価されている。

本遺跡は、大野荘湊を含む大野荘内(一時期は富永御厨内か)に所在する。畝田地名の初見は日本霊異記「大野郷畝田村」であり(金沢市1998)、平安時代にはその名が認められる。中世には「宇禰田村」、「宇根田村」、「宇祢田村」、「うね田村」などとみえる。



1	畝田・寺中遺跡	（弥生～中世）
2	畝田遺跡	（縄文～平安）
3	畝田大徳川遺跡	（縄文～室町）
4	桂町南遺跡	（弥生～中世）
5	無量寺B遺跡	（古墳）
6	無量寺遺跡	（古墳・中世）
7	桂遺跡	（弥生・古墳・中世）
8	寺中B遺跡	（縄文～平安）
9	寺中遺跡	（弥生）
10	金石本町遺跡	（弥生～平安）
11	寺中御台場跡	（江戸）
12	畝田B遺跡	（弥生～平安）
13	畝田C遺跡	（縄文～平安）
14	無量寺D遺跡	（弥生～平安）
15	無量寺C遺跡	（奈良・平安）
16	畝田・無量寺遺跡	（弥生・奈良・平安）
17	畝田ナベタ遺跡	（奈良・平安）
18	御館前遺跡	（不明）
19	戸水D遺跡	（奈良・平安）
20	戸水B遺跡	（弥生・平安）
21	藤江C遺跡	（弥生～室町）
22	戸水オモテ遺跡	（奈良・平安）
23	大友C遺跡	（不詳）
24	大友B遺跡	（不詳）
25	南新保E遺跡	（弥生～鎌倉）
26	南新保C遺跡	（古墳前期）
27	南新保三枚田遺跡	（弥生～平安）
28	二ツ屋町遺跡	（弥生・平安）
29	西念・南新保遺跡	（弥生～平安）
30	南新保D遺跡	（弥生～平安）
31	南新保B遺跡	（弥生）
32	西念東遺跡	（弥生）
33	直江ボンノシロ遺跡	（縄文～室町）
34	大友F遺跡	（弥生～平安）
35	大友A遺跡	（奈良・平安）
36	大友D遺跡	（弥生・平安）
37	直江ニシヤ遺跡	（古墳～室町）
38	大友E遺跡	（古墳～平安）
39	近岡カンタンボ遺跡	（弥生～奈良）
40	直江西遺跡	（弥生～古墳）
41	直江中遺跡	（縄文～室町）
42	直江北遺跡	（縄文～室町）
43	近岡テラダ遺跡	（弥生・平安～室町）
44	南新保北遺跡	（古墳～中世）
45	近岡ナカシマ遺跡	（弥生・奈良・平安）
46	近岡遺跡	（縄文～室町）
47	戸水C遺跡	（縄文～中世）
48	無量寺金沢港遺跡	（縄文～古墳）
49	金石北遺跡	（不詳）
50	普正寺番屋砂丘遺跡	（縄文・奈良・平安）
51	普正寺遺跡	（鎌倉・室町）
52	普正寺高畠遺跡	（古墳・鎌倉）
53	寺中町南遺跡	（古墳）
54	観音堂B遺跡	（弥生～室町）
55	観音堂遺跡	（弥生）
56	松村西の城遺跡	（古墳・平安）
57	松村平田遺跡	（弥生中期）
58	松村寺の前遺跡	（室町）
59	松村A遺跡	（縄文・古墳・鎌倉・室町）
60	松村どのまえ遺跡	（弥生中期）
61	松村B遺跡	（縄文・弥生・江戸）
62	松村高見遺跡	（弥生中後期）
63	藤江B遺跡	（弥生～平安）
64	二口六丁B遺跡	（弥生・古墳）
65	二口六丁A遺跡	（弥生・古墳）
66	西念ネジタ遺跡	（弥生・古墳）
67	西念クボ遺跡	（縄文・古墳）
68	二口シミズ遺跡	（弥生・古墳）
69	二口町遺跡	（弥生・古墳）
70	藤江A遺跡	（奈良・平安）
71	北町遺跡	（縄文）
72	御館前遺跡	（不詳）
73	桜田・示野中遺跡	（弥生・平安）
74	出雲じいさまだ遺跡	（古墳～室町）
75	薬師堂遺跡	
76	若宮遺跡	（室町）
77	犀川鉄橋遺跡	（縄文～古墳）
78	玉鉾B遺跡	（奈良・平安）
79	佐奇森遺跡	（弥生・平安～江戸）
80	専光寺染色団地遺跡	（古墳）
81	専光寺養魚場遺跡	（古墳～平安）
82	赤土遺跡	（弥生）
83	吉藤専光寺跡	（室町）
84	蔵穂遺跡	（奈良～室町）
85	権日野遺跡	（縄文・古墳）
86	袋畠・北塚C遺跡	（古墳～平安）
87	北塚B遺跡	（平安）
88	北塚A遺跡	（縄文・弥生・平安～室町）
89	北塚古墳群	（古墳）
90	古府カタガリ遺跡	（弥生・平安）
91	古府クルビ遺跡	（弥生～平安）
92	古府B遺跡	（不明）
93	高畠遺跡	（弥生・古墳）

第3図　遺跡の位置と周辺の遺跡分布図　〔S＝1/30,000〕

第３章　検出遺構

第１節　概要

本遺跡では、掘立柱建物、竪穴系建物、布柱建物、柵列、井戸、土坑、区画溝、川跡などを検出しているが、本書で対象としている主幹線２区(以下、調査区)では掘立柱建物、井戸、土坑、溝、川を検出しており、主に古墳時代、奈良時代、平安時代、鎌倉時代のものがみつかっている。

遺構平面図については、『木曳野遺跡群Ⅰ』で各図を掲載したために本書では未掲載だが、第５図に今回報告対象となる調査区とその南北に接する同１区および３区の遺構全体図と各遺構名を示した。また、第２図に木曳野遺跡群の全体図と建物や井戸、溝など主な遺構名を示したものを掲載した。『木曳野遺跡群Ⅱ』～『木曳野遺跡群Ⅶ』については、報告対象とする個別遺構が遺跡の中でどこに位置するかが図示されていないので、本図を参照いただきたい。

第２節　掘立柱建物・ピット

SB508(第４図)　調査区の中央、SD244の東岸、SD222の西岸に所在する桁行３間×梁行２間の側柱建物である。南東側の梁行１間分は他遺構との重複による未検出柱穴や柱並びが若干ずれていることから当該建物柱列には該当しない可能性がある。桁行柱間距離は約1.5～1.7m、梁行柱間距離は約1.3～1.4mである。主軸方位はＮ－51°－Ｗである。古墳時代前・中期の土器片が出土している。

SB701(第５図)　報告書の図面作成後に把握したために、個別図は掲載していない。調査区の北半、SD240とSD244の合流点西岸に所在する桁行３間×梁行２間の側柱建物である。東側と西側に各１間分が延びる可能性があるが、他遺構との重複などによって詳細不明である。桁行柱間距離は北側の２間分が約2.7m、南側は約2.3m、梁行柱間距離は約2.4～2.6mである。主軸方位はＮ－７°－Ｗである。Ｐ１とＰ３が柱穴に該当し、古墳時代前期頃の土器片が出土している。

第３節　井戸・土坑

SE251(第５図)　調査区の北半西側に所在する素掘りの井戸状遺構である。掘方は楕円形状を呈し、長径約1.3m、短径約１m、深さ約1.4mで、14世紀頃の土師器皿などが出土している。

SE252(第５図)　調査区の北西端に所在する素掘りの井戸状遺構である。形状は不明だが、検出した掘方の最大長は約1.4m、深さ約0.64mで、最新の遺物は13世紀頃の珠洲焼が出土している。

SK208(第４図)　調査区中央西寄り、SB508と重複して検出した不整形土坑である。建物との前後関係は不明である。８世紀代の須恵器などが出土している。

SK209(第４図)　調査区中央、SD222とSB508の間に所在する不整形土坑である。SB508と重複する土坑もSK209とされているが、調査時の混乱によるものであり、両土坑共にSK209である。

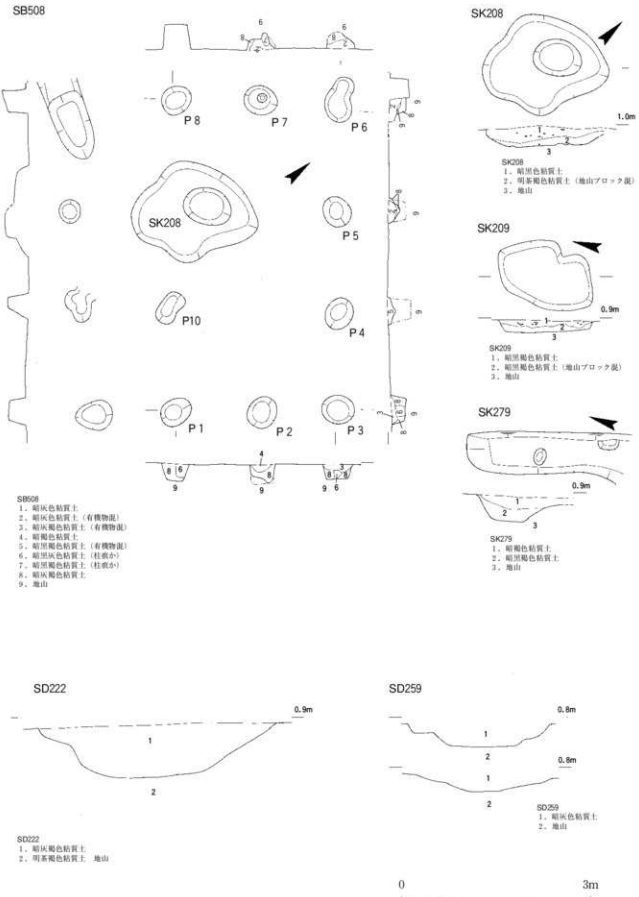
SK279(第４図)　調査区南半に所在する土坑で、調査区壁とSD259により、形状は不明である。

第４節　溝・川

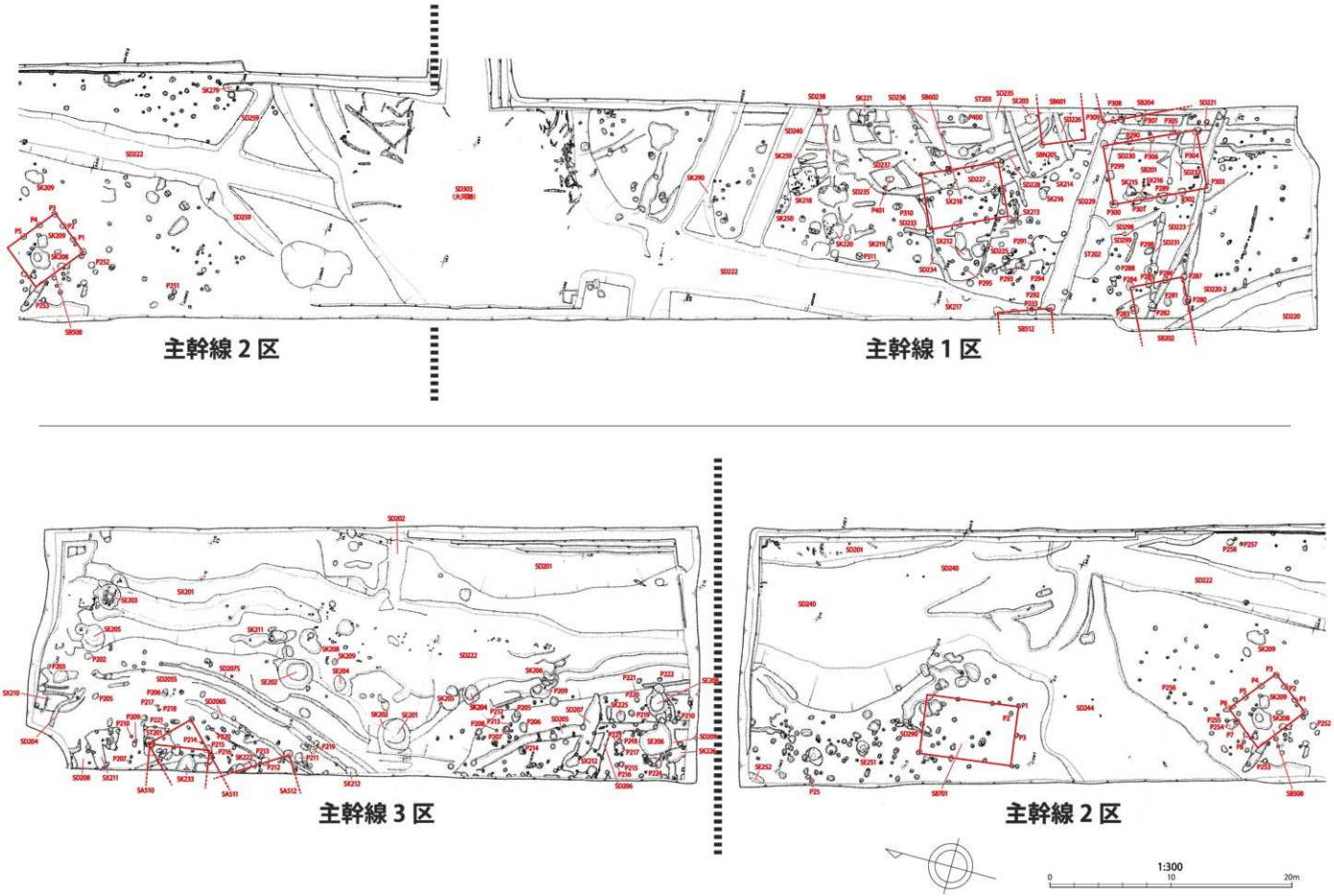
SD240・244(第５図)　調査区北半の大規模河川である。SD244、主幹線１区SD303、同３区SD201と同じ川と考えられる。詳細は既刊書(木曳野遺跡群Ⅴ・Ⅵ)に詳しい。

SD222(第４図)　県調査区と併せると南北220m、東西170m、方二町×一町半程の空間を囲繞する箱堀であり、12～14世紀代の遺物が出土している。詳細は既刊書(木曳野遺跡群Ⅴ・Ⅵ)に詳しい。

SD259(第４図)　SD222と重複するＬ字に折れる溝である。



第４図　SB508、SK208、209、279、SD222、259〔S＝１/60〕



第 5 図　遺構全体図（主幹線 1 ～ 3 区）〔S＝ 1 /300〕

第４章　土器・陶磁器

第１節　概要

本書で報告する出土遺物の大半は古墳時代と奈良時代から平安時代初頭のものであり、川跡から出土している。第２節から遺構毎に報告するが、紙幅の都合により、その遺構の年代を示すものや特殊なものなどを主に取り上げる。個々の遺物の法量や調整等は第２表を参照願いたい。第２表遺構欄の「●区」は「主幹線●区」を示している。また文中の分類や年代観については、参考文献に記した各論考を参照願いたい。

第２節　掘立柱建物・ピット

SB508（第６図）　Ｐ４から１の古墳時代の須恵器坏身が出土している。和泉陶邑窯編年（田辺1981、以下古墳とする）TK208～同47型式が想定される。

ピット（第６図）　本調査区内においてピットから出土した遺物について、比較的残り具合の良いものを掲載したが、Ｐ４～24の位置情報が遺構図からは欠落している。調査時の図面を全て見返したが該当する記述はなく、結果として不備なものとなってしまった。お詫び申し上げたい。

２～８が出土している。４・５と７・８は同一ピットからの出土である。２～５は奈良時代の須恵器で、田嶋編年（田嶋1988、以下古代とする）Ⅲ～Ⅳ１期の有台坏と無台坏である。

８は口縁端部が肥厚するいわゆる布留甕であり、６も若干肥厚が見られる。古墳時代前期のものである。

第３節　井戸・土坑

SK208（第６図）　９～17が出土している。９・10は古代Ⅳ期頃、11・13はⅢ期、12はⅢ～Ⅳ１期、14はⅤ期頃が想定される。15・16は古墳時代の土器で混入と考えられ、17は須恵器同様に奈良時代から平安時代初頭のものであろう。

SE251（第６図）　18のてづくね土師器小皿が出土している。13世紀後半から14世紀頃のものであろう。

SE252（第６図）　19・20が出土している。20は珠洲焼甕で、口縁部形態から珠洲焼編年（吉岡1994）Ⅱ期の製品で13世紀前半頃の年代が考えられる。

第４節　溝・川

SD222（第７図）　21～30が出土している。SD222の時期を示すものは27のてづくね土師器皿で、磨滅によりヨコナデの痕跡は見えにくいが、僅かに残る稜からナデ幅は狭いことがわかる。口縁部の残り具合が悪く、図ほど口径は大きくならないと考えられ、13世紀代の年代が考えられる。

21、23、25、26、28は古墳時代の製品であり、21は古墳MT15型式前後が想定される。25は胴部中位に櫛描き列点文を施す甕、28は鍋・甑などの把手である。

22・24は奈良時代後半から平安時代初頭頃の須恵器蓋と無台坏で古代Ⅳ期頃が想定される。29・30は底部糸切りの赤彩土師器碗である。

SD222・303（第７図）　31～38が出土している。32～35は古代Ⅲ～Ⅳ期が想定される蓋と有台坏で、35は口縁部に打ち欠きがみられるため図化している。意図的な打ち欠きが想定される場合は、本図のような表現をしている。37は内外面ミガキ調整の後、赤彩を施した土師器碗である。須恵器と同様の時

期が想定される。

SD303(第8図) 39～52が出土している。39～46は須恵器蓋で、古代Ⅳ期が想定される。43は打ち欠きの表現がなされているが、意識的な打ち欠きであるか定かではない。47～52は須恵器有台坏等で、蓋同様に古代Ⅳ期が想定されるが、48は稜碗等の特殊器種もしくは底部からの立ち上がりが緩やかな古代Ⅱ期頃の有台坏の可能性が考えられる。52は打ち欠き部に灯明痕が見られるが、打ち欠いて使用したものか、廃棄後に被熱したものかは不明である。

SD240(第8～20図) 53～290が出土している。弥生時代から室町時代の遺物が出土しているが、本流は古墳時代から平安時代に機能していたと考えられ、平安時代末頃から鎌倉時代初頭の遺物群は本流を切って流れる別の流路(明確なプランは検出できていないが、3区SD222に繋がると想定される)に由来し、その他の遺物は周辺からの混入と考えられる。

53～73は54を除いて古墳時代の壺、甕である。57は口縁部に穿孔が1ヶ所見られるが、口縁部残存率が3/12であるため、複数ヶ所の穿孔を伴う可能性がある。65は胴部が長胴形を呈す甕で、外面全体と口縁部内面に煤が付着している。70・71は小型甕であり、71は胴部に焼成後穿孔を有するが、破損のために形状は不明である。73は外面全体に煤、内面下半にコゲ・ヨゴレが付着している。74～76、78は甑と考えている。78は外面に煤、内面のほぼ全体にヨゴレが付着している。77は鍋であろうか。79～82は甑や鍋の把手と考えている。83は古墳時代の小型甕か、弥生時代の甕の底部であろう。84～117は古墳時代中・後期の土師器・須恵器である。84～93は土師器碗であり、87～92は内面黒色処理を施している。また、底部が見つかっていないものは94・95のような台が付く可能性がある。90は口縁部に焼成後穿孔が1ヶ所見られるが、破損により孔の全形は不明である。93は口縁部の残存率が1/12以下であり、口径の復元径に不安が残る。碗としたが、外面に煤、内面には煤もしくはヨゴレが付着しており、煮炊きなどに用いた可能性がある。97～106は坏蓋である。97は古墳TK23～47、98～102はMT15～TK10、103～106はTK43～209型式が想定される。107～113は坏身である。107は古墳MT15、108～111はTK47～MT15、112・113はTK43型式が想定される。114は無蓋高坏の坏部で、底部近くに櫛描き列点文を廻らす。116・117は比較的大型の鉢である。

119～276は奈良時代から平安時代の製品である。119～134は須恵器蓋で、概ね古代Ⅳ期の製品が多く、Ⅲ期の製品も見られる。産地は高松窯産が多く、末窯も一定量見られる。これは次に述べる有台坏、無台坏でも同様である。134は輪状の摘みをもつ金沢末窯産と考えられる蓋で、古代Ⅳ2新期に想定される末2号窯尾根部出土品に類例がある。121は「－」、123は「＝」、124は「×」の線刻が内面に見える。135は底部糸切りの須恵器有台碗である。平安時代後期の製品であろうか。136～178は須恵器有台坏である。136～141は古代Ⅱ期頃が想定される。ただし138は口縁端部形態から Ⅳ期まで下る可能性がある。141は外底面に「＝」状の線刻が見えるが、意図的なものかは不明である。142～178は古代Ⅳ期頃が想定される。144は「＝」、147・163・171・175は「－」、152は輪花状の線刻が外底面に見られるが、164の外底面に見える「＝」状の線刻は意図的なものかは不明である。150は口縁に「＝」状の線刻が見える。167は内外面全体に灯明痕が見える。169の図で表現している小さな打ち欠き痕は意図的なものかは不明である。179～238は須恵器無台坏である。古代Ⅱ～Ⅴ期の製品があり、Ⅲ～Ⅳ期が定量を占める。192は「＋」状、220・221は「＋」、223は「－」状、224・225・229は「－」の線刻が外底面に見える。218・219・224・226に灯明痕が認められ、218・224は口縁端部に帯状に灯明痕が付着しているのに対して、219は口縁端部の小さな割れ目にのみ付着している。228・229は漆膜が付着している。229は現状で部分的な付着に留まるが、口縁部内面の底部境から1/3程上方にかけてヨゴレが見られることから、当初はこのヨゴレの高さまで漆溶液が入れられていたものと推

測できる。239～243は須恵器無台盤であり、末窯産古代Ⅳ～Ⅴ期のものである。244～246は内外面赤彩を施す土師器碗である。244は丁寧にミガキ調整を施した精美なものである。247・248はそれぞれ柱状高台状、柱状高台の土師器碗と考えられ、249～251は内面黒色処理を施した土師器有台碗である。平安時代後半の製品であろう。252～262は煮炊具である土師器甕・鍋である。252は内面下半にヨゴレが付着している。253は外面底部付近に煤が、内底部にはコゲ、内面全体にヨゴレが付着している。254は外面と口縁端部内面に煤が付着している。255は内底面にコゲが付着している。262は外面に煤が、内面には部分的にヨゴレが付着している。263は須恵器高坏脚部で、裾端部の破断箇所は打ち欠きによって整形している。264は須恵器鉄鉢である。265～276は貯蔵具である須恵器壺・瓶・甕である。265は長頸瓶の口縁部から肩部であるが、頸部の接合痕はロクロによる胴部成形時に頸部の穴に該当する箇所を別の粘土で塞いだ上で胴部の形を整え、口縁部分を取り付ける際に塞いだ粘土部分を穿孔したことを示す痕跡である。

277はてづくね土師器小皿に手捏の台を付けて、高坏形態に仕上げたものである。小皿の形態から13世紀代のものと考えられる。278～280はてづくね土師器皿で、12世紀後葉から13世紀代のものであろう。281～283は大宰府分類(太宰府市教育委員会2000)青磁碗のⅠ類である。284は同分類白磁皿Ⅵ1b類であろうか。285は古瀬戸瓶類の口縁部であり、中期の製品であろうか。286～290は珠洲焼で珠洲焼編年Ⅰ・Ⅱ期が想定される。

SD244(第21～28図)　291～438の弥生時代から平安時代初頭頃の遺物が出土している。293を除く291～338は古墳時代の壺・甕である。291は壺の口縁部から頸部付近で、頸部付近の破断箇所は全周打ち欠いて整った円形に整形している。302は口縁部外面の強い指頭圧痕により、厚みの凹凸が大きくなっている。303～305は山陰系の甕である。320～323は布留甕である。324は小型の甕で、外面には全体的に強く煤が付着しており、内面底部付近はコゲが、胴部中位から上位にかけてはヨゴレが付着している。325は球形の体部をもつ甕で、外面には全体的に煤が強く付着しており、内面底部付近にはコゲが、胴部中位から口縁部にかけてはヨゴレが付着している。330は長胴気味の胴部をもつ甕で、外面全体に煤が付着しているが、口縁部から頸部にかけてはより強く付着している。内面には薄くヨゴレが付着する程度である。332は中型の甕で、外面全体に強く煤が付着し、内面は底部付近にヨゴレが付着している。335は長胴気味の胴部を持つ甕で、外面には強く煤が付着し、内面の口縁部から頸部と胴部下半にはヨゴレが、胴部上位中位境にはパッチ状のコゲが付着している。339は広口であり、甑と想定している。349～354は移動式竈の部位と考えられ、全体的にハケ目調整を施している。349は竈の掛け口と考えられる。350は焚口上部の庇部分と考えられ、内面には煤が付着している。351は正面から見て焚口右側の部位と考えられる。352～354は接地部が残っており、353は正面から見て左側の庇接地部付近と考えられる。355・356は鉢で、355は底部に穿孔が見られる。357～361は小型丸底壺で、357は手捏形の小型壺である。362は内外面赤彩する小型の鉢である。367～372は高坏であり、367を除いて古墳時代のものである。371は柱状の脚部をもつもので、脚部外面と坏部内面を赤彩するが、坏部外面については破損のため不明である。373～395は古墳時代中・後期の土師器碗であり、383～395内面黒色処理を施しており、383～386は台付碗である。386は碗部見込みに十字の線刻が見える。396～409は古墳時代中・後期の須恵器坏蓋である。396・398・399は古墳TK47、397はTK23～47、400～402はMT15、403～406はTK10、407・408はTK43、409はTK43～209型式が概ね想定される。410～424は上記の蓋に対応する坏身である。410・412は古墳TK23～47、411・414・416はTK47、413・415・417・418はTK10、419～422はTK43型式が想定される。425～428は古墳時代中・後期の高坏である。425は台形、426は三角形、427は小さな方形の透かしが脚部に見られる。429は非常

に緻密な胎土の範と考えられるものであり、底部にはタタキ目が見える。

430～437は奈良時代から平安時代初頭頃の製品である。430は須恵器蓋で、古代Ⅲ～Ⅳ1期頃が想定される。431・432は須恵器有台坏で、431はⅡ～Ⅲ期、432はⅣ1期が想定される。431の内底面には墨痕が広く認められるため、転用硯の可能性がある。432は内底面に漆膜が付着している。433～435は須恵器無台坏で、古代Ⅳ期が想定される。434は内底面に漆塗膜が付着しており、432と共に漆容器として使用されていたものであろう。436・437は内外面赤彩を施す土師器碗であり、436は内外面にミガキ調整を丁寧に施している。437は内底面にミガキ調整と連弧状の暗文を施しており丁寧な造りである。また、破断箇所を打ち欠いて研磨しているような痕跡があり、円盤状に加工している可能性がある。

438は口縁部に強い1段ナデを施し、内面はミガキ調整を施す器台状の土師器である。底部穿孔径は9～10㎜で、胎土は比較的精良だが、やや大きめの砂粒と若干の小礫が混ざる。外底部には接着面で径3㎝程の脚部がついていたことが破断痕跡から推定できる。形態的には鎌倉時代頃の土師器小皿に類似するが、器壁の厚さや胎土、内面の調整が異なっており、古墳時代の器台の可能性を考えておきたい。

SD240・244（第29図） SD240と244の合流点付近で出土した遺物で、439～444が出土している。439～444は古墳時代中・後期の須恵器坏蓋および坏身である。439・440・444は古墳TK10、441～443はTK43型式が想定される。

第5節　遺構外

遺構外（第29図） 445～453が出土している。445は古墳時代後期の須恵器坏身で古墳MT15型式が想定される。

446～449は平安時代初頭前後の須恵器有台坏と無台坏であり、古代Ⅳ期が想定される。448と449の外底面には袋文字「人」の墨書が見られる。450・451は龍泉窯系青磁碗であり、450は大宰府分類Ⅱb類である。452・453は奈良・平安時代の須恵器貯蔵具である壺と甕である。

【参考文献】

折戸靖幸・川畑誠　1994「高松・押水窯跡群における8世紀中葉の画期」『北陸古代土器研究』第4号

田嶋明人　1988「古代土器編年軸の設定」『北陸古代土器研究の現状と課題』北陸古代土器研究会

田辺昭三　1981『須恵器大成』

藤澤良祐　2008『中世瀬戸窯の研究』高志書院

望月精司　1994「南加賀古窯跡群における8世紀中葉の画期」『北陸古代土器研究』第4号

吉岡康暢　1994「中世須恵器の研究」吉川弘文館

石川県立埋蔵文化財センター　1994『正友ヤチヤマ窯跡』

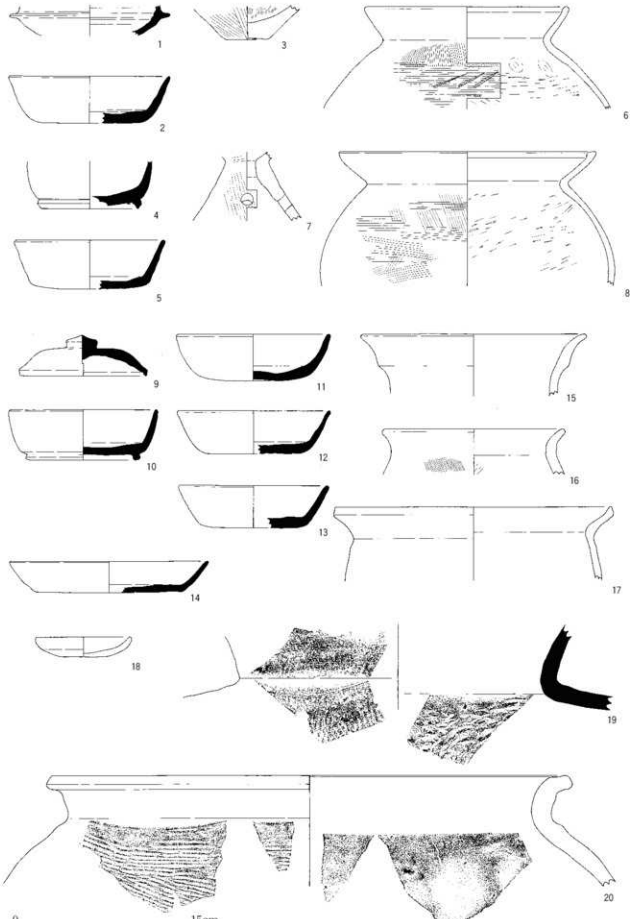
石川県教育委員会　2006『金沢市畝田西遺跡群Ⅳ』

石川県教育委員会　2006『金沢市畝田西遺跡群Ⅴ』

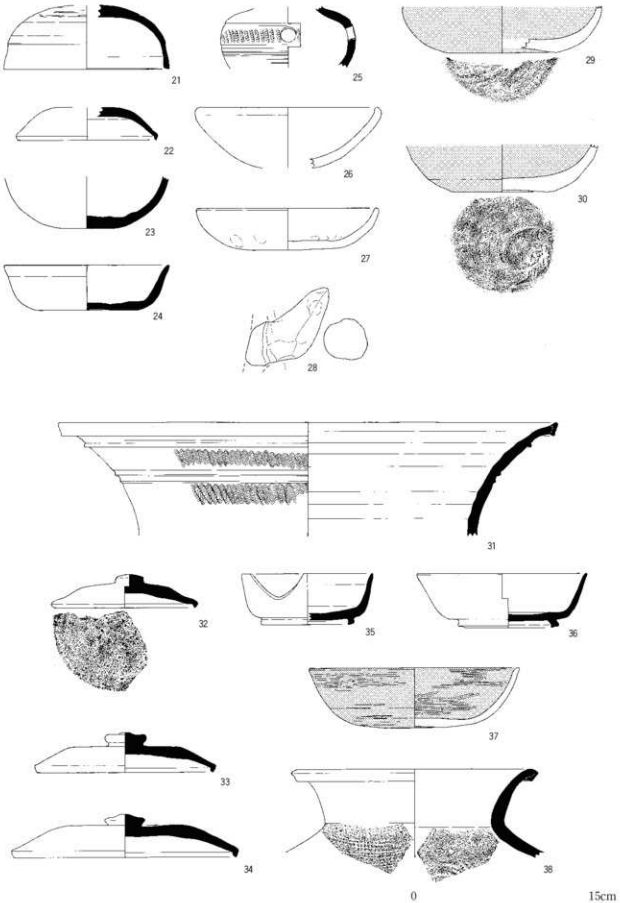
金沢市教育委員会　1989『金沢市末古窯跡群』

小松市教育委員会　1990『二ツ梨東山古窯跡・矢田野向山古窯跡』

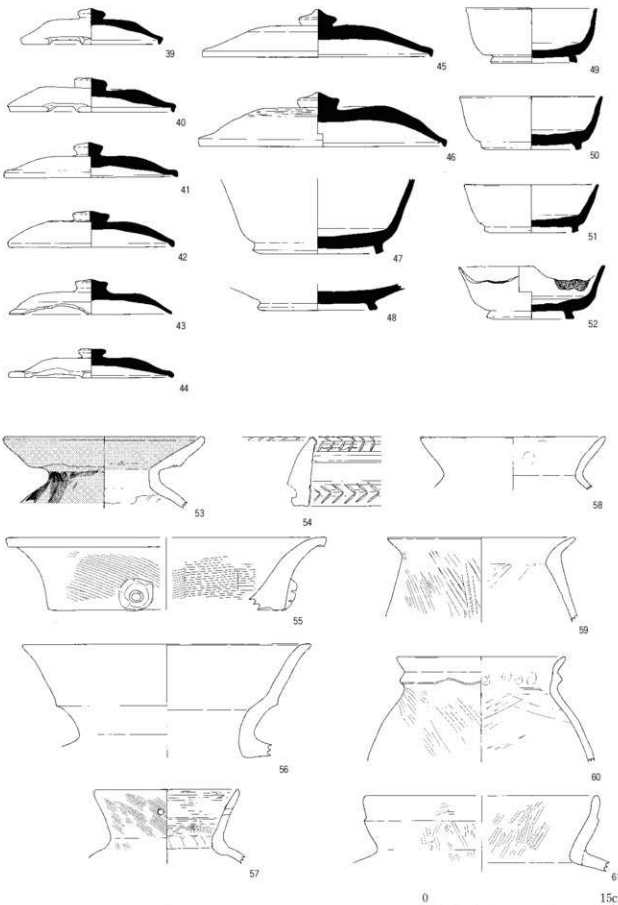
太宰府市教育委員会　2000『大宰府条坊跡ⅩⅤ－陶磁器分類編－』



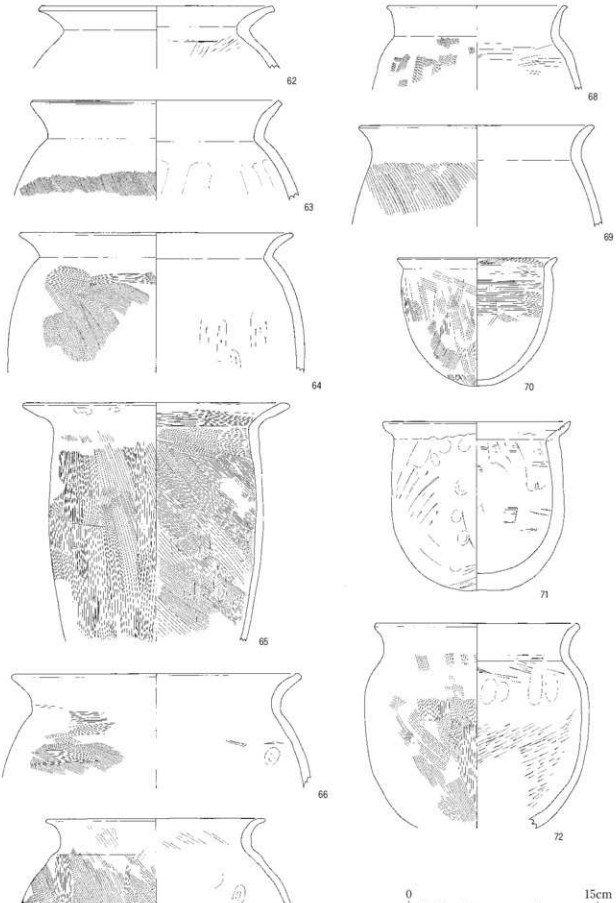
第6図　SB508（1）・ピット（2～8）・SK203（9）・SK208（10～17）・SE251（18）・SE252（19・20）出土土器・陶磁器〔S＝1／3〕



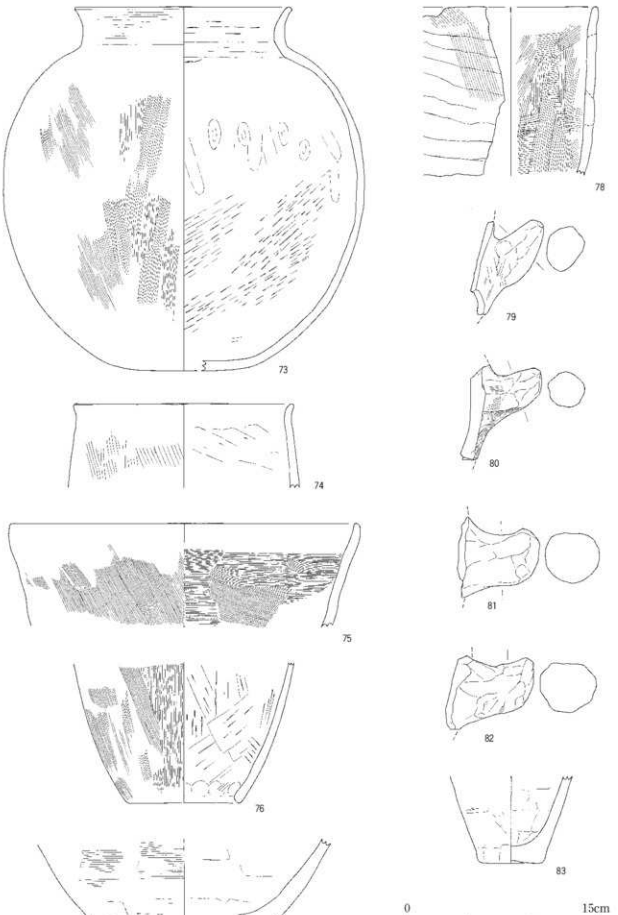
第７図　SD222（21～30）、SD222・SD303（31～38）出土土器・陶磁器〔S＝１／３〕



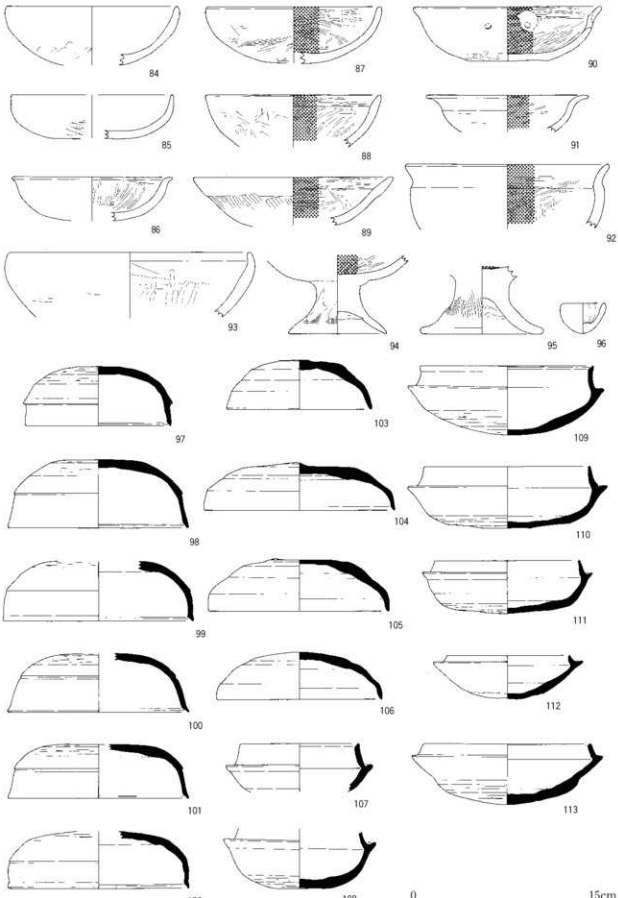
第8図　SD303（39～52）出土土器・陶磁器・SD240（53～61）出土土器・陶磁器（1）〔S＝1／3〕



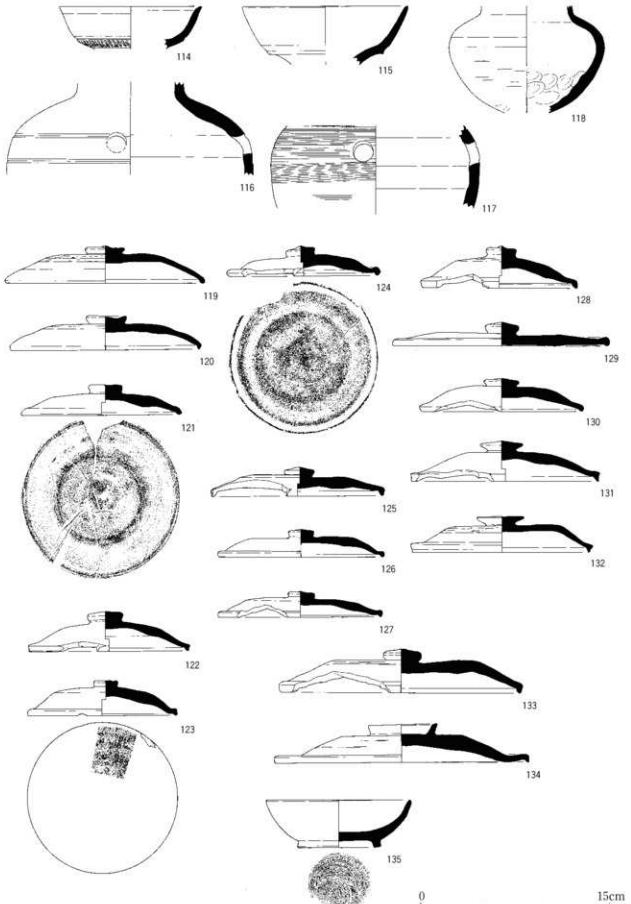
第９図　SD240出土土器・陶磁器（２）〔S＝１／３〕



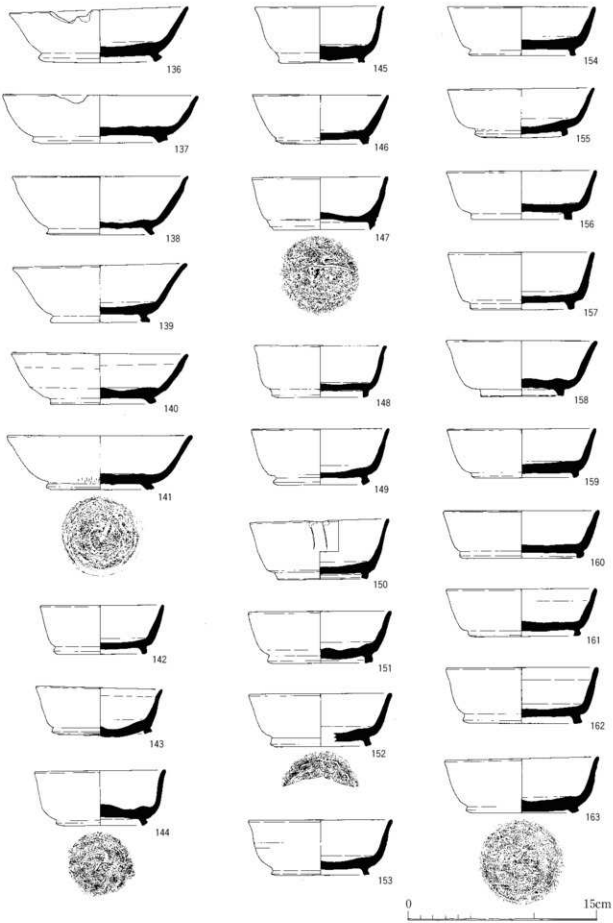
第10図　SD240出土土器・陶磁器（3）〔S＝1／3〕



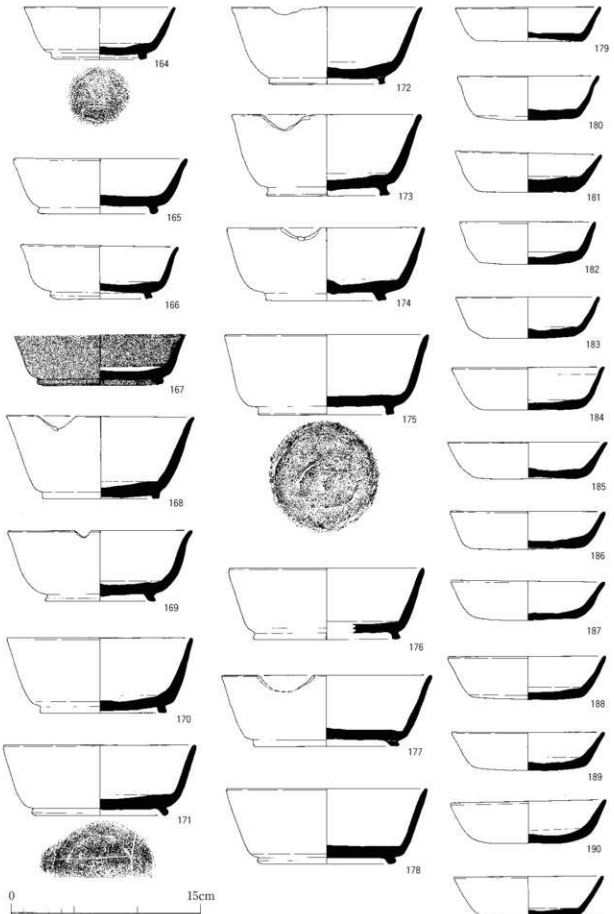
第11図　SD240出土土器・陶磁器（4）〔S＝1／3〕



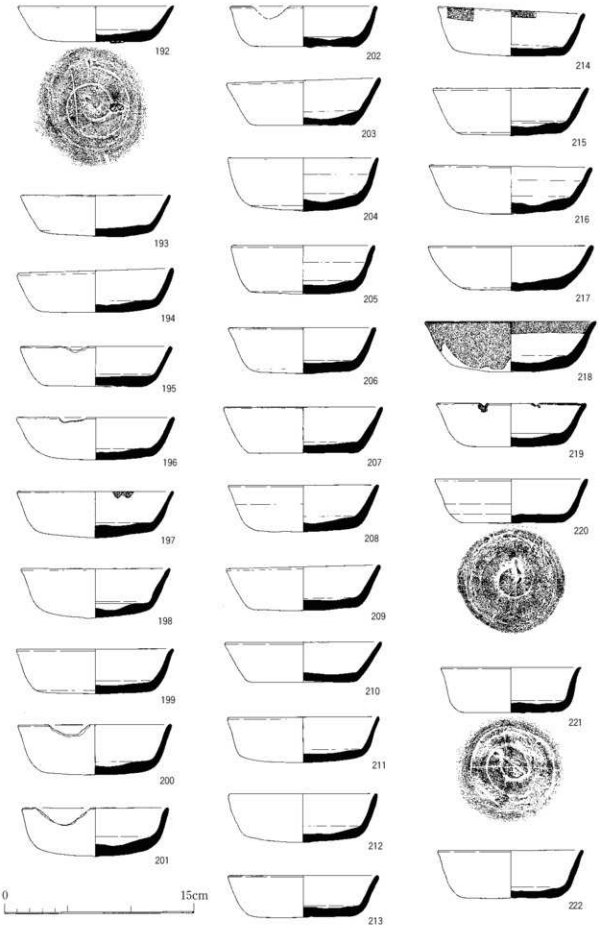
第12図　SD240出土土器・陶磁器（5）〔S＝1／3〕



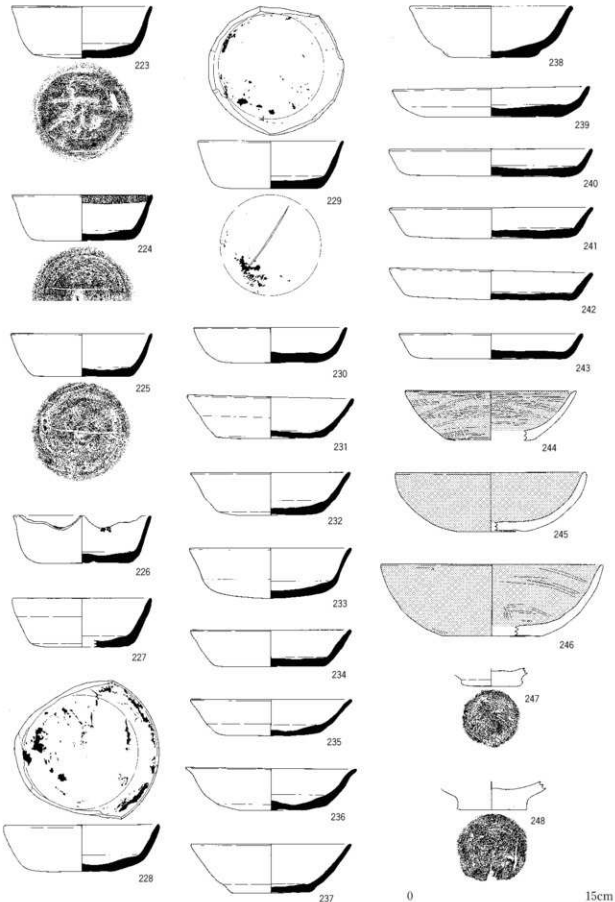
第13図　SD240出土土器・陶磁器（6）〔S＝1／3〕



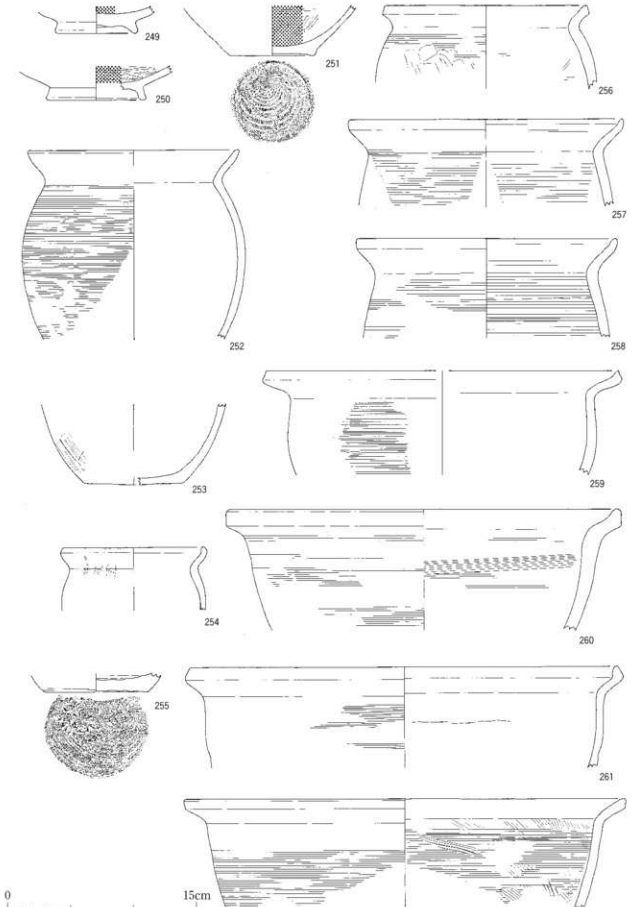
第14図　SD240出土土器・陶磁器（7）〔S＝1／3〕



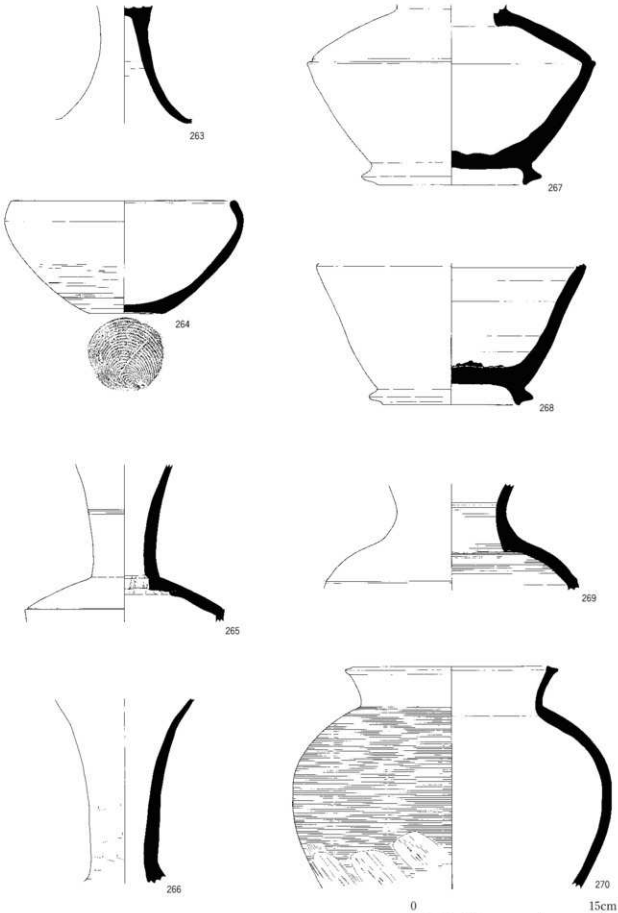
第15図　SD240出土土器・陶磁器（8）〔S＝1／3〕



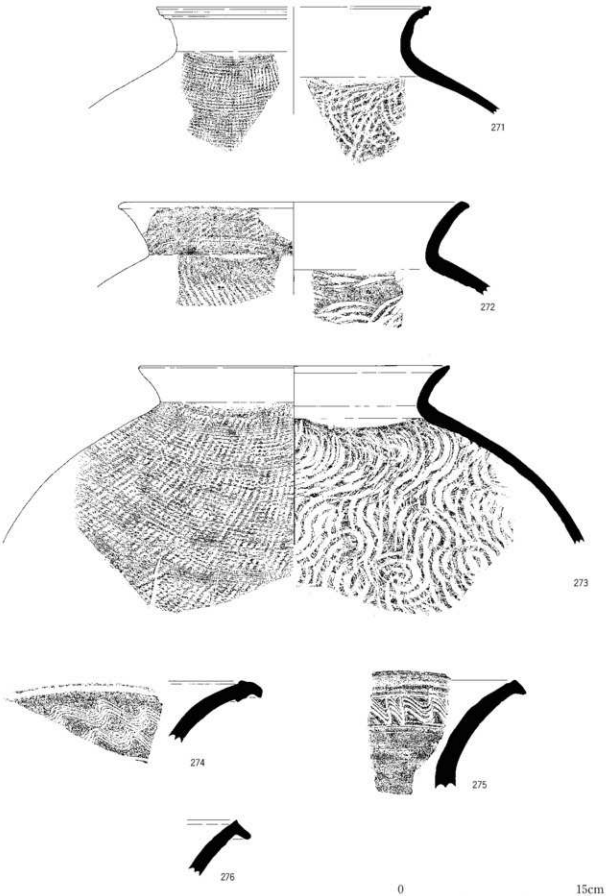
第16図　SD240出土土器・陶磁器（9）〔S＝1／3〕



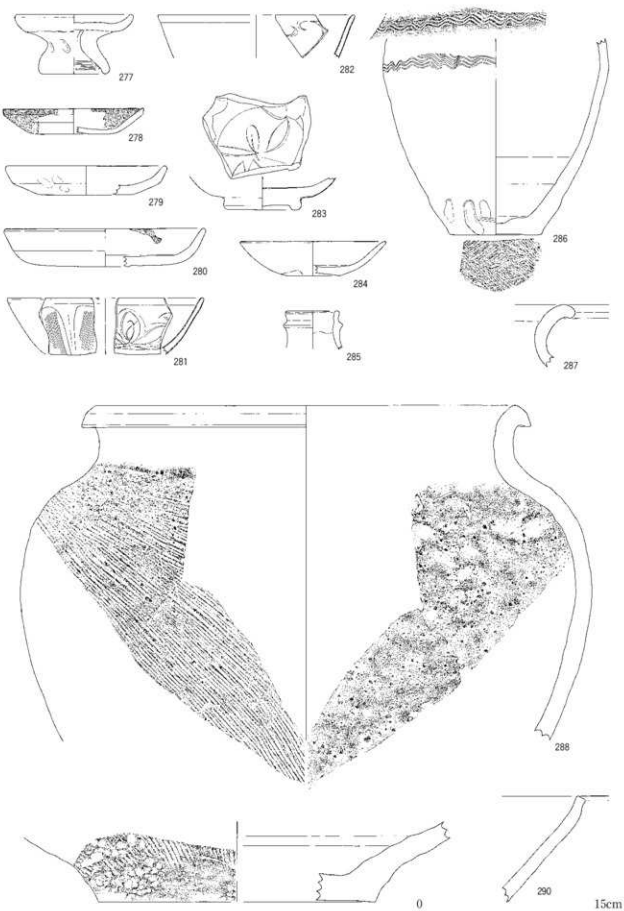
第17図　SD240出土土器・陶磁器（10）〔S＝1／3〕



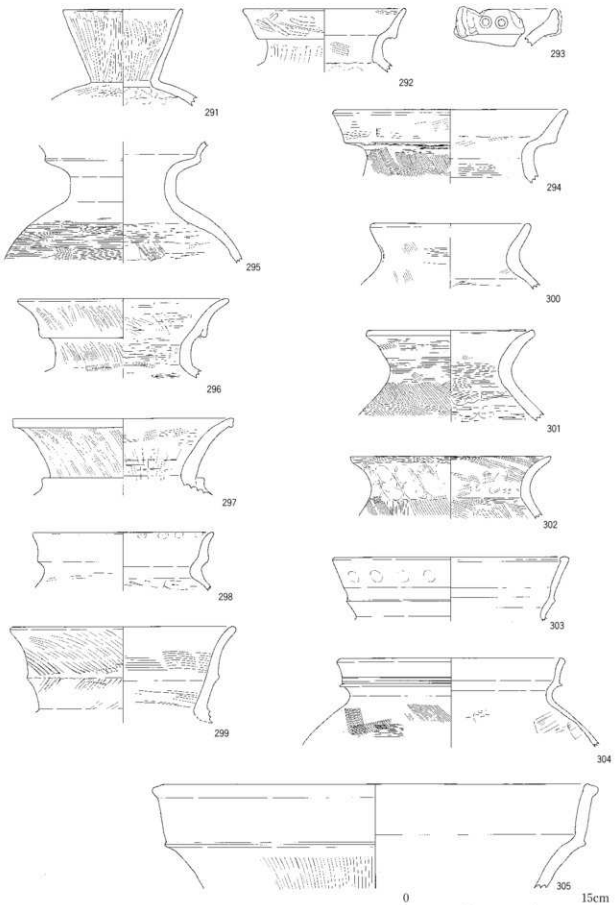
第18図　SD240出土土器・陶磁器（11）〔S＝1／3〕



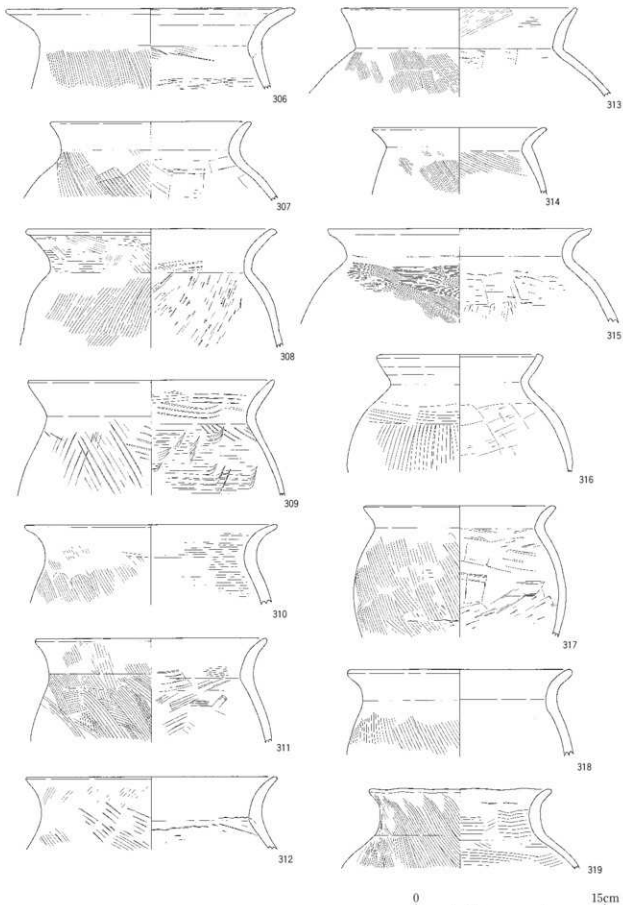
第19図　SD240出土土器・陶磁器（12）〔S＝1／3〕



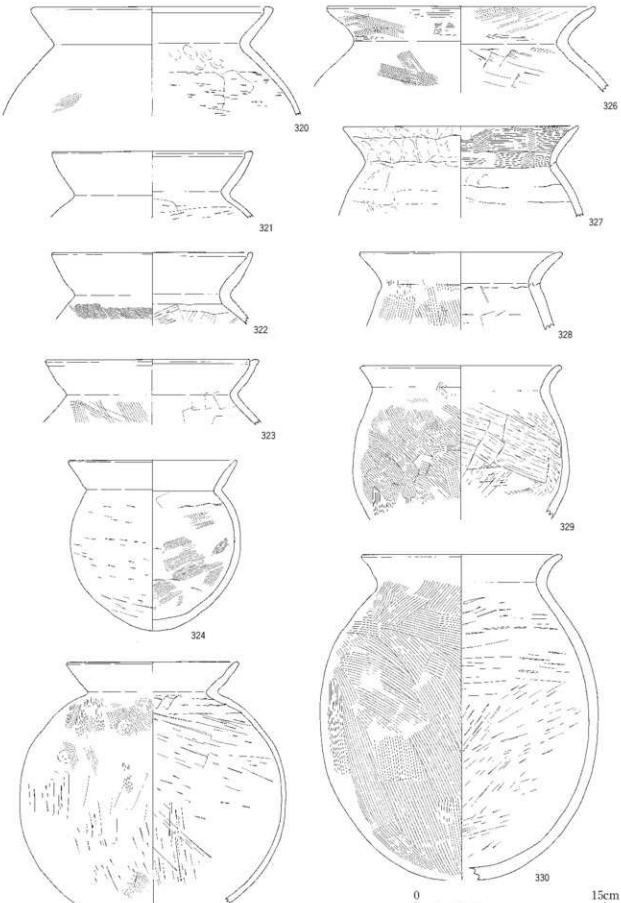
第20図　SD240出土土器・陶磁器（13）〔S＝1／3〕



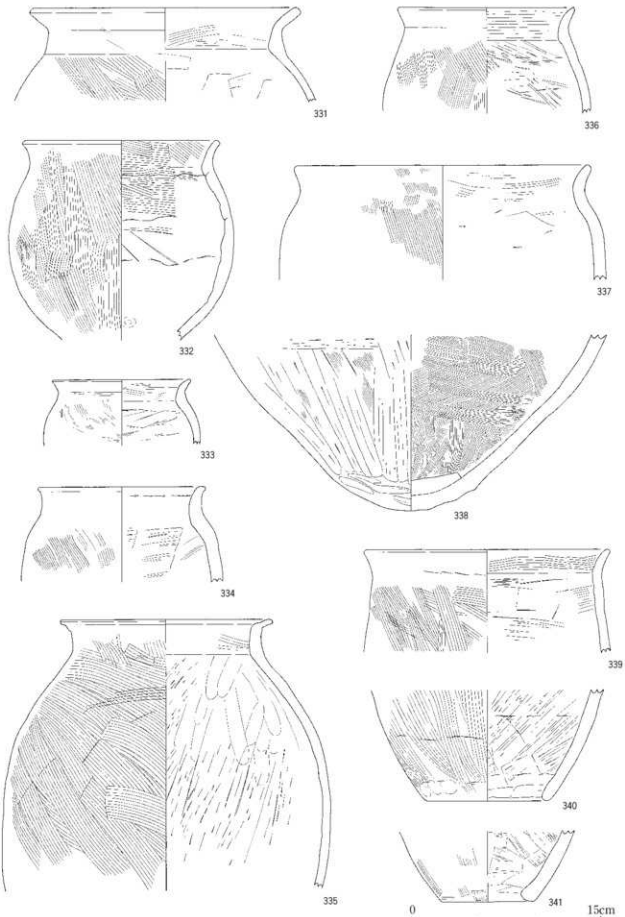
第21図　SD244出土土器・陶磁器（1）〔S＝1／3〕



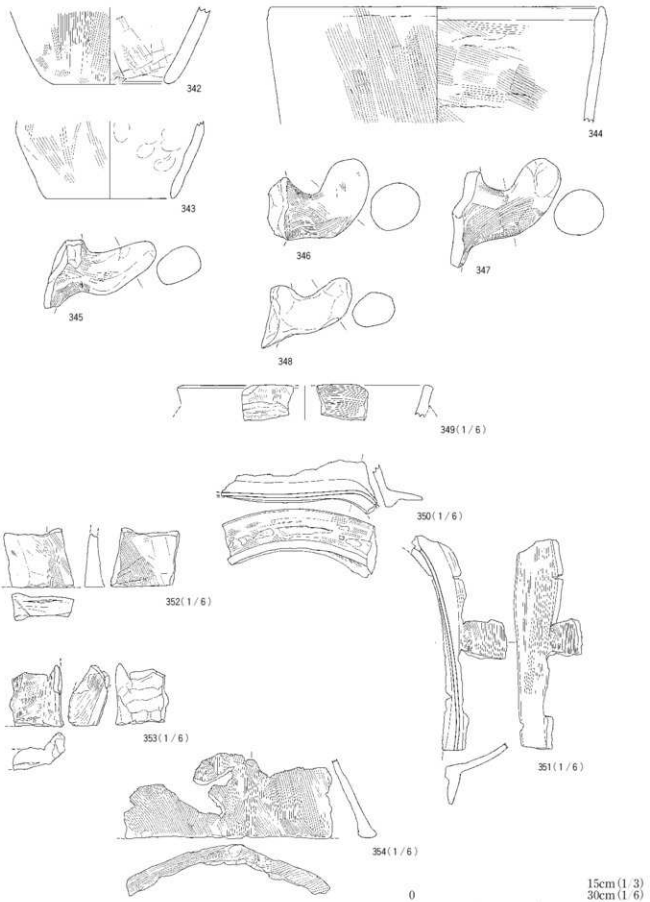
第22図　SD244出土土器・陶磁器（２）〔S＝１／３〕



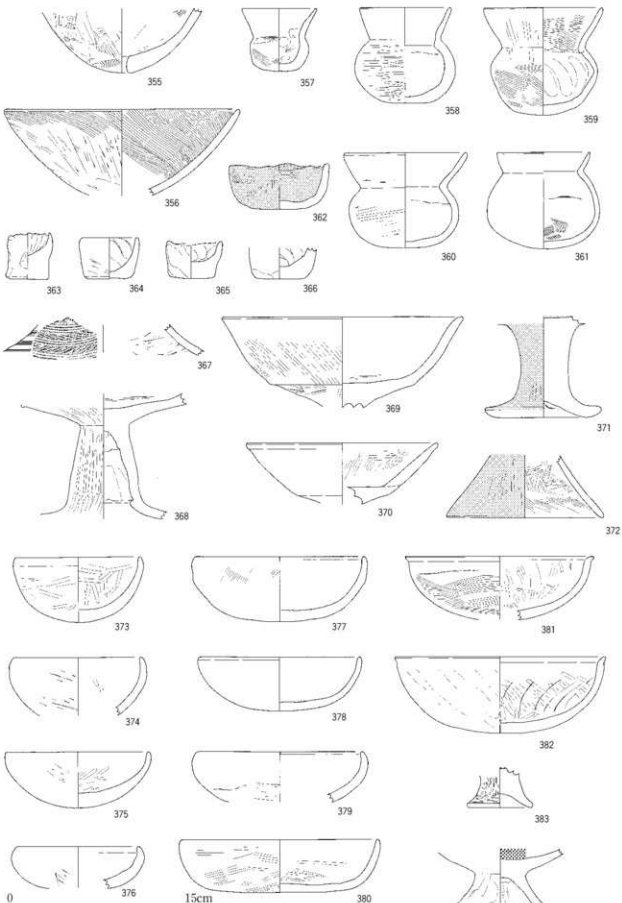
第23図　SD244出土土器・陶磁器（3）〔S＝1／3〕



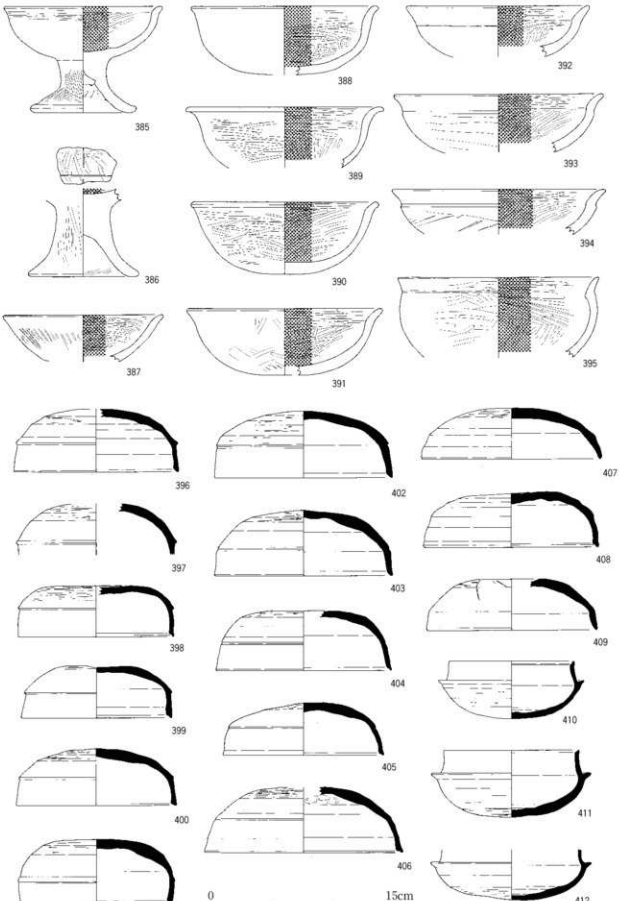
第24図　SD244出土土器・陶磁器（4）〔S＝1／3〕



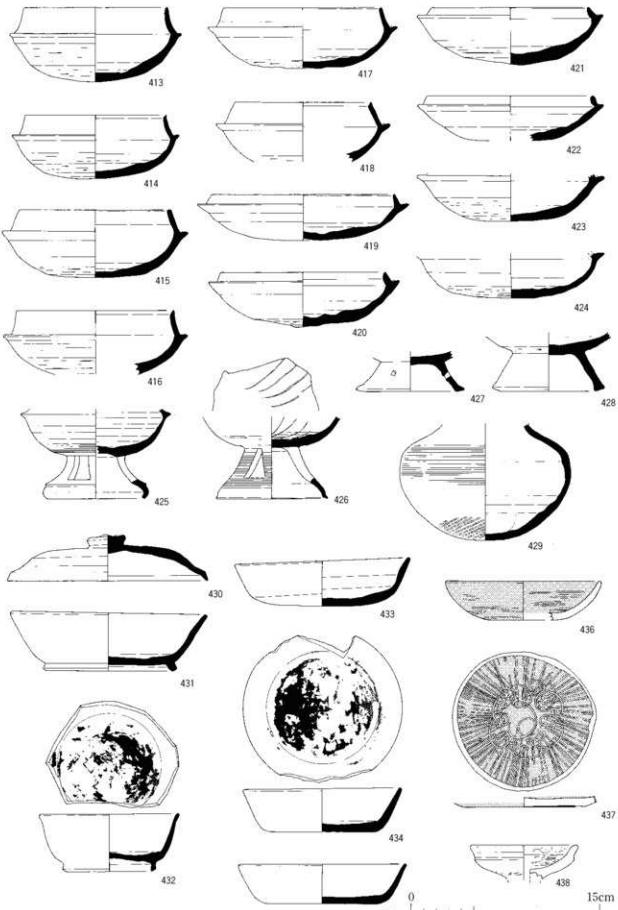
第25図　SD244出土土器・陶磁器（5）〔S＝1/3・6〕



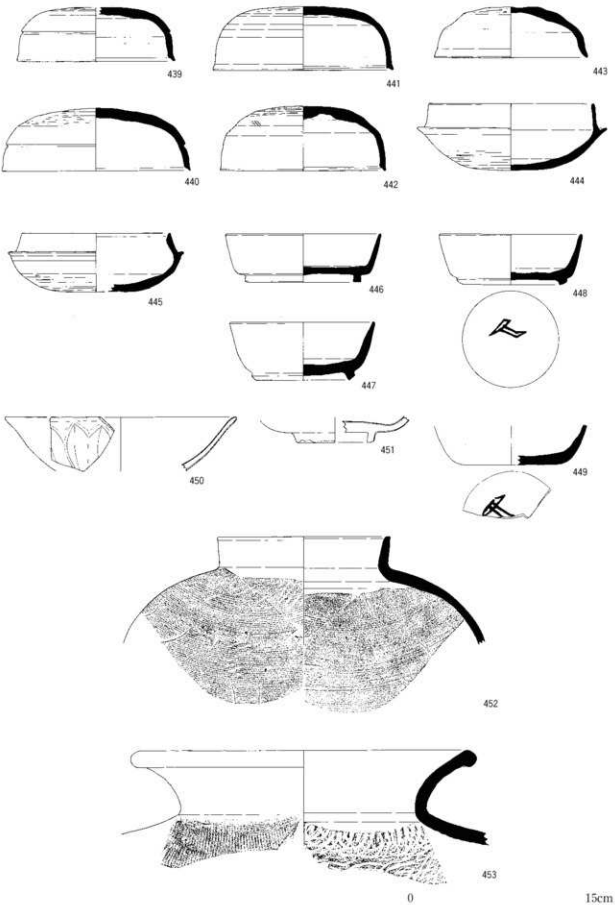
第26図　SD244出土土器・陶磁器（6）〔S＝1／3〕



第27図　SD244出土土器・陶磁器（7）〔S＝1／3〕



第28図　SD244出土土器・陶磁器（8）〔S＝1／3〕



第29図　SD240・244（439～444）、遺構外（445～453）出土土器・陶磁器〔S＝1／3〕

第2表　土器・陶磁器観察表（1）

番号	遺構	器種	法量					遺存／12	胎土				調整					色調		産地	備考	実測番号
			口径長	器高幅	胴径厚	底径摘径	頸径受径		砂	骨	礫	赤	口縁外面	胴部外面	口縁内面	胴部内面	底部外面	外面	内面			
1	2区 SB508	須恵器 坏身		(24)			受128	口1	◎				ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ		灰	灰白		P4	TM140
2	2区 P15	須恵器 無台坏	126	37		86		口1以下	○		○		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ヘラ起シ・ナデ	灰白	灰白			TM139
3	2区 P17	土師器 甕		(36)		34		底12	◎	○	△	△		ハケ		ハケ	ナデ	淡橙褐	黒			TM141
4	2区 P19	須恵器 有台坏		(38)		77		底3	○		◎		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ	灰	灰白			TM138
5	2区 P19	須恵器 無台坏	117	39		92		口2	◎		○		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	白灰	白灰			TM137
6	2区 P22	土師器 甕	158	(81)			134	口3	◎	△	○	○	ナデ	ハケ・キザミ	ナデ	ケズリ後ナデ		淡黄褐	淡黄褐			TM143
7	2区 P25	土師器 器台		(54)				脚4	◎		○	◎		ミガキ		マメツ		淡橙褐	淡橙褐			TM142
8	2区 P25	土師器 甕	204	(107)	234		160	口1以下	◎		△	◎	ナデ	ハケ	ナデ	ケズリ		淡橙褐	淡橙褐			TM144
9	2区 SK208	須恵器 蓋	100	32		ツマミ25		口2	△		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	灰白	灰白			TM224
10	2区 SK208	須恵器 有台坏	116	40		90		底10	△		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ヘラ起シ・ナデ	灰	灰		SK240と接合	TM222
11	2区 SK208	須恵器 無台坏	120	37		80		底2	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ヘラ起シ・ナデ	淡黄褐	淡橙褐			TM221
12	2区 SK208	須恵器 無台坏	120	34		76		底5	△		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	灰白	灰			TM219
13	2区 SK208	須恵器 無台坏	116	34		74		底4	△		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ	灰白	灰白			TM220
14	2区 SK208	須恵器 盤	156	25		118		底6	△		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	灰白	灰白		遺構外 Y14W と接合	TM223
15	2区 SK208	土師器 甕	176	(49)			134	口4	○		△	◎	マメツ		マメツ			橙褐	橙褐			TM225
16	2区 SK208	土師器 甕	142	(36)			131	口1	◎		△		ナデ	ハケ	ナデ	ナデ		淡橙褐	淡橙褐			TM226
17	2区 SK208	土師器 甕	218	(58)			190	口1	○		△		ナデｶ	ナデｶ	ナデｶ	ナデｶ		淡黄褐	淡橙褐			TM227
18	2区 SE251	土師器 皿	74	16		35		口10	△			△	横ナデ		横ナデ		指頭	淡橙灰褐	淡橙灰褐			FJ46
19	2区 SE252	須恵器 甕						頸2	◎		○		ロクロナデ	タタキ	ロクロナデ	タタキ		灰	灰			FJ47
20	2区 Y12 SE252	珠洲 甕	418	(88)			386	口1	◎		△		ロクロナデ	タタキ	ロクロナデ	タタキ		淡灰	淡灰		内外面自然釉、SD240と接合、289と同一ヵ	E163
21	2区 AB5 SD222	須恵器 蓋	132	(51)				口4	○				ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ	灰	灰		内外面煤付着	E64
22	1区 AA6 SD222	須恵器 蓋	110	26		52		口4	△		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	灰	灰		SD303、外面重焼痕	S118
23	2区 AA6 SD222	須恵器 無台坏		(42)		65		底7	○		○			ケズリ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ	淡褐	淡褐			OH59
24	1区 AA6 SD222	須恵器 無台坏	130	36		80		口3	△				ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ヘラ起シ	灰	灰		底部外面墨痕	OH58
25	2区 AB5 SD222	須恵器 𤭯		(48)	108			胴3	○		△			ロクロナデ・刺点文		ロクロナデ		灰白	灰		1区 SD222と接合、内外面自然釉	TM90
26	2区 AB5 SD222	土師器 碗	142	(48)				口2	◎				ナデ	ナデ	ナデ	ナデ		淡桃灰褐	淡桃灰褐			EE70
27	2区 AA6 SD222	土師器 皿	142	33		84		口1以下	○				ナデ	ナデ・指頭	ナデ	ナデ・指頭	ナデ	淡灰黄	淡灰黄			S122
28	2区 SD222	土師器 把手	長54	幅35	厚33				△			○						淡桃灰	淡桃灰			EE76
29	1区 AA6 SD222	赤彩 碗		(37)		88		底5	△				ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	糸切り	淡桃褐	淡桃褐			EE74
30	1区 AA8 SD222	赤彩 碗		(38)		80		底9	○		△		ナデ	ナデ	ナデ	ナデ	糸切り	淡橙褐	淡橙褐			EE73
31	1区 AB5 SD222	須恵器 甕	396	(90)				口1以下	△		△	△	ロクロナデ・波状文		ロクロナデ			灰	灰白			TM92
32	1区 AA6 SD222	須恵器 蓋	112	27		ツマミ22		口3	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	暗灰	暗灰		SD303、内面にヘラ記号	S117
33	1区 AA6 SD222	須恵器 蓋	140	32		ツマミ33		口1	△				ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	灰	灰		SD303	S116
34	1区 AA6 SD222	須恵器 蓋	176	35		ツマミ32		口1	○		△		ロクロナデ・ケズリ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ	灰	灰		SD303	S120
35	1区 AA6 SD222	須恵器 有台坏	104	41		74		口2	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	暗灰	灰		SD303、打欠	S115
36	1区 AA6 SD222	須恵器 有台坏	134	43		80		口1	○				ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	灰	暗灰		SD303	S119
37	1区 AA6 SD222	赤彩 碗	166	48		114		口4	○				ミガキ・ケズリ	ミガキ・ケズリ	ミガキ	ミガキ	ミガキ	淡橙褐	淡橙褐		SD303	S121
38	1区 AA8 SD222	須恵器 甕	186	71			142	口2	○		△		ロクロナデ	タタキ	ロクロナデ	タタキ		灰	淡灰		SD303	S114
39	2区 SD303	須恵器 蓋	114	29		ツマミ22		口11	◎		△	△	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	灰	灰	高松	No.105、打欠、内面墨痕	E182
40	2区 SD303	須恵器 蓋	130	27		ツマミ25		口11	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリｶ	淡灰	淡灰	高松	No.107、打欠、重焼痕	E191
41	2区 AA9 SD303	須恵器 蓋	138	28		ツマミ24		口12	△				ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	灰褐	灰褐	末	No.7	E173
42	2区 SD303	須恵器 蓋	130	29		ツマミ29		口12	△				ロクロナデ	ケズリ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ	灰	灰	末	No.2、重焼痕、内面朱墨ヵ	E168
43	2区 SD303	須恵器 蓋	128	28		ツマミ26		口10	○	△			ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	灰	灰	末	No.64、打欠ヵ、重焼痕	E171
44	2区 SD303	須恵器 蓋	129	23		ツマミ22		口1	△				ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	灰	灰	末	No.109、打欠、重焼痕	E175
45	2区 SD303	須恵器 蓋	184	38		ツマミ30		口8	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ・ナデ	灰	灰	高松	No.101	E184
46	2区 Y17 SD303	須恵器 蓋	186	43		ツマミ33		口6	◎		○		ロクロナデ	ケズリ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ	灰	灰	高松	No.28	E185
47	2区 Y18 SD303	須恵器 有台坏		(60)		104		底12	○		△			ロクロナデ		ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	灰白	灰白	高松	No.202	TM200
48	2区 SD303	須恵器 有台坏ヵ		(21)		95		底10	○		△			ロクロナデ		ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	灰	灰	高松	No.72	TM203
49	2区 SD303	須恵器 有台坏	103	44		69		底12	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	灰	灰	高松	No.38・39、重焼痕、付着物	TM202
50	2区 Y17 SD303	須恵器 有台坏	111	43		79		底12	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	灰	灰白	高松	No.36	TM207
51	2区 Y17 SD303	須恵器 有台坏	106	38		74		底6	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ	灰	灰	高松	No.32、底部外面に墨痕ヵ	TM204

第２表　土器・陶磁器観察表（２）

番号	遺構	器種	法量 口径	法量 器高	法量 胴径	法量 底径	法量 頸径	遺存 /2	胎土 砂	胎土 骨	胎土 雲	胎土 赤	調 口縁外面	調 胴部外面	調 口縁内面	調 胴部内面	調 底部外面	色調 外面	色調 内面	産地	備　考	実測番号
52	2区 Y17 SD303	須恵器 有台杯	114	43		70		底11	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切リナデ	灰	灰	高松	No.17、底部外面に墨痕ヶ、打ス	TM212
53	2区 SD240	土師器 壺	158	(57)			88	口1	○		△	△	ナデ	ハケ	ナデ	ハケ		淡赤橙灰	淡赤橙灰		外面、内面口縁部赤彩	S62
54	2区 SD240	弥生 壺						口1以下	○				ナデ・ケザミ		ナデ			淡橙褐	淡橙褐			OH47
55	2区 SD240	土師器 壺						口1以下	○			○	ナデ・ハケ・円形浮文		ナデ・ハケ			濃橙褐	濃橙褐			OH46
56	2区 SD240	土師器 壺	227	(90)			139	口2	○				ナデ・ケザミ	ナデ	ナデ	ナデ		橙茶褐	橙茶褐			OH44
57	2区 SD240	土師器 壺	114	(59)			82	口3	○		△		ハケ	ハケ	ハケ	ナデ		淡褐	淡褐		孔1コ残	OH45
58	2区 SD240	土師器 鉢	146	(42)			110	口3	△		△		ナデ・指圧・ヲメツ	ナデ・ケザミ	ハケ・ナデ・ヲメツ	ハケ・ナデ・ヲメツ		橙灰褐	灰褐		内外面に黒斑	S63
59	2区 SD240	土師器 鉢	148	(67)			126	口3	○		△	○	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	ナデ	ヲメツ		淡橙株	淡橙灰		外面煤付着	S60
60	2区 SD240	土師器 鉢	132	(84)			122	口3	○		△	△	ナデ	ハケ	ナデ・ハケ・指圧	ケズリ		淡橙灰	淡橙灰			S61
61	2区 SD240	土師器 壺						口1以下	○				ミガキ	ミガキ	ミガキ	ナデ		橙褐	橙褐			OH48
62	2区 SD240	土師器 鉢	188	(50)			148	口1以下	○			△	ナデ	ナデ	ナデ	ケズリ		淡橙灰	淡橙灰		口縁煤付着	S59
63	2区 SD240	土師器 鉢	195	(79)			172	口3	○				ナデ	ナデ・ハケ	ナデ	ナデ・ケズリ		灰褐	灰褐		上層	OH31
64	2区 SD240	土師器 鉢	214	(111)			185	口1	○				ナデ	ナデ・ケズリ	ナデ	ナデ・ハケ		淡橙褐	淡橙褐		外面煤付着	OH32
65	2区 SD240	土師器 鉢	206	(190)	172		163	口3	○	△	△	△	ナデ・指圧	ハケ	ハケ後ナデ	ハケ・指圧		淡灰褐	淡橙灰褐		内外面口縁煤付着	S55
66	2区 SD240	土師器 壺	226	(91)			198	口1	○		△	△	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	ナデ	ナデ		淡橙灰	淡橙灰		外面煤付着	S58
67	2区 SD240	土師器 鉢	172	(80)			152	口2	○		△	△	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ・指圧		灰褐	淡茶褐		外面口縁煤、内面斜部ヨコレ付着	S54
68	2区 SD240	土師器 鉢	142	(67)			124	口2	△				ナデ	ハケ	ナデ	ハケ		灰褐	灰褐		外面煤付着	S57
69	2区 SD240	土師器 鉢	184	(81)			166	口2	○	△	△	△	ナデ	ハケ	ナデ	ナデ		淡灰褐	淡灰褐		外面煤・内面一部ヨコレ付着	S56
70	2区 SD240	土師器 小壺	126	102	122	25	118	口3	○	△	△	△	ナデ	ハケ	ハケ	ハケ・ナデ		橙褐	淡灰褐		冷上層、外面一部・内面口縁に黒斑	S53
71	2区 SD240	土師器 小壺	148	135	140	40	132	口5	△		○	△	ナデ	ケズリ・指圧	ナデ	ナデ・ハケ		淡橙灰	淡橙灰		外面一部黒斑、斜部横成後穿孔	S65
72	2区 SD240	土師器 鉢	160	(164)	180		148	口10	○		○		ナデ	ハケ	ナデ	ケズリ・ナデ		淡黄橙	淡黄橙		外面煤、内面ヨコレ付着	TM127
73	2区 SD240	土師器 鉢	168	290	288	100	163	底5	○		○	△	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	ケズリ後ナデ	ケズリ後ナデ	ナデ	淡橙褐	灰黄褐		外面煤、内面ヨコケ・ヨコレ付着	TM126
74	2区 SD240	土師器 鉢	173	(66)				口3	○		○	△	ナデ	ハケ	ナデ	ケズリ					鉄分付着	FJ41
75	2区 SD240	土師器 鉢	273	(83)				口2	○				ナデ	ハケ	ナデ	ハケ		黄橙	黄橙		上層	OH29
76	2区 SD240	土師器 鉢		(112)		90		底6	○					ハケ		ケズリ		黄橙褐	黄橙褐			OH30
77	2区 SD240	土師器 鍋ヵ		(76)		140		底1	△			△		ハケ・ナデ・ケズリ		ケズリ・ナデ		淡灰褐	淡灰褐			F7
78	2区 SD240	土師器 鉢						口1以下	○				ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	ハケ		黄褐	茶褐		外面煤、内面ヨコレ付着	OH33
79	2区 SD240	土師器 把手	長 63	幅 41	厚 31					○	△	○						淡橙褐	淡橙灰褐			FJ45
80	2区 SD240	土師器 把手	長 46	幅 29	厚 29					○	○	○		ハケ・ナデ		ハケ・ケズリ		淡灰褐	暗灰			FJ42
81	2区 SD240	土師器 把手	長 64	幅 43	厚 40					○						ケズリ					鉄分付着	FJ44
82	2区 SD240	土師器 把手	長 63	幅 45	厚 39					○		△		ナデ△		ケズリ		淡灰褐	淡灰褐			FJ43
83	2区 SD240	土師器 小壺		(69)		53		底12	△	△		△		ケズリ・ナデ		ケズリ・ナデ		橙灰褐	橙灰褐			F6
84	2区 SD240	土師器 鉢	136	(46)				口2	○	△		△	横ナデ	ケズリ△	ナデ	ナデ		橙灰褐	橙灰褐			FJ39
85	2区 SD240	土師器 鉢						底2	○				横ナデ	ケズリ・ナデ	ナデ	ナデ		淡橙褐	淡橙灰褐			FJ40
86	2区 SD240	土師器 鉢	125	35		58		口2	○		△	○	ナデ	ナデ	ミガキ	ミガキ		灰褐	灰褐		内外面赤彩ヵ	FJ37
87	2区 SD240	内黒 椀	137	45		40		底3	○		△		ハケ・ケズリ・ナデ	ハケ・ケズリ・ナデ	ナデ	ミガキ		灰褐	黒		外面に黒斑	FJ33
88	2区 SD240	内黒 椀	138	(42)				口3			○	△	横ナデ	ケズリ・ナデ	ミガキ	ミガキ		淡黄橙	黒			FJ32
89	2区 SD240	内黒 椀	156	38				口3	△	○		△	横ナデ	ハケ・ナデ	ミガキ	ミガキ		灰褐	黒		外面口縁黒斑	FJ29
90	2区 SD240	内黒 椀	149	43		65		口3	△	○		△	横ナデ	ナデ・ケズリ	ミガキ	ミガキ		灰褐	黒		外面口縁黒斑、焼成後穿孔（1コ）	FJ30
91	2区 SD240	内黒 椀	126	(30)				口1	△	○		○	横ナデ	ケズリ・ナデ	ミガキ	ミガキ		淡灰褐	黒		外面口縁黒斑	FJ34
92	2区 SD240	内黒 椀	160	(52)				口1	△	○		△	横ナデ	ケズリ・ナデ	ミガキ	ミガキ		灰褐	黒		外面口縁黒斑	FJ31
93	2区 SD240	土師器 鉢	192	(52)				口1以下	○				ナデ・ミガキ△	ナデ・ミガキ△	ナデ・ミガキ△	ナデ・ミガキ△		淡橙灰褐	濃灰褐		口縁内外面煤付着	S64
94	2区 SD240	内黒 台付椀		(63)		78		底1	△			△		ナデ・ケズリ		ミガキ・ケズリ・ナデ		淡橙灰褐	黒			FJ36
95	2区 SD240	内黒 台付椀		(53)		99		底7	△			△		ナデ・ハケ		ミガキ・ケズリ・ナデ		淡灰褐	黒			FJ35
96	2区 SD240	須恵器 手捏	34	24		5		口12	○	△			指圧	指圧				淡黄灰	淡黄灰			E246
97	2区 SD240	須恵器 壺	136	47				口1	△		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ	灰	暗灰			S150
98	2区 SD244	須恵器 壺	142	55				口3	○				ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ	灰	淡灰			S134
99	2区 SD240	須恵器 壺	150	(48)				口3	△			△	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ	白黄灰	白黄灰			S137
100	2区 SD240	須恵器 壺	142	(57)				口3	○			△	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ	暗灰	暗灰			S138
101	2区 SD240	須恵器 壺	144	43				口1	○			△	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ	灰	灰			S133
102	2区 SD240	須恵器 壺	142	(46)				口3	○			△	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ	灰	灰		外面回い沈線	S129

第2表　土器・陶磁器観察表（3）

番号	遺構	器種	法量 口径長	法量 器高幅	法量 胴径厚	法量 底径摘径	法量 頸径受径	遺存／12	胎土 砂	胎土 骨	胎土 礫	胎土 赤	調整 口縁外面	調整 胴部外面	調整 口縁内面	調整 胴部内面	調整 底部外面	色調 外面	色調 内面	産地	備考	実測番号
103	2区 SD240	須恵器 蓋	114	39				口4	△				ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ヘラ起シ	暗灰	淡灰			S131
104	2区 SD240	須恵器 蓋	152	38				口1	△		△		ヘラ切り後ナデ	ヘラ切り後ナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	淡灰	淡灰		外面自然釉	S130
105	2区 SD240	須恵器 蓋	142	42				口5	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ヘラ起シ	灰	灰		外面自然釉	S132
106	2区 SD240	須恵器 蓋	124	38				口1以下	○				ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ヘラ起シ・ナデ	灰	灰			S135
107	2区 SD240	須恵器 坏身	94	(38)			受116	口3	○				ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ		灰	灰			S147
108	2区 SD240	須恵器 坏身		(47)			受120	底7	△				ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ	暗灰	暗灰			S149
109	2区 SD240	須恵器 坏身	136	55			受156	口6	○				ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ	灰	灰		重焼痕	S141
110	2区 SD240	須恵器 坏身	132	49			受158	口4	○				ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ	灰	灰			S142
111	2区 SD240	須恵器 坏身	115	42			受135	底12	○				ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ	暗灰	暗灰			S143
112	2区 SD240	須恵器 坏身	98	35			受119	口12	△				ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・工具痕	暗灰	灰		重焼痕	S144
113	2区 SD240	須恵器 坏身	132	49			受152	口1以下	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ	灰	灰			S148
114	2区 SD240	須恵器 高坏カ	112	(34)				口2	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ		暗灰	暗灰		遺構外Y14Wと接合	S140
115	2区 SD240	須恵器 𤭯・壷	132	(46)				口1以下	△				ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ		淡灰	白灰			S139
116	2区 SD240	須恵器 𤭯		(73)	197		84	胴5	○					ロクロナデ		ロクロナデ		茶灰	褐灰			OH74
117	2区 SD240	須恵器 𤭯		(66)	167			胴3	○					カキメ		カキメ		淡灰	淡灰			OH75
118	2区 SD240	須恵器 小壷		(85)	124		72	胴3	○		△			ロクロナデ・ケズリ		ロクロナデ・指頭		灰	灰			OH84
119	2区 SD240	須恵器 蓋	158	30		ツマミ31		口8	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ	暗茶灰	暗茶灰	末		E170
120	2区 SD240	須恵器 蓋	150	27		ツマミ33		口3	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ・ナデ	灰	灰	高松	内面墨痕	E180
121	2区 SD240	須恵器 蓋	128	24		ツマミ27		口1以下			△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ケズリ・ナデ	灰	灰	高松	内面線刻	E177
122	2区 SD240	須恵器 蓋	126	22		ツマミ28		口11	○			△	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ・ナデ	淡灰白	淡灰白	高松	打欠、内面墨痕	E183
123	2区 SD240	須恵器 蓋	119	28		ツマミ19		口12	○		△	△	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ケズリ・ナデ	灰	灰	高松	打欠、内面ヘラ記号	E178
124	2区 SD240	須恵器 蓋	123	24		ツマミ23		口11	○		○	○	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	緑灰	赤灰	高松	打欠、内面ヘラ記号	E179
125	2区 SD240	須恵器 蓋	136	28		ツマミ24		口10	◎		○		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ	灰	灰	高松	打欠	E188
126	2区 SD240	須恵器 蓋	130	22		ツマミ20		口11	△		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	淡灰	淡灰	高松		E172
127	2区 AA9 SD240	須恵器 蓋	138	21		ツマミ21		口11	△		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ケズリ・ナデ	灰	灰	高松	2区SD303と接合、打欠	E190
128	2区 SD240	須恵器 蓋	122	34		ツマミ24		口10	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ	灰	灰	高松	カワ上層と接合、打欠	E189
129	2区 SD240	須恵器 蓋	170	19		ツマミ27		口12	○				ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ・ナデ	灰	灰	末	内面付着物	E169
130	2区 SD240	須恵器 蓋	126	27		ツマミ28		口11	○				ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	灰褐	灰褐	末	打欠	E174
131	2区 SD240	須恵器 蓋	150	27		ツマミ34		口10	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ・ナデ	暗灰	暗灰	高松	打欠	E187
132	2区 SD240	須恵器 蓋	140	29		ツマミ38		口10	◎		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ	暗灰	暗灰	高松	2区SD244と接合	E181
133	2区 SD240	須恵器 蓋	190	35		ツマミ30		口10	○		○		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ケズリ	淡灰	淡灰	高松	2区SK208と接合、打欠	E186
134	2区 SD240	須恵器 蓋	204	31		ツマミ55		口4	○				ロクロナデ	ケズリ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ	灰	灰	末	2区AA9SD303・SD303No.145と接合	E176
135	2区 SD240	須恵器 有台碗	114	38		67		口10	○				ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	灰赤	灰赤	末	No.16、外面重焼痕	S76
136	2区 SD240	須恵器 有台坏	141	41		98		口11	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	暗灰	暗灰	高松	打欠	FJ80
137	2区 SD240	須恵器 有台坏	154	38		107		口11	○				ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	暗灰	灰		打欠	FJ77
138	2区 SD240	須恵器 有台坏	138	47		86		底7	○		○		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	暗灰	褐灰	高松		FJ83
139	2区 SD240	須恵器 有台坏	136	47		79		底9	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	灰	灰	高松カ		TM176
140	2区 SD240	須恵器 有台坏	139	42		85		底12	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	暗灰	暗灰		底部外面墨痕カ	TM174
141	2区 SD240	須恵器 有台坏	146	43		86		底12	○	△			ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	灰	灰		底部外面ヘラ記号	TM175
142	2区 SD240	須恵器 有台坏	98	39		74		口3	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	濃灰	濃灰	末		S80
143	2区 SD240	須恵器 有台坏	99	39		79		底12	△		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	灰	灰	高松		FJ76
144	2区 SD240	須恵器 有台坏	103	44		76		底11	△		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	灰	灰		底部外面ヘラ記号カ	TM169
145	2区 SD240	須恵器 有台坏	100	45		68		底11	○		○		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ	灰	灰	高松		TM150
146	2区 SD240	須恵器 有台坏	116	39		73		底12	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	濃灰赤	濃灰赤	末		S78
147	2区 SD240	須恵器 有台坏	107	42		76		底10	△		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ				底部外面ヘラ記号	TM170
148	2区 SD240	須恵器 有台坏	102	42		77		底12	○	△			ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	暗灰	灰			TM173
149	2区 SD240	須恵器 有台坏	108	44		77		底12	○		○		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	灰	白灰	高松	外面重焼痕	TM146
150	2区 SD240	須恵器 有台坏	108	48		72		底12	◎		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	灰	灰	高松	口縁部にヘラ記号・打欠	TM147
151	2区 SD240	須恵器 有台坏	112	41		84		底11	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	灰	灰白		外面重焼痕	TM171
152	2区 SD240	須恵器 有台坏	112	42		80		底6	△				ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	灰	灰		底部外面輪花状線刻、内面付着物（煤カ）	TM168
153	2区 SD240	須恵器 有台坏	112	44		77		口3	△		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	白灰	白灰			TM153
154	2区 SD240	須恵器 有台坏	117	39		85		口10	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	灰	灰	末	2ヶ所打欠	S79

第2表　土器・陶磁器観察表（4）

番号	遺構	器種	法量					遺存／12	胎土				調整					色調		産地	備考	実測番号
			口径長	器高幅	胴径厚	底径摘径	頸径受径		砂	骨	礫	赤	口縁外面	胴部外面	口縁内面	胴部内面	底部外面	外面	内面			
155	2区 SD240	須恵器 有台坏	117	40		75		底12	◎		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	白灰	白灰	高松		TM149
156	2区 SD240	須恵器 有台坏	118	39		80		底12	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ・工具痕	灰	灰	末	上層	S81
157	2区 SD240	須恵器 有台坏	115	46		83		底12	◎		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ	灰	灰	高松	打欠	TM152
158	2区 SD240	須恵器 有台坏	118	45		66		底12	○		○		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ	灰	灰	高松		TM151
159	2区 SD240	須恵器 有台坏	118	39		85		底12	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	濃灰	灰	末	外面重焼痕	S82
160	2区 SD240	須恵器 有台坏	122	38		90		口6	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	灰	灰	末		S77
161	2区 SD240	須恵器 有台坏	118	38		89		底12	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	濃灰	濃灰	末		S75
162	2区 SD240	須恵器 有台坏	120	45		95		底12	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ・工具痕	灰	灰	末	外面重焼痕	S83
163	2区 SD240	須恵器 有台坏	121	45		90		口11	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ヘラ起シ・ナデ	灰	灰白		底部外面ヘラ記号カ	TM172
164	2区 SD240	須恵器 有台坏	118	42		76		底12	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	灰	白灰		底部外面ヘラ記号カ	TM148
165	2区 SD240	須恵器 有台坏	132	44		96		口5	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	淡青灰	淡灰	末	外面重焼痕、底部外面墨痕カ	S74
166	2区 SD240	須恵器 有台坏	124	44		82		口6	◎		○		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	灰	白灰	高松		TM154
167	2区 SD240	須恵器 有台坏		(40)		100		底7	○					ロクロナデ		ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	灰褐	灰褐	末	河上層、底部外面灯明痕カ	S84
168	2区 SD240	須恵器 有台坏	147	60		93		底12	○		○		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	灰	灰	高松	打欠	FJ86
169	2区 SD240	須恵器 有台坏	144	56		86		底12	○		○		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	灰	灰	高松	打欠カ	FJ85
170	2区 SD240	須恵器 有台坏	146	60		101		底12	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	灰	灰	末		S70
171	2区 SD240	須恵器 有台坏	152	56		110		底12	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	淡灰	淡灰	末	底部外面ヘラ記号、外面重焼痕	S71
172	2区 SD240	須恵器 有台坏	150	62		93		口3	○		○		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	灰	灰	高松	打欠	FJ82
173	2区 SD240	須恵器 有台坏	148	65		98		底12	△		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	灰	灰	高松	打欠	FJ79
174	2区 SD240	須恵器 有台坏	154	58		95		底12	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	暗灰	暗灰		打欠	FJ81
175	2区 SD240	須恵器 有台坏	160	64		109		底12	○		○		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	暗灰	暗灰	高松	底部外面ヘラ記号	FJ84
176	2区 SD240	須恵器 有台坏	154	57		118		口7	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデカ	灰	灰	末	AA9SD222と接合、外面全体降灰	S73
177	2区 SD240	須恵器 有台坏	165	56		116		口11	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ヘラ起シ・ナデ	灰	灰	辰口or高松	打欠	FJ78
178	2区 SD240	須恵器 有台坏	158	60		110		底12	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	淡灰	淡灰	末	重焼痕、内外面付着物	S72
179	2区 SD240	須恵器 無台坏	114	28		85		底12	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	暗灰	暗灰	高松	重焼痕	S95
180	2区 SD240	須恵器 無台坏	110	35		82		底12	○	○	○		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	灰	灰	高松	打欠、重焼痕	FJ72
181	2区 SD240	須恵器 無台坏	115	31		80		口6	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ヘラ起シ・ナデ	暗灰	暗灰	高松	重焼痕	FJ73
182	2区 SD240	須恵器 無台坏	106	34		81		底12	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	濃灰	濃灰	高松		S88
183	2区 SD240	須恵器 無台坏	112	33		74		底12	△		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	淡褐灰	淡褐灰	高松カ	底部外面墨痕カ	FJ75
184	2区 SD240	須恵器 無台坏	120	34		84		底12	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	淡灰	淡灰	高松	重焼痕	S109
185	2区 SD240	須恵器 無台坏	125	30		87		底6	△		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	淡灰褐	淡灰褐	高松カ	底部外面墨痕カ	FJ74
186	2区 SD240	須恵器 無台坏	122	31		94		底12	△		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	灰	灰	高松	重焼痕	E152
187	2区 SD240	須恵器 無台坏	120	32		84		底10	△				ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	灰白	灰白	末		TM187
188	2区 SD240	須恵器 無台坏	124	35		92		底12	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	灰白	灰白	高松		S98
189	2区 SD240	須恵器 無台坏	120	31		90		底12	△	△			ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	灰白	灰白	末	No.1、重焼痕	TM158
190	2区 SD240	須恵器 無台坏	123	35		56		口12	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	淡橙灰	暗灰褐	高松	重焼痕	E141
191	2区 SD240	須恵器 無台坏	116	34		74		底12	△		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	淡灰	淡灰	高松	重焼痕	S93
192	2区 SD240	須恵器 無台坏	122	28		91		底12	△				ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	淡黄灰	淡黄灰	高松	底部外面ヘラ記号	E142
193	2区 SD240	須恵器 無台坏	118	33		89		底12	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ヘラ起シ・ナデ	暗灰	暗灰	高松		S94
194	2区 SD240	須恵器 無台坏	121	35		94		底12	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	淡橙褐	淡橙褐	高松	重焼痕	E148
195	2区 SD240	須恵器 無台坏	118	32		86		底12	△	◎	△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り	灰	灰	高松	No.2、打欠	FJ71
196	2区 SD240	須恵器 無台坏	124	34		90		底12	△		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	灰	灰	高松	打欠、重焼痕、内面煤付着	S105
197	2区 SD240	須恵器 無台坏	123	37		94		底12	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	淡灰	淡灰	高松	内面3ヵ所灯明痕カ	E149
198	2区 SD240	須恵器 無台坏	118	40		86		底12	△				ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	白灰	白灰	末	重焼痕	TM167
199	2区 SD240	須恵器 無台坏	122	36		88		口5	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ヘラ起シ・ナデ	淡灰	淡灰	高松		S110
200	2区 SD240	須恵器 無台坏	120	40		86		底12	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	淡灰	淡灰	高松	打欠、重焼痕	S104
201	2区 SD240	須恵器 無台坏	116	39		90		底12	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	灰白	灰白	高松	打欠、重焼痕	S111
202	2区 SD240	須恵器 無台坏	116	33		87		底8	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	灰	灰	高松	打欠	S108
203	2区 SD240	須恵器 無台坏	121	38		84		口12	△		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	灰	灰		打欠、重焼痕	E155
204	2区 SD240	須恵器 無台坏	120	42		86		底12	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	灰白	灰白	高松		S103
205	2区 SD240	須恵器 無台坏	114	39		82		底12	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ヘラ起シ・ナデ	灰	灰	高松	重焼痕	S89
206	2区 SD240	須恵器 無台坏	116	37		86		底12	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ヘラ起シ・ナデ	灰	灰	高松	重焼痕	S96

第２表　土器・陶磁器観察表（５）

番号	遺構	器種	法量					遺存／12	胎土				調整					色調		産地	備考	実測番号
			口径長	器高幅	胴径厚	底径摘径	頸径受径		砂	骨	礫	赤	口縁外面	胴部外面	口縁内面	胴部内面	底部外面	外面	内面			
207	2区 SD240	須恵器 無台坏	124	37		87		底6	○	△	△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ヘラ起シ・ナデ	灰	灰	高松	重焼痕	S107
208	2区 SD240	須恵器 無台坏	118	37		88		底12	△		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	淡灰	淡灰	高松	重焼痕、底部外面工具痕	S86
209	2区 SD240	須恵器 無台坏	121	36		86		口12	△		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	淡黄灰	淡黄灰	高松	重焼痕	E147
210	2区 SD240	須恵器 無台坏	122	32		82		口6	△		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	灰	灰	高松	2区遺構外Y14Wと接合、重焼痕	E146
211	2区 SD240	須恵器 無台坏	118	36		92		口7	○	△	○		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	暗灰	暗灰	高松	重焼痕	E151
212	2区 SD240	須恵器 無台坏	116	39		90		底12	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	淡灰白	淡灰白	高松	内外面煤付着、重焼痕	E143
213	2区 SD240	須恵器 無台坏	116	33		90		底12	△		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	淡灰黄	淡灰黄	高松	重焼痕、見込墨痕	E144
214	2区 SD240	須恵器 無台坏	117	49		86		底12	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	淡灰	淡灰	高松	重焼痕 内外面に灯明痕	E154
215	2区 SD240	須恵器 無台坏	122	38		85		底12	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ヘラ起シ・ナデ	灰	灰	高松	内外面吹出物	S97
216	2区 SD240	須恵器 無台坏	129	39		86		底12	△		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	淡黄灰	淡黄灰	高松		E145
217	2区 SD240	須恵器 無台坏	130	36		82		口12	○				ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ヘラ起シ・ナデ	淡灰褐	淡灰褐	高松		S102
218	2区 SD240	須恵器 無台坏	136	40		92		底12	△		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	淡黄灰	淡黄灰	高松	内外面灯明痕	E150
219	2区 SD240	須恵器 無台坏	118	35		86		底12	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	灰白	灰白		重焼痕、内外面灯明痕	S126
220	2区 SD240	須恵器 無台坏	120	35		83		底12	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	灰赤	灰赤	高松	底部外面ヘラ記号「十」	S85
221	2区 SD240	須恵器 無台坏	120	36		80		底12	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ヘラ起シ・ナデ	淡灰	灰	高松	重焼痕、底部外面ヘラ記号「十」	S106
222	2区 SD240	須恵器 無台坏	114	38		80		底12	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ヘラ起シ・ナデ	白灰	灰	末		TM166
223	2区 SD240	須恵器 無台坏	110	41		82		底12	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	白灰	白灰	高松	底部外面にヘラ記号ヵ	S91
224	2区 SD240	須恵器 無台坏	110	37		80		底12	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	灰	灰	高松	重焼痕、底部外面ヘラ記号「一」内面灯明痕	S90
225	2区 SD240	須恵器 無台坏	112	34		78		底12	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	灰	灰	高松	重焼痕、底部外面ヘラ記号「一」	S92
226	2区 SD240	須恵器 無台坏	108	38		78		口8	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	灰	灰		内外面灯明痕、打欠	S127
227	2区 SD240	須恵器 無台坏	110	39		80		口4	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	灰	灰	高松	重焼痕	S87
228	2区 SD240	須恵器 無台坏	122	37		96		底12	△				ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	淡灰黄	淡灰黄		重焼痕、内外面漆付着	E243
229	2区 SD240	須恵器 無台坏	114	38		76		底12	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	淡灰黄	淡灰黄		底部外面ヘラ記号「一」、内外面漆付着	E242
230	2区 SD240	須恵器 無台坏	121	28		80		底12	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	緑灰	緑灰	高松	重焼痕	E153
231	2区 SD240	須恵器 無台坏	130	35		87		底12	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	白灰	白灰	末	重焼痕	TM164
232	2区 SD240	須恵器 無台坏	125	34		84		口5	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	灰	灰	末		TM163
233	2区 SD240	須恵器 無台坏	126	40		92		底10	△		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	白灰	白灰	高松	重焼痕	S99
234	2区 SD240	須恵器 無台坏	126	39		87		底12	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	白灰	白灰	末	重焼痕	TM155
235	2区 SD240	須恵器 無台坏	127	30		80		底12	△		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ヘラ起シ・ナデ	淡褐灰	淡褐灰	末ヵ		TM165
236	2区 SD240	須恵器 無台坏	136	34		86		底8	△		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ヘラ起シ・ナデ	灰	灰	高松	胴部・底部外面煤or灯明痕ヵ	S100
237	2区 SD240	須恵器 無台坏	126	39		64		底9	△		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ヘラ起シ・ナデ	灰白	灰白	高松	重焼痕	S101
238	2区 SD240	須恵器 無台坏	128	41		72		口3	○				ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	白灰	白灰		内外面吹出物	S136
239	2区 SD240	須恵器 盤	155	24		110		底12	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	白灰	白灰	末ヵ	重焼痕	TM162
240	2区 SD240	須恵器 盤	160	22		130		底7	△		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ヘラ起シ・ナデ	灰	灰	末	底部外面工具痕	TM157
241	2区 SD240	須恵器 盤	160	25		136		底8	○				ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	白灰	白灰	末	重焼痕	TM160
242	2区 SD240	須恵器 盤	160	24		136		底9	△		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	白灰	白灰	末	2区SD303 2区No.50接合、重焼痕	TM161
243	2区 SD240	須恵器 盤	144	20		118		底9	△		△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	灰	灰	末	上層、重焼痕	TM156
244	2区 SD240	赤彩 無台碗	135	39		70		口3	△				ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		暗赤褐	暗赤褐			E235
245	2区 SD240	赤彩 無台碗	150	47		56		底10	△				ミガキヵ	ミガキヵ	ミガキヵ	ミガキヵ	マメツ	赤褐	赤褐			E237
246	2区 SD240	赤彩 無台碗	176	57		80		底12	△		△		ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		赤褐	赤褐			E236
247	2区 SD240	土師器 無台碗		(14)		46		底12	○		△	△		ナデ		ナデ	糸切り	淡橙黄	淡橙黄			E247
248	2区 SD240	土師器 柱高台碗		(22)		56		底12	△	△	△			ナデ		ナデ	糸切り	淡橙褐	淡橙褐			E248
249	2区 SD240	内黒 有台碗		(21)		64		底12	△			△		ナデ		ミガキヵ	マメツ	暗黄褐	黒		外面煤付着ヵ	E238
250	2区 SD240	内黒 有台碗		(27)		76		底1以下	△					ナデ		ミガキ		黄褐	黒		外面鉄分付着	E239
251	2区 SD240	内黒 有台碗		(40)		66		底12	○			○		ナデ		ミガキ	糸切り	淡黄褐	黒			E240
252	2区 SD240	土師器 甕	168	(150)	178		140	口1	○		△	△	ナデ	カキメ	ナデ	ナデ ヨゴレ		淡褐灰	淡橙			S37
253	2区 SD240	土師器 甕		(64)		78		底6	○	△		△		ハケヵ		ナデ	マメツ	淡橙灰	淡黄白		内外面煤付着、底部内面炭化物付着	E251
254	2区 SD240	土師器 甕	112	(50)	114		102	口4	○		△	△	ハケ	ハケヵ	ナデ	ナデ		淡橙灰	淡灰褐		内外面煤付着	S124
255	2区 SD240	土師器 甕		(25)		84		底8	△		△	○				ナデ	糸切り	橙褐	橙褐		底部内面コゲ・外面灯明痕ヵ	E244
256	2区 SD240	土師器 甕	160	(66)			148	口3	○		○	△	ナデ	カキメ後ケズリ	マメツ	ハケヵ		淡灰褐	淡灰褐		内外面口縁煤付着	S43

第2表　土器・陶磁器観察表（6）

番号	遺構	器種	法量 口径長	法量 器高幅	法量 胴径厚	法量 底径摘径	法量 頸径受径	遺存／12	胎土 砂	胎土 骨	胎土 礫	胎土 赤	調整 口縁外面	調整 胴部外面	調整 口縁内面	調整 胴部内面	調整 底部外面	色調 外面	色調 内面	産地	備考	実測番号
257	2区 SD240	土師器 甕	216	(69)			188	口1	○		△	△	ナデ	カキメ	ナデ	カキメ		淡灰褐	淡灰褐		外面煤付着	S38
258	2区 SD240	土師器 甕	226	(79)			178	口3	○		○	△	ナデ	カキメ	ナデ・カキメ	ナデ・カキメ		淡橙灰	淡橙灰		外面一部煤付着	S39
259	2区 SD240	土師器 鍋						口1以下	△				ナデ	カキメ	ナデ	ナデ		淡灰	淡灰		2区 AA9SD222と接合	E136
260	2区 SD240	土師器 鍋	310	(97)				口1	○		○	△	ナデ	カキメ	ナデ・カキメ	ナデ・カキメ		淡桃灰	淡桃灰			S41
261	2区 SD240	土師器 鍋	330	(80)			320	口1	○		△	△	ナデ	カキメ	ナデ	カキメヵ		淡桃白灰	淡桃白灰			S42
262	2区 SD240	土師器 鍋	350	(89)				口2	○		△	△	ナデ	カキメ	ナデ・ハケ	カキメ・ハケ		淡橙灰	淡橙灰		外面煤・内面ヨゴレ付着	S40
263	2区 SD240	須恵器 高坏		(94)				頸12	○					ナデ		ナデ		灰	灰		脚端部全周打欠	E138
264	2区 SD240	須恵器 鉄鉢	176	90	190	60		底12	○				ロクロナデ	ケズリ	ロクロナデ	ロクロナデ	糸切り	灰	灰			E137
265	2区 SD240	須恵器 長頸瓶		(125)			50	頸12	△	△	△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ・工具痕・指頭		灰	灰		2区 AA9SD222、1区 ST203と接合	FJ67
266	2区 SD240	須恵器 長頸瓶		(145)			53	頸12	◎					ロクロナデ・工具痕ヵ		ロクロナデ		暗灰	暗灰			E139
267	2区 SD240	須恵器 壷・瓶		(98)	220	143	87	底2	○		△			ロクロナデ		ロクロナデ	ヘラ切り・ナデ	灰白	灰白		カワ上層	E135
268	2区 SD240	須恵器 壷・瓶		(113)	214	130		底6	△					ロクロナデ		ロクロナデ	ナデ	灰褐	灰褐			E134
269	2区 SD240	須恵器 壷		(85)			87	頸1	△					ロクロナデ		カキメ		淡灰	淡灰			E140
270	2区 SD240	須恵器 甕	155	(176)	253		144	口1	○		△		ロクロナデ	カキメ・ケズリ	ロクロナデ	ロクロナデ		暗灰	灰			OH67
271	2区 SD240	須恵器 甕						口1以下	△		△		ロクロナデ	タタキ	ロクロナデ	タタキ		灰	暗灰			OH90
272	2区 SD240	須恵器 甕	264	(74)			230	口1	○		△		ロクロナデ・タタキ後ナデ	カキメ後タタキ	ロクロナデ	タタキ		灰	灰			OH92
273	2区 SD240	須恵器 甕	244	(140)			212	口2	○		△		ロクロナデ	タタキ	ロクロナデ	タタキ		灰	灰			OH91
274	2区 SD240	須恵器 壷						口1	◎		◎		ロクロナデ・波状文		ロクロナデ			暗灰	灰			OH69
275	2区 SD240	須恵器 壷						口1以下	△		△		ロクロナデ・波状文		ロクロナデ			灰	灰			OH68
276	2区 SD240	須恵器 甕						口1以下	○		○		ロクロナデ		ロクロナデ			灰	灰			OH93
277	2区 SD240	土師器 台付皿	90	47		56		底11	△			△	ナデ	指頭	ナデ	シボリ・ハケ		淡桃黄	淡桃黄			E241
278	2区 SD240	土師器 皿	110	20		60		口2	△				横ナデ・面トリ		ナデ	指頭		淡黄灰	淡黄灰		内外面に灯明痕	E249
279	2区 SD240	土師器 皿	124	23		70		口2	△			△	横ナデ	指頭	ハケ後ナデ			淡灰褐	淡橙灰			E279
280	2区 SD240	土師器 皿	156	29		120		口2	△	△		○	横ナデ		ナデ			淡灰橙	淡灰橙		内外面に灯明痕	E245
281	2区主 Y12 SD240	磁器 碗						口1以下										青磁釉	青磁釉		胎土色灰色	E160
282	2区 SD240	磁器 碗						口1以下										青磁釉	青磁釉		胎土色灰白色	E159
283	2区主 Y12 SD240	磁器 碗		(26)		62		底8										青磁釉	青磁釉		胎土色淡灰色、外面、底部無釉	E157
284	2区 SD240	白磁 皿	114	27		44		底3									糸切り	透明釉	透明釉		胎土色灰白色、底部無釉、貫入	E156
285	2区 SD240	陶器 瓶子	40	(30)				口2										灰釉	灰釉 無釉	瀬戸	胎土色淡灰黄色、口縁部無釉	E158
286	2区 SD240	珠洲 壷		(156)	180	74		底4	△					ロクロナデ・波状文・指頭		ロクロナデ		暗灰	暗灰			E161
287	2区主 Y12 SD240	珠洲 甕						口1以下	○	△	△		ロクロナデ		ロクロナデ			灰	灰			E165
288	2区 SD240	珠洲 甕	334	(266)	456		330	口2	○		△		ロクロナデ	タタキ	ロクロナデ	タタキ		灰	灰			E166
289	2区 SD240	珠洲 甕						底1以下	◎	△				タタキ・ナデ		ナデ		灰	灰		20と同一ヵ	E164
290	2区 SD240	珠洲 鉢						口1以下	△	△			ロクロナデ		ロクロナデ			灰	灰			E162
291	2区 SD244	土師器 壷	94	(77)			54	口11	△	◎	△	△	ミガキ	ミガキ	ナデ・ミガキ	ナデ・指頭		淡橙灰	暗灰褐		体部断面全周打欠ヵ	TM108
292	2区 SD244	土師器 壷	128	(50)			91	口8	○		△	△	ミガキ	ミガキ	ナデ	ハケ後ナデ・指頭		淡黄褐	淡黄褐			TM109
293	2区 SD244	土師器 壷						口1以下	◎			◎	ナデヵ・竹管文		ナデヵ			明橙黄	明橙黄			E102
294	2区 SD244	土師器 甕	182	(59)			159	口2	◎	○	△	△	ハケ後ナデ	ハケ	ハケ後ナデ	ハケ		淡橙桃	淡黄茶褐		内面黒斑・煤付着	E94
295	2区 SD244	土師器 壷		(97)			84	頸4	○			○		ハケ後ナデ・ハケ		ナデ・ケズリ		明橙褐	淡黄褐			E85
296	2区 SD244	土師器 壷	166	(63)			117	口2	◎	○	◎	△	ミガキ	ハケ後ミガキ	ミガキ	ハケ後ミガキ・ハケ後ナデ		淡黄褐	淡黄褐			TM110
297	2区 SD244	土師器 壷	174	(61)			116	口8	◎		◎		ナデ・ハケ後ミガキヵ		ハケ後ミガキヵ			淡褐	淡褐			TM111
298	2区 SD244	土師器 甕	142	(47)			124	口2	○	△		△	ナデ	ハケ	ナデ・指頭	ケズリ		淡桃褐	淡桃灰褐		外面煤付着	S36
299	2区 SD244	土師器 壷	176	(71)			134	口2	◎		△	○	ハケ後ナデ		ハケ			淡黄桃	淡黒褐			E93
300	2区 SD244	土師器 甕	124	(52)			110	口3	○			△	ナデ・ハケ	ナデ・ハケ	ハケ後ナデ	ケズリ		茶褐	淡灰褐		外面煤付着	S31
301	2区 SD244	土師器 壷	130	(72)			96	口2	◎			◎	ナデ・ハケ	ハケ	ハケ後ナデ	ハケ・ケズリ		桃褐	明黄褐		内面黒斑	E84
302	2区 SD244	土師器 甕	160	(50)			126	口5	○			△	ハケ・指頭	ハケ	ハケ・指頭	ハケ		淡黄褐	淡黄褐		外面煤付着	E90
303	2区 SD244	土師器 甕	184	(51)			150	口2	○			△	ナデ		ハケ後ナデ			黄茶褐	暗黄褐		外面煤付着	E87
304	2区 SD244	土師器 壷	176	(70)			160	口1以下	◎			○	ナデ	ハケ	ナデ	ケズリ		淡橙褐	淡橙褐		外面煤付着	E88
305	2区 SD244	土師器 甕	340	(83)				口1以下	△				ナデ・ハケ後ナデ		ナデ			淡黄灰褐	黒褐			E97
306	2区 SD244	土師器 甕	227	(65)			176	口3	○		○		ナデ	ハケ	ナデ	ハケ後ナデ・ケズリ		橙褐	橙褐		外面煤付着	OH38
307	2区 SD244	土師器 甕	160	(63)			142	口5	○			○	ナデ	ハケ	ナデ	ケズリ		淡黄桃	淡黄桃		外面黒斑	E99

第２表　土器・陶磁器観察表（７）

番号	遺構	器種	法量 口径	法量 器高	法量 胴径	法量 底径	法量 頸径	遺存 /12	胎土 砂	胎土 骨	胎土 樺	胎土 赤	調 口縁外面	調 胴部外面	整 口縁内面	整 胴部内面	底部外面	色調 外面	色調 内面	産地	備　考	実測番号
308	2区 SD244	土師器 壺	192	(94)			160	□4	○		○		ハケ後ナデ	ハケ	ナデ→ナズリ後ナデ	ナズリ		黄褐	褐灰		外面煤付着	TM61
309	2区 SD244	土師器 壺	193	(92)			166	□3	○		○		ナデ	ハケ	ハケ後ナデ・ハケ	ハケ		淡灰褐	淡灰褐		外面煤付着	CH35
310	2区 SD244	土師器 甕	200	(64)			168	□1	○	△	△	△	ナデ	ハケ	ナデ	ハケ		淡灰褐	淡灰褐			S35
311	2区 SD244	土師器 甕	182	(83)			163	□1 以下	△				ハケ後ナデ	ハケ	ハケ後ナデ	ナズリ		淡黄茶褐	淡茶褐			E96
312	2区 SD244	土師器 甕	197	(57)			175	□5	△		○	△	ハケ後ナデ	ハケ	ナデ	ナズリ		淡橙褐	淡橙褐		内面ヨコゴレ付着	CH36
313	2区 SD244	土師器 甕	186	(71)			164	□7	○		○	△	ナデ	ハケ	ハケ後ナデ	ナズリ後ナデ・ナデ		淡灰褐	灰褐		2区 SD222と接合、外面一部煤付着	TM59
314	2区 SD244	土師器 甕	139	(52)			116	□11	○	○	○	△	ナデ	ハケ	ナデ	ハケ		淡橙褐	淡橙褐		外面煤付着	CH34
315	2区 SD244	土師器 甕	208	(75)			178	□2	○		○	△	ナデ	ハケ	ナデ	ナズリ		淡桃灰褐	淡桃灰褐		外面煤付着	FJ21
316	2区 SD244	土師器 甕	126	(94)			110	□2	△				ハケ後ナデ	ハケ	ナデ	ナズリ後ナデ		淡灰褐	淡灰褐			E95
317	2区 SD244	土師器 甕	148	(105)	169		135	□4	○	○	○	△	ナデ	ナズリ後ハケ	ナデ	ナズリ後ハケ・ナズリ		桃灰褐	灰褐		外面一部黒斑、内面ヨコレ・コゲ付着	FJ23
318	2区 SD244	土師器 鉢	174	(69)			154	□3	○	○	△	○	ナデ	ハケ	ナデ	ナデ		淡桜褐	桃灰褐			FJ22
319	2区 SD244	土師器 壺	142	(63)			127	□10	△		○		ハケ	ハケ	ハケ後ナデ	ハケ・ハケ後ナデ		淡橙褐	淡橙褐		内面ヨコゴレ付着	CH39
320	2区 SD244	土師器 鉢	188	(86)			156	□2	○		△	○	ナデ	ハケ	ナデ	ナデ・指圧ナズリ		淡橙	淡橙			S34
321	2区 SD244	土師器 鉢	158	(53)			124	□2	○		△	△	ナデ	ナデ	ナデ	ナズリ		淡桜灰褐	淡桜灰褐		外面煤付着	S32
322	2区 SD244	土師器 甕	156	(56)			124	□2	○		△	△	ナデ	ハケ	ナデ	ナズリ		暗茶褐	暗茶褐			E101
323	2区 SD244	土師器 鉢	166	(52)			136	□2	○		△	○	ナデ	ハケ	ナデ	ナズリ		淡桃茶褐	淡桃茶褐		外面煤付着	E91
324	2区 SD244	土師器 小壺	132	136	135	17	107	□7	○	△	○		ナデ	ナズリ後ナデ	ナデ	ハケ後ナデ		淡黄褐	淡黄褐		外面煤・内面ヨコレ・コゲ付着	TM64
325	2区 SD244	土師器 壺	134	(193)	212		103	□5	○			○	ナデ	ハケ後ナデ・ナズリ後ナデ	ナデ	ナズリ後ナデ		橙褐	橙褐		外面煤、内面ヨコゴレ・コゲ付着	TM63
326	2区 SD244	土師器 壺	222	(68)			171	□1 以下	○		△	△	ハケ後ナデ	ハケ	ハケ後ナデ	ナズリ		淡桃褐	淡桃黄			E92
327	2区 SD244	土師器 鉢	197	(72)			152	□2	△		△	△	ナデ・指圧	ナズリ後ナデ	ハケ	ナデ		暗橙褐	暗橙褐		外面煤・内面ヨコレ付着	E93
328	2区 SD244	土師器 壺	158	(62)			126	□3	△	△		△	ナデ	ハケ	ナデ	ナデ		淡桃黄	淡桃黄		内面黒斑	E100
329	2区 SD244	土師器 壺	156	(122)	174		141	□2	○	○	△	△	ナデ	ハケ	ナデ	ナズリ		淡橙褐	淡黄橙褐			TM62
330	2区 SD244	土師器 壺	156	(259)	221		135	□5	○		○	△	ナデ	ハケ	ナデ	ナズリ		淡黄褐	淡黄褐		外面煤・内面ヨコレ付着	TM61
331	2区 SD244	土師器 壺	216	(75)			186	□2	○	△			ハケ後ナデ	ハケ	ハケ後ナデ	ナズリ		淡黄褐	黒褐		外面煤・内面ヨコレ付着・黒斑	E89
332	2区 SD244	土師器 壺	152	(159)	178		145	□2	○		○	△	ナデ	ハケ	ハケ	ハケ・ハケ後ナデ		暗褐	暗褐		外面煤・内面ヨコレ付着	TM62
333	2区 SD244	土師器 小壺	108	(52)			100	□7	△		△	△	ハケ後ミガキ	ハケ後ミガキ	ハケ後ナデ	ナズリ		灰褐	灰褐		外面煤・内面煤・ヨコレ付着	FJ24
334	2区 SD244	土師器 壺	132	(76)			126	□1	○		○		ナデ	ハケ	ナデ	ナズリ		灰茶褐	灰茶褐		内外面煤付着	S33
335	2区 SD244	土師器 壺	164	(214)	260		150	□5	○	△	○	△	ナデ	ハケ	ハケ後ナデ	ナズリ後ナデ		淡黄褐	淡黄褐		外面煤・内面煤・ヨコレ付着	TM65
336	2区 SD244	土師器 壺	138	(84)	166		130	□4	○	○	○	△	ナデ	ハケ	ハケ後ナデ	ナズリ後ナデ		橙褐	淡褐			TM60
337	2区 SD244	土師器 甕	231	(92)			226	□4		△		○	ハケ	ハケ	ハケ	ナズリ		淡橙褐	淡橙褐			CH37
338	2区 SD244	土師器 鉢		(140)				底10	○		△	△		ハケ後ケズリ		ハケ	ナデ	淡褐	淡褐			CH40
339	2区 SD244	土師器 鉢	186	(42)			182	□1	○	○			ナデ	ハケ	ハケ	ケズリ		赤茶褐	黒褐		内面黒斑	E86
340	2区 SD244	土師器 鉢		(86)		94		底5	○					ハケ・指圧		ケズリ		暗灰黄	暗灰黄		外面煤付着	E108
341	2区 SD244	土師器 鉢		(56)		72		底3	○		△	○		ハケ		ケズリ		淡黄褐	淡黄褐		外面黒斑	E103
342	2区 SD244	土師器 鉢		(61)		92		底2	○	○		○		ハケ		ケズリ		暗黄褐	暗黄褐			E106
343	2区 SD244	土師器 鉢		(62)		100		底1	○			○		ハケ		ナデ・指圧		淡灰	淡灰			E107
344	2区 SD244	土師器 鉢	262	(93)				□1	○			○	ナデ	ハケ	ナデ	ハケ		淡橙褐	淡橙		内面黒斑	TM145
345	2区 SD244	土師器 鉢半	長 67	幅 37	厚 25				○	○			ハケ		ハケ			淡桃黄	淡桃黄			E119
346	2区 SD244	土師器 鉢半	長 62	幅 41	厚 35				○		△		ハケ		ハケ			淡桜灰褐	淡桜灰褐			E122
347	2区 SD244	土師器 鉢半	長 95	幅 40	厚 35				○		△		ハケ		ハケ			淡橙黄	淡橙黄		外面煤付着	E121
348	2区 SD244	土師器 鉢半	長 65	幅 34	厚 20				△				ハケ		ハケ			淡桃茶褐	淡桃茶褐			E120
349	2区 SD244	土師器 壺						□1	○		○	○	ハケ		ハケ			淡橙褐	淡褐			CH41
350	2区 SD244	土師器 壺	長 (247)	幅 (70)	厚 (11)					○		○	ハケ		ハケ			淡橙褐	淡褐			CH42-2
351	2区 SD244	土師器 壺	長 (250)	幅 (110)	厚 (10)					○		○	ハケ		ハケ			淡橙褐	淡褐			CH42-1
352	2区 SD244	土師器 壺	長 (100)	幅 (94)	厚 (43)					○			ハケ		ハケ			橙褐	橙褐		内外面請付着	CH43
353	2区 SD244	土師器 壺	長 (96)	幅 (85)	厚 (32)					○		○	ハケ		ハケ			淡橙褐	淡褐			CH42-3
354	2区 SD244	土師器 壺	長 (331)	幅 (122)	厚 (28)					○		○	ハケ		ハケ			淡黄褐	淡橙褐		外面煤付着	CH42-4
355	2区 SD244	土師器 有孔鉢		(51)				底12	○		△	○		ハケ後ケズリ		ハケ後ナデ		淡黄褐	淡黄褐		底部孔1コ	E123
356	2区 SD244	土師器 鉢	184	(69)				□4	○			○	ハケ	ケズリ	ハケ	ハケ		淡黄橙	淡橙灰			E105
357	2区 SD244	土師器 小壺	60	50	47	20	40	底12	○			△	ナデ	ハケ	ナデ	ナデ・指圧	ナデ	淡黄橙	淡黄橙			E118
358	2区 SD244	土師器 小壺	72	76	80	36	56	底12	○		△		ナデ	ミガキ	ナデ	ナデ	ミガキ	淡黄褐	淡黄褐		内外面黒斑	TM105

第２表　土器・陶磁器観察表（８）

番号	遺構	器種	法量 口径	法量 器高	法量 胴径	法量 底径	法量 頸径	法量 受径	遺存 /12	胎土 砂	胎土 骨	胎土 樺	胎土 赤	調 口縁外面	調 胴部外面	調 口縁内面	調 胴部内面	調 底部外面	色調 外面	色調 内面	産地	備　考	実測番号
359	2区 SD244	土師器 小皿	94	86	85	30	67		底12	△	○		○	ミガキ	ハケ	ハケ	ナデ	ハケ→指頭	淡黄褐	淡黄褐			TM104
360	2区 SD244	土師器 小皿	95	76	87	30	69		底12	○		△	○	ナデ	ハケ	ナデ	ナデ		淡橙褐	淡橙褐			TM106
361	2区 SD244	土師器 小皿	74	77	90	20	64		底12	○	○	○	○	マメツ	マメツ	マメツ	ナデ→ハケ後ナデ	マメツ	淡橙褐	淡橙褐			TM107
362	2区 SD244	土師器 小型鉢	78	36		50			底9	○	○			ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	ナデ	淡黄褐	淡黄褐		内外面赤彩	TM103
363	2区 SD244	土師器 手捏	32	37		34			口12	△	△			ナデ→指頭	ナデ→指頭	ナデ→指頭	ナデ→指頭	ナデ→指頭	暗灰褐	暗灰褐			E117
364	2区 SD244	土師器 手捏	42	23		38			底12	△				ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	ナデ→指頭	ナデ→指頭	ナデ	淡黄褐	淡黄褐		外面黒斑	E116
365	2区 SD244	土師器 手捏	41	30		36			底12	○			○	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	ナデ→指頭	ナデ→指頭	ナデ	淡黄灰	淡黄灰			E115
366	2区 SD244	土師器 手捏		(25)		36			底12	○	△			ナデ→指頭	ナデ→指頭	ナデ→指頭	ナデ→指頭	ナデ	淡黄灰	淡黄灰			E114
367	2区 SD244	弥生 高坏							脚1 以下	○				ナデ→ケズリ		ケズリ			赤褐	赤褐		外面凹線8条	E104
368	2区 SD244	土師器 高坏		(100)					脚12	○	○		○	ミガキ		ミガキ	ナデ		橙褐	橙褐			TM68
369	2区 SD244	土師器 高坏	188	(72)					口3	○	○	△	○	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	ミガキ	ミガキ		淡灰褐	淡褐			TM67
370	2区 SD244	土師器 高坏	150	(49)					口2	△	○	△	○	ナデ	ナデ	ミガキ	ミガキ		淡褐	淡褐		外面黒斑	TM66
371	2区 SD244	土師器 高坏		(80)		92			底3	○		○	○		ミガキ		ナデ		淡橙褐	淡橙褐		外面赤彩	TM70
372	2区 SD244	土師器 高坏		(50)		124			底5	○			○		ミガキ		ケズリ→ハケ		淡褐	淡褐		外面赤彩	TM69
373	2区 SD244	土師器 鉢	99	52		18			底7	○		○		ミガキ	ミガキ	ミガキ	ナデ		褐	淡黄褐			TM99
374	2区 SD244	土師器 鉢	100	(46)					口2	○		○		ナデ	ケズリ後ナデ	ナデ	ミガキ		淡黄褐	淡黄褐		外面煤付着	TM101
375	2区 SD244	土師器 鉢	114	44		18			底9	△				△ ナデ	ナデ	ナデ	ミガキ	ナデ	淡黄褐	暗灰			TM100
376	2区 SD244	土師器 鉢	96	(33)					口3	○				ナデ	ケズリ後ナデ	ナデ	ナデ		暗灰	暗灰			TM102
377	2区 SD244	土師器 鉢	134	42		60			口4	○			○	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ	ナデ	ナデ		淡橙褐	淡橙褐			TM98
378	2区 SD244	土師器 鉢	128	43		30			口9	○	○	△	○	マメツ	マメツ	マメツ	マメツ→指頭	マメツ	橙	橙		外面黒斑	TM96
379	2区 SD244	土師器 鉢	130	(40)					口3	△			△	ナデ	ケズリ後ナデ	ナデ	ナデ		淡黄褐	淡黄褐			TM93
380	2区 SD244	土師器 鉢	156	42		100			底9	○	△	△	○	ナデ	ハケ	ミガキ	ミガキ	ハケ→指頭	淡黄橙褐	淡橙褐			TM97
381	2区 SD244	土師器 鉢	150	(50)					口1	○	○	△		ナデ	ハケ	ナデ	ミガキ		淡褐	淡褐			TM95
382	2区 SD244	土師器 鉢	166	61		36			底12	○	○	△	○	ナデ	ナデ	ナデ	ミガキ	ケズリ	淡橙褐	淡褐		内外面黒斑	TM94
383	2区 SD244	内黒 台付椀		(31)		52			底9	○	○			ミガキ→ナデ		ミガキ→ナデ			淡褐	黒			TM64
384	2区 SD244	内黒 台付椀		(52)		96			底8	○	○	△	△	ナデ→工具痕		ミガキ→ナデ→工具痕			淡橙褐	黒		据部黒斑ヵ	TM65
385	2区 SD244	内黒 台付椀	122	85		84			底12	△	○		△	ハケ後ナデ	ナデ→ハケ	ナデ	ミガキ→ナデ→工具痕		淡褐	黒		外面口縁黒斑	TM63
386	2区 SD244	内黒 台付椀		(70)		90			底1 以下	○	○		△		ミガキ→ナデ→ハケ		ミガキ→ナデ→ハケ		暗灰	黒		内面十字線刻	TM72
387	2区 SD244	内黒 台付椀	126	(38)					口2	△	○		○	ナデ	ナデ→ケズリ→ミガキ	ミガキ	ミガキ		淡褐	黒			TM79
388	2区 SD244	内黒 椀	148	(55)		60			底3	△	○			横ナデ	ナデ	ミガキ	ミガキ		淡褐	黒		外面口縁黒斑	TM77
389	2区 SD244	内黒 椀	152	(48)					口2	△	○			ナデ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		褐	黒		外面黒斑	TM74
390	2区 SD244	内黒 椀	146	40		57			口2	○	○		△	ミガキ	ミガキ→ハケ後ナデ	ミガキ	ミガキ	ハケ→ナデ	淡褐	黒		外面口縁黒斑、外面赤彩ヵ	TM80
391	2区 SD244	内黒 椀	154	40		40			口3	○	○	△	△	ミガキ	ケズリ後ミガキ→指頭	ミガキ	ミガキ		黄褐	黒		外面口縁黒斑	TM73
392	2区 SD244	内黒 椀	144	(40)					口3	○	○		○	ミガキ	ナデ	ミガキ	ミガキ		淡褐	黒			TM78
393	2区 SD244	内黒 椀	164	(46)					口3	△			○	横ナデ	ナデ	ミガキ	ミガキ		暗赤褐	黒			TM71
394	2区 SD244	内黒 椀	168	(36)					口2	○	○		△	横ナデ	ケズリ後ナデ	ミガキ	ミガキ		淡黄褐	黒		外面口縁黒斑	TM76
395	2区 SD244	内黒 椀	160	(64)					口1	△	○			ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		灰黄褐	黒		外面口縁黒斑	TM75
396	2区 SD244	須恵器 蓋	130	50					口1	○		△		ロクロナデ	ロクロナデ→ケズリ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ→ナデ	灰	灰		411と対ヵ	E71
397	2区 SD244	須恵器 蓋		(41)					脚5	○	△	△	△	ロクロナデ	ロクロナデ→ケズリ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ→ナデ	暗灰	灰			E70
398	2区 SD244	須恵器 蓋	122	41					口2	△				ロクロナデ	ロクロナデ→ケズリ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ→ナデ	灰	灰			E81
399	2区 SD244	須恵器 蓋	118	42					口5	○				ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ→ナデ	灰	灰			E79
400	2区 SD244	須恵器 蓋	128	46					口4	△		△		ロクロナデ	ロクロナデ→ケズリ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ→ナデ	灰白	灰白			E82
401	2区 SD244	須恵器 蓋	118	54					口1 以下	○				ロクロナデ	ロクロナデ→ケズリ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ→ナデ	灰	灰			E83
402	2区 SD244	須恵器 蓋	140	53					口9	○	○	△		ロクロナデ	ケズリ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ→ナデ	灰	暗灰褐			E76
403	2区 SD244	須恵器 蓋	140	52					口4	○				ロクロナデ	ロクロナデ→ケズリ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ→ナデ	灰	灰			E78
404	2区 SD244	須恵器 蓋	138	43					底12	○				ロクロナデ	ロクロナデ→ケズリ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ→ナデ	灰褐	灰			E80
405	2区 SD244	須恵器 蓋	126	42					口1	△				ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ→ナデ	灰	灰			E67
406	2区 SD244	須恵器 蓋	156	(52)					口1 以下	○				ロクロナデ	ロクロナデ→ケズリ	ロクロナデ	ロクロナデ→指頭	ケズリ→ナデ	暗緑灰	緑灰		2区 SD240と接合	E69
407	2区 SD244	須恵器 蓋	142	41					口6	△		△		ロクロナデ	ロクロナデ→ケズリ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ→ナデ	暗灰	暗灰			E75
408	2区 SD244	須恵器 蓋	138	44					口3	○				ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ→ナデ	灰	灰			E68
409	2区 SD244	須恵器 蓋	134	(41)					口4	△				ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ→ナデ	灰	灰白			E73
410	2区 SD244	須恵器 坏身	98	46				受 116	底8	△				ロクロナデ	ロクロナデ→ケズリ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリ→ナデ	灰	灰			OH25

第２表　土器・陶磁器観察表（９）

番号	遺構	器種	法量 口径	法量 器高	法量 胴径	法量 底径	法量 頸径	遺存	胎土 砂	胎土 骨	胎土 赤	調 口縁外面	調 胴部外面	調 口縁内面	調 胴部内面	調 底部外面	色調 外面	色調 内面	産地	備　考	実測番号
411	2区 SD244	須恵器 坏身	107	53			受 127	底12	△		○	ロクロナデ	ロクロナデ→ケズリ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリナデ	灰	灰		396と対ヵ	OH17
412	2区 SD244	須恵器 坏身		(40)			受 128	底9	△		△	ロクロナデ	ロクロナデ→ケズリ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリナデ	暗灰	暗灰			OH23
413	2区 SD244	須恵器 坏身	113	54			受 134	底11	○		○	ロクロナデ	ロクロナデ→ケズリ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリナデ	暗灰	暗灰		2区 SD240と接合	OH21
414	2区 SD244	須恵器 坏身	112	50			受 133	底12	△		△	ロクロナデ	ロクロナデ→ケズリ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリナデ	灰	暗灰			OH22
415	2区 SD244	須恵器 坏身	119	54			受 147	底12	○	△	○	ロクロナデ	ロクロナデ→ケズリ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリナデ	灰	暗灰			OH19
416	2区 SD244	須恵器 坏身	124	(51)			受 146	口3	○		△	ロクロナデ	ロクロナデ→ケズリ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリナデ	灰	淡橙			OH26
417	2区 SD244	須恵器 坏身	125	48			受 150	底4	○	△	△	ロクロナデ	ロクロナデ→ケズリ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリナデ	暗灰	灰			OH24
418	2区 SD244	須恵器 坏身	108	(48)			受 138	口3	○		○	ロクロナデ	ロクロナデ→ケズリ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリナデ	灰	灰			OH27
419	2区 SD244	須恵器 坏身	144	37			受 168	底6	△		△	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリナデ	黒灰	暗灰			OH16
420	2区 SD244	須恵器 坏身	130	44			受 151	底12	○	△		ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリナデ	暗灰	灰			OH14
421	2区 SD244	須恵器 坏身	125	45			受 149	底12	○	△	○	ロクロナデ	ロクロナデ→ケズリ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリナデ	灰	暗灰			OH18
422	2区 SD244	須恵器 坏身	131	(36)			受 147	口3	○		△	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリナデ	黒灰	灰			OH28
423	2区 SD244	須恵器 坏身		(37)			受 149	底2	○		△	ロクロナデ	ロクロナデ→ケズリ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリナデ	暗灰	暗灰			OH15
424	2区 SD244	須恵器 坏身		(35)			受 149	底11	○	△			ロクロナデ→ケズリ		ロクロナデ	ケズリナデ	黒	暗茶			OH20
425	2区 SD244	須恵器 高坏		(70)		78		底8	○	△			ロクロナデ→ケズリ		ロクロナデ		灰	灰		透穴3コ残	TM88
426	2区 SD244	須恵器 高坏		(65)		90		底2	△	△			ロクロナデ→ケズリ後ナデ		ロクロナデ		灰白	灰白		透穴3コ残	TM89
427	2区 SD244	須恵器 高坏		(32)		86		底10	○	○			ロクロナデ		ロクロナデ		灰	灰		透穴3コ残	TM87
428	2区 SD244	須恵器 高坏		(47)		90		底6	△	△			ロクロナデ→ケズリ後ナデ		ロクロナデ		灰白	灰			TM86
429	2区 SD244	須恵器 壺ヵ		(93)	136	30		底10	△				カキメ→ロクロナデ→カキ		ロクロナデ		灰	灰白			TM91
430	2区 SD244	須恵器 壺	158	37		ツマミ 30		口12	○			ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	暗灰褐	暗灰褐			E61
431	2区 SD244	須恵器 有台坏	156	47		98		底12	○			ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切りナデ	暗灰褐	灰茶褐		底部外面墨痕	E58
432	2区 SD244	須恵器 有台坏	110	46		74		底10	△			ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り→ヘラ削ニナデ	暗灰	灰		内面漆付着	FJ117
433	2区 SD244	須恵器 無台坏	138	39		110		底12	○	△	△	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り→ヘラ削ニナデ	暗灰	灰			E50
434	2区 SD244	須恵器 無台坏	124	31		82		底12	△			ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切りナデ	灰褐	灰褐		内面漆付着	E48
435	2区 SD244	須恵器 無台坏	132	34		90		底12	○			ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切り→ヘラ削ニナデ	淡灰黄	淡茶褐			E47
436	2区 SD244	赤彩 椀	122	31		68		口1 以下	△			ミガキ	ミガキ	ミガキ	ミガキ		赤橙灰	赤橙		内外面赤彩	S123
437	2区 SD244	赤彩 無台坏		(8)		98		底12	△			ナデ			ミガキ	ヘラ切り	赤橙	赤橙		内外面赤彩、周囲打欠・研磨ヵ	S126
438	2区 SD240・244	土師器 鉢台	82	(27)				口12	○		△	横ナデ	ナデ	ミガキ	ミガキ		淡橙黄 橙	淡橙黄			S125
439	2区 SD240・244	須恵器 鉢	124	(44)				口1 以下	○			ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリナデ	灰	灰			E66
440	2区 SD240・244	須恵器 鉢	150	50				口3	△		△	ロクロナデ	ロクロナデ→ケズリ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリナデ	灰白	灰白			E77
441	2区 SD240・244	須恵器 鉢	142	51				口6	○		△	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリナデ	茶橙	茶橙			E65
442	2区 SD240・244	須恵器 鉢	130	51				口1 以下	○		△	ロクロナデ	ロクロナデ→ケズリ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリナデ	灰白	灰			E72
443	2区 SD240・244	須恵器 鉢	122	41				口1	○			ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリナデ	灰	灰			E74
444	2区 SD240・244	須恵器 坏身	130	53			受 151	口1 以下	○			ロクロナデ	ロクロナデ→ケズリ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリナデ	暗灰	暗灰			S145
445	主斜線 遺構外	須恵器 坏身	118	47			受 140	口1	○		△	ロクロナデ	ロクロナデ→ケズリ	ロクロナデ	ロクロナデ	ケズリナデ	灰	灰			S146
446	主斜線 遺構外	須恵器 有台坏	122	39		86		底7	○		△	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切りナデ	暗灰褐	暗灰褐			EE231
447	主斜線 遺構外	須恵器 有台坏	112	46		78		底12	○		△	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切りナデ	淡灰	淡灰			EE230
448	主斜線 遺構外	須恵器 有台坏	113	40		77		底12	○		△	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ切りナデ	暗灰褐	暗灰褐		底部外面墨書	EE232
449	主斜線 遺構外	須恵器 無台坏		(33)		76		底4	○		△		ロクロナデ		ロクロナデ	ヘラ切りナデ	灰	灰		底部外面墨書	EE233
450	主斜線 遺構外	磁器 碗ヵ	182	(43)				口1 以下									青磁釉	青磁釉		胎土色灰白色	EE229
451	主斜線 遺構外	磁器 碗		(20)		58		底2									青磁釉	青磁釉		胎土色灰白色	EE228
452	2区 Y14W3 遺構外	須恵器 壺	136	(86)			134	口3	○		△	ロクロナデ	カキメ後タタキ	ロクロナデ	カキメ		灰	灰			OH94
453	主斜線 遺構外	須恵器 壺	276	(75)			196	口3	○			ロクロナデ	タタキ	ロクロナデ	タタキ		灰	灰			EE227

第５章　石製品

第１節　概要

畝田・寺中遺跡は縄文時代～室町時代の複合遺跡であり、各時代の様々な遺構・遺物が確認されている。本章では、本報告書で対象となっている主幹線２区から出土した石製品及び前回報告までの補遺も含めて、器種ごとに整理し報告する。そのため、石製品が帰属する遺構および時代について、図版上混在していることをご了承願いたい。なお、紙幅の関係により、遺物が出土した遺構・法量・石材等の詳細情報については、別途石製品観察表(第３表)を参照されたい。

第２節　石製品

454～458は敲石である。454は両端に使用痕を残す砂岩製のもので、表面に若干の剥離がみられる。455は三角柱状で、２辺に凹みがあり、凹石としての使用も想定されるが安定しない。456は卵状を呈し、両端に使用痕が顕著である。457は灰赤色を呈する小振りのものである。両端に使用痕が顕著で、側面に若干の擦痕が認められる。この２個体はそのサイズから細かな調整等の作業に適しており、玉製品等の加工・調整の用途が想定されようか。458は両端部に使用痕が認められる、太鼓状を呈する玢岩製のものである。うち１面は面的に敲痕が顕著で、他方１面については石材の形状変化点に細かな敲痕が認められる。

459・460は凹石として分類した。459は軟質の欠損品であるが卵形であることが窺われ、その３面に凹みが認められる。460は円盤状を呈し、表面とした側に２箇所、裏面に１箇所の凹みがある。

461は灰白色を呈するデイサイト質凝灰岩製の打製石斧である。最大長は205mm、重量は865g、形状は基部から刃部に向けて緩やかに広がる、いわゆる撥形である。462・463は磨製石斧である。462は緻密な砂岩製で、基部・刃部ともに欠損するが、太形蛤刃石斧であろう。463は側面をもつもので、462に比べ小振りである。464は磨石である。球状を呈し、その外周に約３cmの幅で擦痕が認められる。465は直縁刃石器で、変質安山岩の剥片を調整し、刃部を設けた剥片石器である。調整は必要最小限となっており、刃部には擦痕が認められる。

466～470は石錘とした。466は長卵形を呈し結合装置としての穿孔及び施溝を有する、いわゆる「九州型石錘」であるが、砂岩製であり、九州地方の普遍的なもの(滑石製)とは材を異にする。467は結合装置として抉り加工が上面および側面に施される。468は断片であるが大きなもので、結束のための抉りが認められる。469・470は凝灰岩製で、結合装置としての孔を有する。470は断片だが卵形に復元できる。

471～478は砥石である。471は３面使用の流紋岩製だが、端部に３条の施溝があり、転用もしくは砥石以外のものの一部である可能性を残す。472は３面使用しており、石材は流紋岩である。473は不整形であるが、残存する全ての面において使用痕が認められる。474は緻密な砂岩製のもので、３面に使用痕がある。475は不整形な流紋岩製砥石である。２箇所に使用痕が確認できる。476は凝灰岩製で、４面使用と思われるが、うち１面は被熱による剥離のため断定できない。477は４面使用の流紋岩製である。478は軽石で、使用痕は１面である。

479は石皿の断片で、擦痕は一面のみである。480は輝石安山岩製の石皿である。断片だが両面に擦痕が認められ、図版向かって左側が顕著である。

481は石刀であろうか。断面は緩やかな楔形を呈し、基部は溝での施紋が確認できる。縄文時代晩期のものと考えられる。

482はSD244から出土した磨製石剣と考えられる石製品である。緑黒色を呈する粘板岩製で、茎部・

刃部を欠損する。磨製石斧に似るが、中央に鎬状の加工が見受けられ、側面は左右ともに途中までを面として加工し、その後は稜として仕上げている。側面状の箇所を茎と判断し、大形であるが石剣とした。極大形磨製尖頭器、石製模造品である可能性もある。483は両刃石器で、両端につぶれた刃部をもつ。両端が欠損しており確実なことはいえないが、石剣あるいは石鋸としての用途が想定される。

484はSD244から出土した粘板岩製の砥で、裏面にも使用痕がある。表面は再研磨されているが、意図は不明である。485は擂粉木状の石器である。用途は不明であるが、手にした感覚からは石器・玉類の調整具としての機能が想定できようか。

486～492は円盤状未成品である。これらは打割あるいは擦切によって中央を刳り貫き、腕輪状石製品とする過程のものである。石材は変質流紋岩を主とし、色調は明緑灰色～暗緑灰色を呈する。486には中央打割に伴う剥離が認められ、その段階での破断であろう。487は破断したもので、表面側面ともに押圧による調整が認められる。488は1面が研磨されている。489～491は円形に調整されているが、いずれも誤剥離によって成品の厚みが確保できなくなったため、途中段階で廃棄されたものであろう。492は短辺の頂点に資料が抽出された大きな打点がある。外周調整の段階で破断、廃棄されたものか。

493・494は変質流紋岩の剥片だが、493には表面に粗い研磨が認められ、玉製品の未成品である可能性がある。495は碧玉の石核である。496は変質流紋岩の石核で、管玉等の材料である。497には石材分割のための施溝が4箇所認められる。管玉となる材を切り出したもの、あるいは管玉未成品と考えられ、手法から弥生時代中期～後期のものであろうか。498・499は翡翠の原石で、未加工品のため時代は不詳である。

500は松林山型琴柱形石製品の未成品であると考えられる。材質は硬質の変質流紋岩で、両面は主に右から左へ向かっての小さな敲打、側面は上下両面からの敲打によって整形される。軸部には下方からの打撃が目立つ。反りをもった形状となっているが、成品の形状には遠く、さらに整形された後研磨が加えられるのであろう。

501は車輪石の成品である。復元径は約104mm、石材は縞目の入る変質凝灰岩で、節理と平行に抽出されている。鐘方分類のBⅣ形式である。502は石鋤の成品である。変質凝灰岩製で、復元径は約80mmである。

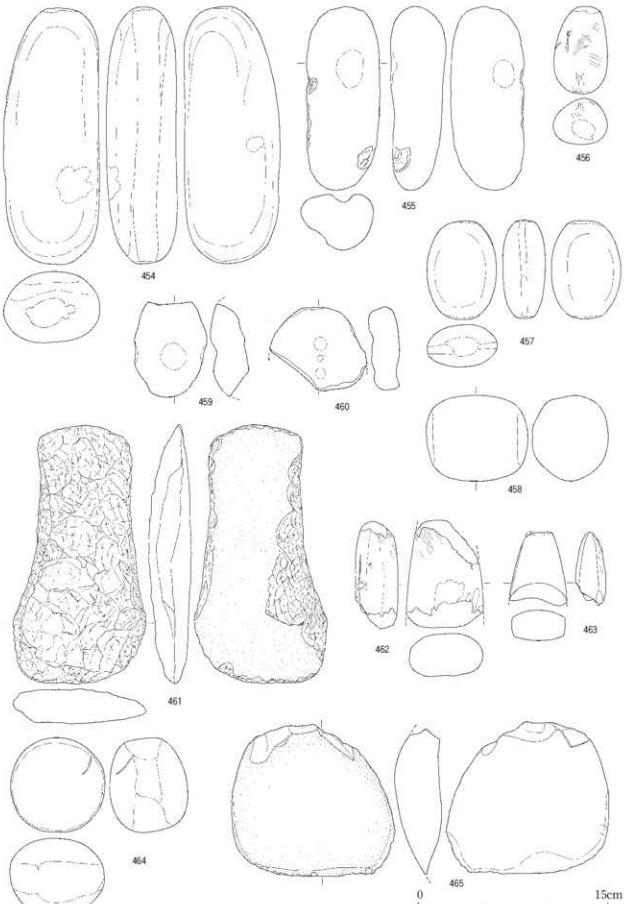
503は変質流紋岩製の刳貫円盤、504は凝灰質頁岩製の有孔円盤である。平面形は横長の円形を呈し、中央部に1孔をもつ。505は滑石製の紡錘車で、復元径は約42mm、復元孔径は約7mmである。

506～510は円盤状未成品の中央をくり抜いたもので、工程として円盤状未成品の次段階である。石材はいずれも変質流紋岩で、内面に整形のための細かな調整が認められる。507は上下面ともに角度を付けて研磨している。510は底面に研磨が認められる。

512は滑石製の臼玉である。511は無斑晶質安山岩製の穿孔具で、径は514の管玉の径と一致する。513は片面穿孔、514は両面穿孔の管玉である。515～518は管玉の未成品で、517が変質凝灰岩製、ほかは碧玉製である。516には分割のための擦切が認められ、その他碧玉製のものとあわせて弥生時代中期～後期のものと考えられる。

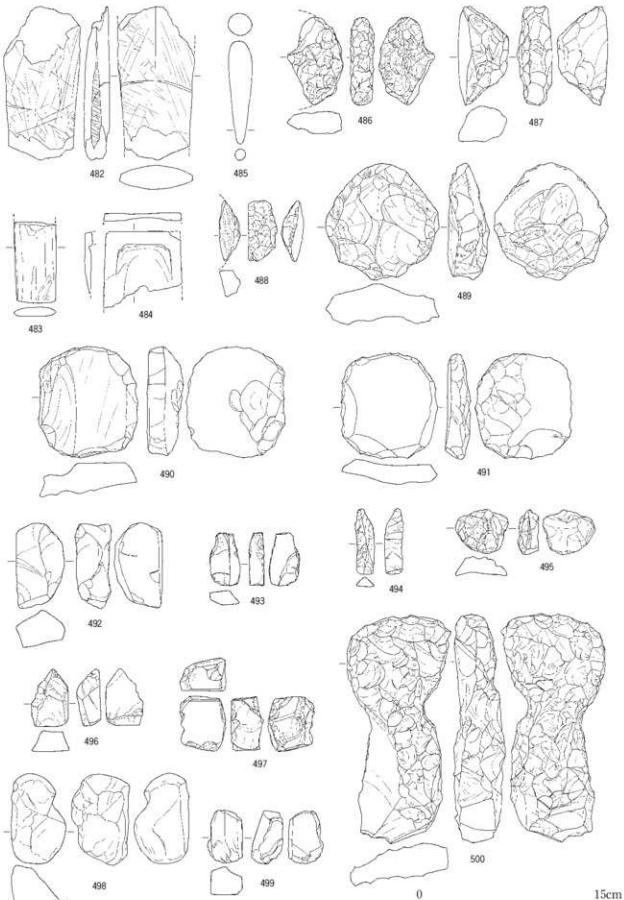
519は蛇紋岩製の勾玉で、緑色を呈する。520は変質凝灰岩製の丁字頭定形勾玉の破片である。孔の周囲に少なくとも3条の施溝が確認できる。522は滑石製の成品、521は滑石製の未成品である。穿孔されているが研磨による仕上げが不十分であることから未成品とした。523は滑石製の成品である。

524～537は石鏃である。石材は主に無斑晶質安山岩と頁岩であるが、536の有茎のものは黄褐色を呈する珪質頁岩である。この石材は新潟県以北の日本海側に産地が限定されることから、搬入品であるといえよう。537は欠損しており、石鏃以外のものである可能性がある。

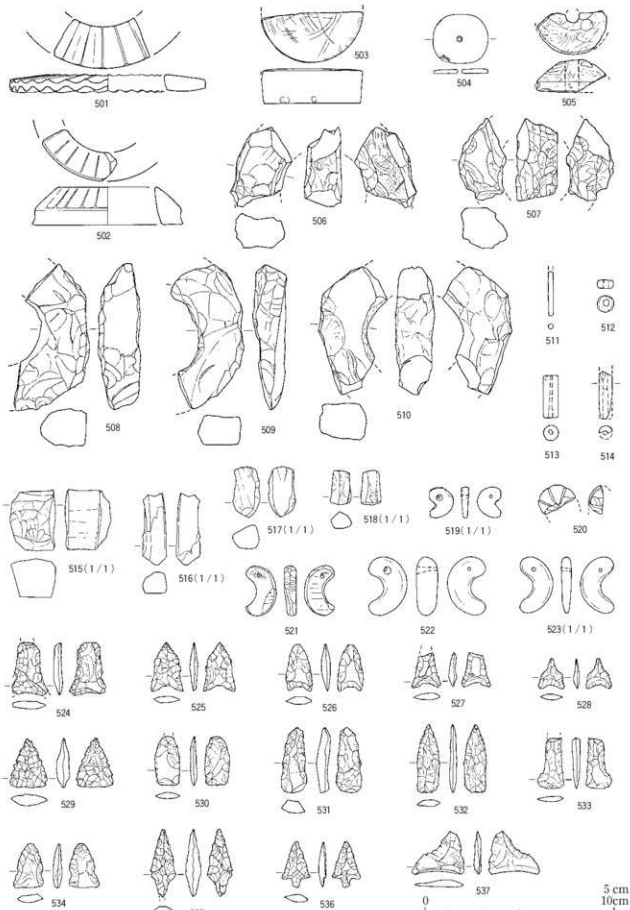


第30図　石製品（1）〔S＝1／3〕

第31図　石製品（2）〔S＝1／3〕



第32図　石製品（３）〔S＝１／３〕



第33図　石製品（4）〔S＝1／2・1〕

第３表　石製品観察表

番号	遺構	器種	法量（mm・g） 長	幅	厚	重	色調	石材等	実測番号
454	2区 SD244	敲石	240.0	75.0	56.0	1480.0	10YR6/3 にぶい黄橙色	砂岩 両端使用痕	A108
455	2区 SD240	敲石	145.0	53.0	44.0	473.0	2.5GY8/1 灰白色	凝灰岩 凹み有 両端使用痕	E253
456	2区 SD244	敲石	69.0	43.0	36.5	140.0	5Y3/1 オリーブ黒色	玄武岩 両端使用痕	Q104
457	2区 SD222	敲石	78.0	56.0	34.0	220.0	2.5YR4/2 灰赤色	玢岩 側面擦痕 両端使用痕	A107
458	2区 SD240	敲石	81.0	63.0	60.0	520.0	5YR8/1 灰白色	玢岩 両端使用痕	E252
459	2区 SD303	凹石	(74.0)	(57.0)	(28.0)	(100.0)	2.5Y8/6 黄色	凝灰岩 3面凹みあり	E200
460	1区 SD303	凹石	(66.0)	(72.0)	23.0	(148.0)	2.5Y6/4 にぶい黄色	砂岩 凹み3箇所	E201
461	2区 SD240	打製石斧	205.0	105.5	34.0	865.0	7.5Y8/1 灰白色	デイサイト質 凝灰岩	Y41
462	2区 SD244	磨製石斧	(85.5)	(61.5)	(34.0)	(250.0)	7.5Y7/1 灰白色	砂岩 刃部・基部欠損	Q107
463	2区 SD303	磨製石斧	(57.0)	(46.0)	(23.0)	(81.9)	5Y6/4 オリーブ黄色	凝灰岩	E204
464	2区 SD244	磨石	75.0	75.0	62.0	505.0	2.5Y7/2 灰黄色	玢岩	Q102
465	2区 SD222	直縁刃石器	121.0	130.0	37.0	630.0	5Y5/3 灰オリーブ色	変質安山岩	A110
466	2区 SD244	石錘	(118.5)	38.0	39.0	(220.0)	5Y7/4 浅黄色	砂岩 孔径7mm	G50
467	2区 包含層	石錘	104.0	67.0	58.5	430.0	7.5Y8/1 灰白色	凝灰岩 先端4箇所抉り	Y40
468	2区 SD303	石錘	(91.0)	65.0	(66.0)	(750.0)	2.5Y7/2 灰黄色	凝灰岩	E199
469	2区 SD240	石錘	41.0	44.0	21.0	45.0	7.5Y8/1 灰白色	凝灰岩 孔径8mm	N4
470	2区 SD244	石錘	(45.0)	(33.0)	(48.5)	(55.0)	2.5Y7/3 浅黄色	凝灰岩 孔径9mm	E316
471	2区 SD244	砥石？	(35.0)	24.0	12.0	(10.0)	2.5Y7/4 浅黄色	流紋岩 擦切痕3条	A116
472	2区 SD244	砥石	(80.5)	57.5	24.0	(140.0)	7.5Y8/2 灰白色	流紋岩	Q108
473	2区 SD222	砥石	(81.0)	(55.0)	35.0	(150.0)	10YR7/4 にぶい黄橙色	流紋岩 表面煤付着	A109
474	2区 SD244	砥石	(54.5)	26.0	16.5	(26.0)	7.5Y7/1 灰白色	砂岩	Q109
475	2区 SD240	砥石	56.0	75.0	52.0	130.0	2.5Y8/4 淡黄色	流紋岩	OH55
476	2区 SD240	砥石	127.0	74.0	51.0	705.0	2.5Y8/3 淡黄色	凝灰岩 表面煤付着	E257
477	2区 SD244	砥石	(56.0)	50.0	45.0	(156.0)	5Y8/4 淡黄色	流紋岩	SH 205
478	2区 SD240	砥石	71.0	85.0	66.0	78.9	2.5Y7/2 灰黄色	軽石	E258
479	2区 SD244	石皿	(119.0)	(71.0)	(30.0)	(340.0)	10YR3/1 黒褐色	玄武岩	Q103
480	2区 SD244	石皿	(101.0)	(154.0)	31.0	(605.0)	2.5Y5/3 黄褐色	輝石安山岩	A117
481	2区 SD303	石刀	(62.0)	(30.0)	(21.0)	(60.7)	7.5Y5/2 灰オリーブ色	玄武岩	E202
482	2区 SD244	磨製石剣	(122.0)	61.0	(20.0)	(200.0)	7.5GY2/1 緑黒色	粘板岩 刃部・基部欠損	G49
483	2区 SD240	両刃石器	(65.0)	33.0	7.0	(26.6)	7.5Y4/1 灰色	玢岩 石鍬か	S192
484	2区 SD244	鎌	(61.0)	(62.0)	(6.0)	(32.2)	N3/ 暗灰色	粘板岩	G14
485	2区 AA8W5	加工具	82.0	19.0	18.0	30.7	7.5YR7/1 明褐灰色	砂岩	E203
486	2区 SD240	円盤状未成品	(70.0)	(43.0)	18.0	(54.7)	2.5GY7/1 明オリーブ灰色	変質流紋岩	TM 278
487	2区 SD240	円盤状未成品	(78.0)	(40.0)	28.0	(80.0)	7.5GY8/1 明緑灰色	変質流紋岩	E256
488	2区 SD240	円盤状未成品	(48.0)	(28.0)	13.0	(14.2)	7.5GY7/1 明緑灰色	変質流紋岩 1面研磨	TM 277
489	2区 SD240	円盤状未成品	91.0	90.0	28.0	220.0	7.5GY8/1 明緑灰色	変質流紋岩 表面鉄錆付着	TM 279
490	2区 SD240	円盤状未成品	88.0	78.0	24.0	151.0	7.5GY8/1 明緑灰色	変質流紋岩 片面粗く研磨	E255
491	2区 SD240	円盤状未成品	84.0	77.0	19.0	135.0	10GY5/1 緑灰色	凝灰質頁岩 表面鉄錆付着	E254
492	2区 SD303	円盤状未成品	(66.0)	(08.0)	27.0	(95.0)	5GY4/1 暗オリーブ灰色	変質流紋岩	E205
493	3区 SD222	剥片	42.0	24.0	1.2	15.4	10Y6/2 オリーブ灰色	変質流紋岩 研磨？	T436
494	2区 SD244	剥片	52.0	14.0	8.0	4.4	10GY7/1 明緑灰色	変質流紋岩	G51
495	2区 SD244	石核	35.0	42.0	17.0	20.0	5GY4/1 暗オリーブ灰色	碧玉	A120
496	2区 SD244	石核	45.0	30.0	19.0	20.0	7.5GY4/1 暗緑灰色	変質流紋岩	A119
497	2区 SD240	石核	44.0	37.0	26.0	55.8	10GY6/1 緑灰色	変質流紋岩 擦切痕4箇所	M17
498	1区 SK203	原石	71.0	45.0	36.0	190.0	2.5G9/2 明緑灰色	翡翠	E206
499	2区 SD244	原石	42.0	28.0	24.0	40.0	2.5GY8/4 明緑灰色	翡翠	A121
500	2区 SD222	琴柱形未成品	200.0	83.0	26.0	525.0	7.5Y6/3 オリーブ黄色	変質流紋岩	A106
501	1区 SD222	車輪石	(51.0)	22.0	9.5	(10.0)	10GY7/1 明緑灰色	変質流紋岩 復元径104 28弁	A115
502	1区 包含層	石釧	(41.0)	15.0	20.0	(9.3)	7.5GY7/1 明緑灰色	変質凝灰岩 復元径80mm	G24
503	2区 SD222	刳貫円盤	(54.0)	(27.0)	18.5	(30.0)	7.5GY7/1 明緑灰色	変質凝灰岩	A112
504	3区 SD201	有孔円盤	29.0	26.0	2.0	2.6	10Y6/2 オリーブ灰色	凝灰質頁岩 孔径2mm	Y13
505	3区 SD222	紡錘車	(37.0)	(22.0)	17.0	(14.0)	10Y7/1 灰白色	滑石 孔径7mm	N35
506	1区 SD223	環状未成品	(45.0)	27.0	18.0	(21.9)	2.5GY7/1 明オリーブ灰色	変質流紋岩	E198
507	2区 SD223	環状未成品	43.0	25.5	22.0	18.5	7.5GY7/1 明緑灰色	変質流紋岩	Y42
508	2区 SD222	環状未成品	(78.0)	24.0	23.0	(50.0)	7.5GY7/1 明緑灰色	変質流紋岩 鉄錆付着	A111
509	2区 SD240	環状未成品	(76.0)	23.0	(17.0)	(32.0)	5GY7/1 明オリーブ灰色	変質流紋岩	A114
510	2区 SD240	環状未成品	(65.0)	25.0	19.0	(42.9)	2.5GY7/1 明オリーブ灰色	変質流紋岩	E196
511	2区 包含層	石針	24.0	2.5	3.0	0.3	5B2/1 青黒色	無斑晶質安山岩	Y22
512	2区 AA8W5	臼玉	4.1	4.1	2.0	0.1	7.5Y6/1 灰色	滑石 孔径1.5mm	A58
513	2区 SD240	管玉	22.5	8.3	8.3	2.2	5GY7/1 明オリーブ灰色	変質凝灰岩 片面穿孔	Q17
514	2区 包含層	管玉	(26.0)	7.0	(4.0)	(0.7)	2.5GY7/1 明オリーブ灰色	凝灰質頁岩 両面穿孔	Y23
515	2区 SD303	管玉未成品	16.0	12.0	10.0	2.8	7.5GY3/1 暗緑灰色	碧玉	A55
516	2区 SD303	管玉未成品	19.0	6.5	5.5	0.7	7.5GY3/1 暗緑灰色	碧玉 擦切痕2箇所	A56
517	2区 SD303	管玉未成品	13.2	6.1	6.2	0.5	5G7/1 明緑灰色	変質流紋岩	A57
518	2区 SD303	管玉未成品	9.0	5.5	4.5	0.3	7.5GY3/1 暗緑灰色	碧玉	A54
519	2区 SD303	勾玉	8.5	6.5	2.0	0.2	2.5G3/4 緑色	蛇紋岩	G19
520	2区 SD244	丁字頭定形勾玉	(13.0)	(20.0)	(7.0)	(1.9)	5GY7/4 明緑灰色	変質凝灰岩 孔周囲溝3条	N16
521	2区 SD240	勾玉未成品	26.5	16.0	6.5	4.3	10GB4/1 暗青灰色	滑石	G16
522	2区 SD244	勾玉	31.0	20.0	11.5	9.2	10Y7/1 灰白色	曹長石 片面穿孔	G17
523	2区 SD303	勾玉	15.0	8.5	2.5	0.5	2.5GY4/1 暗オリーブ灰色	滑石	G18
524	2区 SD240	石鏃	(28.0)	19.0	4.0	(2.3)	N4/ 灰色	無斑晶質安山岩 凹基式	TM 276
525	2区 包含層	石鏃	26.0	16.5	4.5	1.5	N4/ 灰色	無斑晶質安山岩 凹基式	N13
526	2区 包含層	石鏃	(25.0)	14.0	5.0	(1.4)	N2/ 黒色	頁岩 凹基式	A49
527	2区 包含層	石鏃	(19.0)	15.0	4.0	(1.0)	N3/ 暗灰色	頁岩 凹基式	A50
528	2区 包含層	石鏃	16.0	14.0	3.0	0.5	N2/ 黒色	頁岩 凹基式	A51
529	2区 包含層	石鏃	26.0	19.0	7.0	2.7	N4/ 灰色	無斑晶質安山岩 平基式	N12
530	2区 包含層	石鏃	26.0	13.0	3.0	1.5	10Y4/1 灰色	無斑晶質安山岩 平基式	A45
531	2区 包含層	石鏃	35.0	13.0	6.0	3.6	N4/ 灰色	無斑晶質安山岩 凸基無茎式	A46
532	2区 包含層	石鏃	36.0	12.0	3.5	1.8	N4/ 灰色	無斑晶質安山岩 平基式	N14
533	2区 包含層	石鏃	(27.0)	14.0	4.5	1.6	N4/ 灰色	無斑晶質安山岩 凸基無茎式	A47
534	2区 包含層	石鏃	23.0	16.0	4.0	1.5	N4/ 灰色	無斑晶質安山岩 平基式	A43
535	2区 包含層	石鏃	(36.0)	13.0	8.3	(2.6)	N4/ 灰色	無斑晶質安山岩 凸基有茎式	N15
536	2区 包含層	石鏃	25.0	15.0	4.0	0.9	2.5Y5/6 黄褐色	珪質頁岩 凸基有茎式	A52
537	2区 包含層	石鏃？	23.0	27.0	47.0	1.8	N4/ 灰色	無斑晶質安山岩 平基式	A44

第6章　総　括

第1節　遺跡の様相

本遺跡は金沢市の西部臨海地区に所在する縄文時代以降の複合遺跡である。石川県埋蔵文化財センターと本市埋蔵文化財センターによって広い面積が調査されており、多くの成果が上がっている。

既刊書によると、弥生時代、古墳時代と中核的な様相を呈しており、特に古墳時代中・後期の遺物量は他遺跡を凌駕する。

奈良時代に入ると、津湊に関する墨書土器や官衙に関する木簡が出土しており、8世紀前半から中頃にかけての加賀郡津に比定されている。河川と両側側溝の道路状遺構の間に掘立柱建物による倉庫群が建ち並ぶ景観が復元されており、河川を通じて日本海へ至る水運の拠点としての様相が明らかとなっている。同時期の墨書土器には「津司」があるが、『続日本紀』養老四(720)年正月丙子条「渡嶋津軽の津司従七位上諸君鞍男ら六人を靺鞨国に遣して、その風俗を観せしむ」とみえ、津の管理者や渤海などとの交易も担当したような役人の存在が推定される。また「語－語」や「語成人」墨書土器からは対渤海使通訳の存在が推定されており、「天平二年」墨書土器は天平二(730)年に第一次遣渤海使が帰国した際の饗応に使用されたものと考えられている。このような墨書土器と史料から、単なる津湊にはとどまらず、渤海使節が滞在した「便処」や遣渤海使が渤海へ向かう経由地としての役割を担っていたと考えられている(小嶋2004)。同じく同時期の木簡では、加賀郡司が大野郷長を召喚する内容のいわゆる「郡符木簡」が出土しており、郡符木簡は郡家か郡家関連施設で廃棄されることから、遺構や墨書土器の状況を鑑みて、郡津推定の根拠とされている。

平安時代になると、津の機能は戸水C遺跡(第3図47)へ移るようだが、遺跡自体は存続している。10世紀代は低調であり、11世紀に再び人為的な活動がみられるようになる。

中世については、11世紀から16世紀頃の遺構・遺物が確認されているが、主体は平安時代末から南北朝時代の12世紀後半～14世紀頃である。堀で囲繞された空間が検出されており、西堀と南堀は全域、北堀と東堀はその一部を確認している。南北220m、東西170mという方二町×一町半程度の空間を堀で囲繞しており、その中央東よりに道路状遺構が南北に延びている。堀の外に該当する地点にも掘立柱建物や井戸等の中世遺構が広がっており、時期も同時期である。

既刊書からみた本遺跡の概略は以上のとおりだが、本調査区では、古墳時代中・後期と奈良時代から平安時代初頭の遺物群が多く出土している。それらは、SD303からSD240・244と北流する川跡からの出土であり、流れを少しずつ変えながらも長期間にわたって同じような位置に流路があったことがわかる。川の延伸は主幹線3区SD201、主幹線4区大河跡が該当する。また、SD240から出土している平安時代末から鎌倉時代にかけての遺物も同様であり、規模は小さいながらも前時代の川跡と重複して北流し、主幹線3区のSD222、主幹線4区のSD210へと繋がっていく。出土量が多い古墳時代の遺物では、中・後期の須恵器や土師器の食膳具が多く、煮炊具では甕の長胴化や甑が組成の一定量を占めることを特徴とする。移動式竈も存在し、新たな調理方法が当該期に導入されたことを示す好例といえる。同じく大量に遺物が出土している奈良時代から平安時代では、8世紀後半から9世紀初頭頃(田嶋編年Ⅳ期、第4章参照)の土師器・須恵器が多く出土している。当該期の遺構群は8世紀中頃を境に南側から北側(本調査区に南接)に動いており(出越2012)、その動向を示すものと考えられる。

なお、紙幅の都合によって同調査区から出土した木製品や金属製品は本書に掲載できなかった。木製品では横槌や杵、多又鍬、火切臼、弓、靴、漆器椀、折敷などがあり、土製品では轆の羽口や土錘、金属製品では鎌や刀子、古銭、鉄滓などが出土しており、次巻以降の掲載を予定している。　(向井)

第２節　畝田・寺中遺跡の玉つくりについて

１．はじめに

本節では、出土した管玉・腕輪形石製品等、一般的に緑色凝灰岩と呼称される石材を用いて製作された石製品から本遺跡の特徴を述べる。なお、石製品観察表(第３表)の石材欄で、肉眼鑑定結果により碧玉・変質凝灰岩・変質流紋岩・凝灰質頁岩と記載のあるものは、本節では便宜上緑色凝灰岩として呼称を統一することをご了承願いたい。

２．畝田・寺中遺跡の玉つくり

北陸地方における玉つくりは、山陰からの文化伝搬の一要素として伝わり、福井県桜谷在田遺跡で弥生時代中期前葉のものが確認され、これにやや遅れて石川県内でも小松市八日市地方遺跡・金沢市矢木ジワリ遺跡などで生産が開始されている。中期中葉から後葉になると当該期に属するほとんどの遺跡で小規模な玉つくりが行われていたことが確認でき、畝田・寺中遺跡の本報告中においても、弥生時代中後期に属すると考えられる施溝分割技法を用いた硬質の緑色凝灰岩製の石核(497)および管玉未成品(515・516)がある。

古墳時代に入ると北陸における玉つくりは大きく変化し、特定支配層を対象とした宝器・祭器を生産するようになるが、本遺跡でも腕輪形石製品の製作工程である円盤状未成品(486～492)、環状未成品(506～510)、剉貫円盤(503)、松林山式琴柱形未成品(500)が出土している。その全てが溝出土の資料であり、明確な製作工房を比定することはできないが、調整具としての小型敲石(456・457)や加工具(485)の存在も、当該期における生産を示す補完資料となろう。

ここでは当該期において現在までに確認されている県内の石製品製作遺跡との比較をとおして、本遺跡の石製品製作遺跡としての位置付けを考えてみたい。なお、ここでの石製品製作遺跡とは腕輪形石製品等の未成品および剉貫円盤、剉貫円盤からの製作が想定される紡錘車形石製品が出土した遺跡を対象としている。この条件で県内で現在までに確認されている石製品製作遺跡は24を数え、主なものを第34図に示した。製作遺跡の分布は北加賀地域、能美地域、江沼地域に集中しているが、調査例の多寡が影響していることが推察されている。

車輪石および石釧の未成品のみを検出した遺跡が多い中で、鍬形石その他の未成品が出土した遺跡が存在する。威信財としての腕輪形石製品には鍬形石・車輪石・石釧の順に緩やかな階層性があることが指摘されており、階層上位の鍬形石未成品を伴う遺跡は加賀市片山津玉造遺跡や片山津城山遺跡、富塚遺跡など江沼地域に集中している。北加賀地域の金沢市藤江Ｂ遺跡で原石として報告されているものが鍬形石未成品となる可能性があるものの、少々小型である。白山市浜竹松Ｂ遺跡では38点に及ぶ腕輪形石製品未成品が出土しているが、すべてが外径11cm 未満であり、鍬形石や大型車輪石未成品と確認できる資料はなく、これらのことから階層的に上位である大型の腕輪形石製品については、限られた特定の遺跡で生産されていた可能性が指摘されている。

腕輪形石製品以外の未成品が確認された遺跡もまた限られており、羽咋市の太田ニシカワダ遺跡で鎌形未成品が２点、金沢市藤江Ｃ遺跡で琴柱形未成品１点、片山津玉造遺跡で鎌形未成品２点、合子形未成品１点が確認されているのみである。先述した上位階層性と関連づけるならば、これらの石製品を生産する遺跡もまた限定されていた可能性があるといえよう。本遺跡では県内初となる松林山式琴柱形石製品未成品の出土があり、県内に存する多くの石製品製作遺跡の中でも特例として注目される。また、本遺跡で出土した車輪石(501)は完成品の断片と考えられるが、断面に層理状の縞模様が観察でき、北加賀産石材で製作される他の未成品等と石材産地を異にする。これは周辺に存在する他

遺跡では確認されておらず、この車輪石が本遺跡で生産されたものと考えるならば、県内における石製品製作の1拠点として、あわせて本遺跡の特徴を示す資料となろう。

本遺跡の東方およそ200mには、河川跡から古墳時代初頭の弧帯文板・漆塗木杖の出土をみた畝田遺跡がある。漆塗木杖は頭部のみの出土であるが、その形状は松林山式琴柱形石製品と同様にみえる。畝田遺跡出土の弧帯文板および漆塗木杖は、当時この地域が中央と強い結びつきを持っていたことを示す資料であると考えられ、本遺跡の石製品製作遺跡としての性格を考えるうえで参考となろう。

3．まとめ

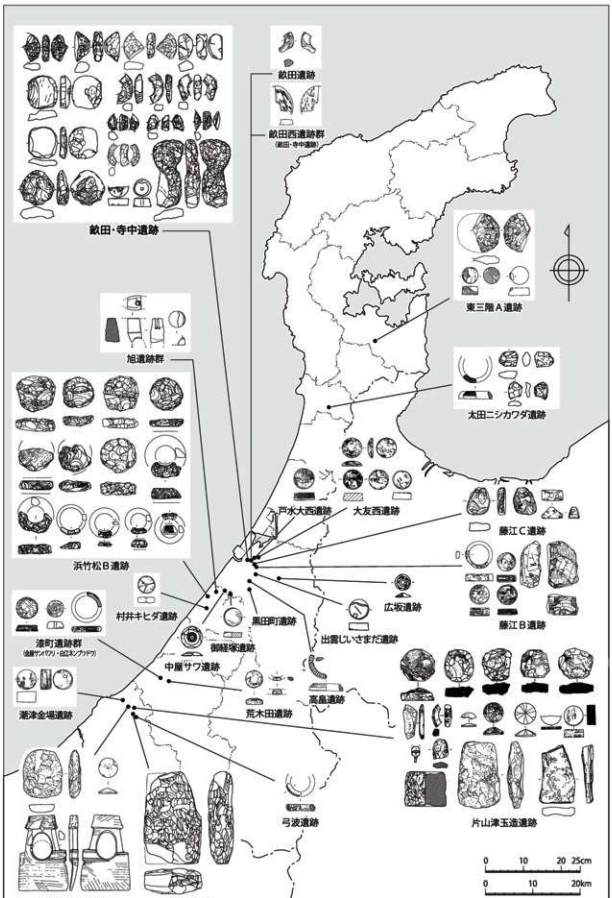
以上を総括すると、本遺跡の玉つくりは弥生時代中後期から始まっており、そこでは周辺当該期の集落と同じく施溝分割の技法を用いた管玉生産が行われていたと考えられる。古墳時代に入ると威信財としての腕輪形石製品、大型の琴柱形石製品、おそらくはその他各種の宝器をも製作する、北陸における石製品生産の1拠点としての性格を有する遺跡として捉えることが可能であるといえよう。

（景山）

再掲：石材鑑定対照表

平成14年度～16年度にかけて行った木曳野遺跡群発掘調査の発掘調査において出土した石製品のうち110点について、パリノ・サーヴェイ株式会社に委託し肉眼観察による石材鑑定を行っている（第1分冊 P25～29）。今回報告文についてここに再掲し、第1分冊との対照を図ることとしたい。なお、詳細については第1分冊を参照願いたい。

番号	器種	図版一番号	対照表一番号	鑑定石材	備　考	実測番号
1	勾玉	第33図－522	表18－1	蛇紋岩	2区 SD244	G17
2	硯	第32図－484	表18－2	粘板岩	2区 SD244	G14
3	管玉	第33図－513	表18－3	変質凝灰岩	2区 SD240	O17
4	勾玉 未成品	第33図－521	表18－4	滑石	2区 SD240	G16
5	勾玉	第33図－523	表18－5	滑石	2区 SD303	G18
6	臼玉	第33図－512	表18－8	滑石	2区 AA 8 W 5	A58
7	丁字頭 定形勾玉	第33図－520	表18－9	変質凝灰岩	2区 SD244	N16
8	石錘	第33図－502	表18－14	変質凝灰岩	1区 包含層	G24
9	勾玉	第33図－519	表18－15	蛇紋岩（滑石）	2区 SD303	G19
10	有孔円盤	第33図－504	表19－1	凝灰質頁岩	2区 SD222	Y13
11	管玉 未成品	第33図－518	表19－3－3	碧玉	2区 SD303	A54
12	管玉 未成品	第33図－515	表19－3－4	碧玉	2区 SD303	A55
13	管玉 未成品	第33図－516	表19－3－5	碧玉	2区 SD303	A56
14	管玉 未成品	第33図－517	表19－3－6	変質流紋岩	2区 SD303	A57
15	石錘	第33図－529	表19－4－1	無斑晶質安山岩	2区 包含層	N12
16	石錘	第33図－525	表19－4－2	無斑晶質安山岩	2区 包含層	N13
17	石錘	第33図－532	表19－4－3	無斑晶質安山岩	2区 包含層	N14
18	石錘	第33図－535	表19－4－4	無斑晶質安山岩	2区 包含層	N15
19	石錘	第33図－526	表19－5－1	頁岩	2区 包含層	A49
20	石錘	第33図－527	表19－5－2	頁岩	2区 包含層	A50
21	石錘	第33図－528	表19－5－3	頁岩	2区 包含層	A51
22	石錘	第33図－536	表19－5－4	珪質頁岩	2区 包含層	A52
23	石錘	第33図－534	表19－6－1	無斑晶質安山岩	2区 包含層	A43
24	石錘？	第33図－537	表19－6－2	無斑晶質安山岩	2区 包含層	A44
25	石錘	第33図－530	表19－6－3	無斑晶質安山岩	2区 包含層	A45
26	石錘	第33図－531	表19－6－4	無斑晶質安山岩	2区 包含層	A46
27	石錘	第33図－533	表19－6－5	無斑晶質安山岩	2区 包含層	A47
28	石針	第33図－511	表19－7－1	無斑晶質安山岩	2区 包含層	Y22
29	管玉	第33図－514	表19－7－2	凝灰質頁岩	2区 包含層	Y23



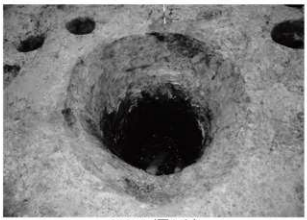
第34図　石川県における石製品製作遺跡

SB508（西から）

SB701（西から）

SK208（南東から）

SK209（南から）


SE251（西から）

SE252（南から）

SD222・SD259（東から）

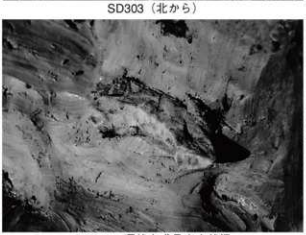
SD222・SD240（北西から）

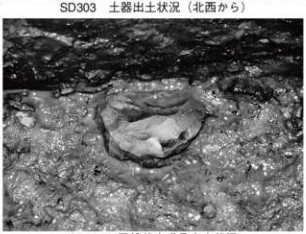
SD244・SD240（南西から）

SD240　土器出土状況（北東から）

SD303（北から）

SD303　土器出土状況（北西から）


SD240　環状未成品出土状況


SD240　円盤状未成品出土状況

SD244　勾玉出土状況

作業風景

37

111

71

112

123

136

137

219

264

277

291

324

350・351・353・354

382

360

362

425

402

407

415

421

434

437

438

小型敲石（456・457）

打製石斧・磨製石斧（461・462・463）

石錘（466・467・469・470）

砥石（471～474・476・477）

石皿（479・480）

石刀（481）

磨製石剣・両刃石器（482・483）

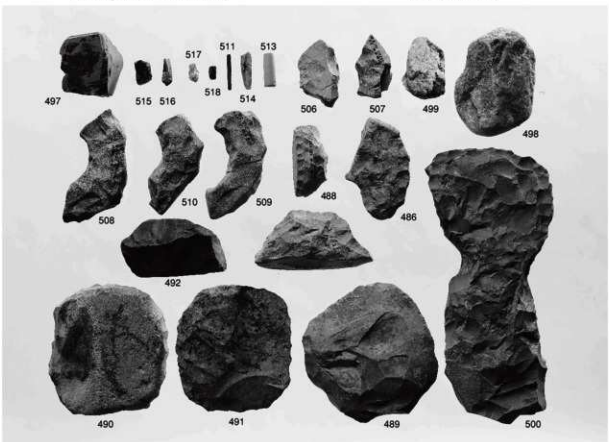
加工具（485）

車輪石・石釧・刳貫円盤（501～503）

有孔円盤・紡錘車（504・505）

臼玉・勾玉（512・519～523）

石鏃（524～537）



畝田・寺中遺跡出土の玉つくり関連遺物

【第５・６章　引用・参考文献】

伊藤雅文　2008　「古墳時代の王権と地域社会」学生社

伊藤雅文　2011　「古墳時代石製品製作における回転機材について」『勝部明生先生喜寿記念論文集』

大賀克彦　2002　「弥生・古墳時代の玉」『考古資料大観９　弥生・古墳時代』小学館

河村好光　2010　『倭の玉器　玉つくりと倭国の時代』青木書店

小嶋芳孝　2004　「北加賀の古代遺跡４～古代加賀の港湾と史的背景～」『石川考古学研究会々誌　第47号』石川考古学研究会

出越茂和　2012　「古代北陸の津湊と交通」『日本海を行き交う人・モノ・文化Ⅱ』富山市教育委員会

平井　勝　1991　「弥生時代の石器」ニュー・サイエンス社

平川　南　2006　「特論　畝田西遺跡群出土文字資料と古代港湾都市」『畝田西遺跡群Ⅵ』

北條芳隆　2002　「古墳時代前期の石製品」『考古資料大観９　弥生・古墳時代』小学館

三浦俊明　2007　「北陸における古墳時代前期の石製品生産」『石川県立博物館紀要第19号』

向井裕知　2010　「中世加賀の町場と区画」『中世都市研究15　都市を区切る』新人物往来社

石川考古学研究会　1996　『石川県考古資料調査・集成事業報告書　武器・武具・馬具Ⅰ』

石川考古学研究会　1997　『石川県考古資料調査・集成事業報告書　祭祀具Ⅱ』

石川考古学研究会　2000　『石川県考古資料調査・集成事業報告書　装身具Ⅱ』

石川考古学研究会　2001　『石川県考古資料調査・集成事業報告書　補遺編』

大阪府立弥生文化博物館　2005　『北陸の玉と鉄』

石川県立埋蔵文化財センター　1991　『宮丸遺跡・村井北遺跡・北出遺跡・村井キヒダ遺跡・米永古屋敷遺跡』

石川県立埋蔵文化財センター　1991　『畝田遺跡』

石川県立埋蔵文化財センター　1997　『潮津遺跡群』

（財）石川県埋蔵文化財センター　2000　『金沢市藤江Ｃ遺跡Ⅲ』

（財）石川県埋蔵文化財センター　2001　『金沢市藤江Ｂ遺跡Ⅰ』

（財）石川県埋蔵文化財センター　2001　『金沢市藤江Ｃ遺跡Ⅰ』

石川県教育委員会　2002　『金沢市藤江Ｂ遺跡』

石川県教育委員会　2005　『金沢市畝田西遺跡群Ⅱ』

石川県教育委員会　2006　『金沢市畝田西遺跡群Ⅲ』

石川県教育委員会　2006　『金沢市畝田西遺跡群Ⅳ』

石川県教育委員会　2006　『金沢市畝田東遺跡群Ⅲ』

石川県教育委員会　2009　『七尾市東三階Ａ遺跡』

加賀市教育委員会　1963　『加賀片山津玉造遺跡の研究』

金沢市教育委員会　1994　『金沢市藤江Ｂ遺跡（第２次）』

金沢市　2000　『戸水大西遺跡Ⅰ』

金沢市　2002　『大友西遺跡Ⅱ』

金沢市　2005　『出雲じいさまだ遺跡Ⅰ』

金沢市　2004　『金沢市史　通史編１』

羽咋市教育委員会　1999　『太田ニシカワダ遺跡』

松任市教育委員会　1993　『松任市浜竹松Ｂ（竹松北）遺跡』

報告書抄録

ふりがな	いしかわけん　かなざわし　うねだ・じちゅういせき 8
書名	石川県　金沢市　畝田・寺中遺跡Ⅷ
副書名	－木曳野遺跡群－
巻次	Ⅵ
シリーズ名	金沢市文化財紀要
シリーズ番号	288
編集者氏名	景山和也、向井裕知
編集機関	金沢市（金沢市埋蔵文化財センター）
所在地	〒920－0374　金沢市上安原南60番地　℡（076）269－2451
発行年月日	平成25（2013）年３月29日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
畝田・寺中	石川県 金沢市 寺中町、 畝田西４丁目	172014	県01499 市029	36° 36° 33°	136° 42' 33"	20020715～ 20020920 20030602～ 20031128 20040502～ 20041029	約13,760㎡	区画整理

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
畝田・寺中遺跡	集落跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安・鎌倉・室町	建物、井戸、土坑、溝、川	土師器 須恵器 陶磁器 石製品	川跡から古墳時代の土器・石器が多数出土

要約	木曳野遺跡群Ⅳで報告した古墳時代、奈良・平安時代の河川跡の続きやその他の遺構の報告を行った。主幹線２区は主に古墳時代中後期、奈良・平安時代の河川跡と平安時代末から鎌倉時代の堀が中心で、その他では掘立柱建物や素堀の井戸状土坑などが見つかっている。

石川県　金沢市

畝田・寺中遺跡Ⅷ

－木曳野遺跡群Ⅵ－

『金沢市文化財紀要』288

平成25年３月29日発行

編集　金沢市

発行　金沢市埋蔵文化財センター

〒920-0374　石川県金沢市上安原南60番地

TEL（076）269-2451　FAX（076）269-2452

印刷　株式会社 栄光プリント

〒920-0806　金沢市神宮寺3-4-17

TEL（076）251-3076